千葉県文化財センター調査報告第503集

# 木更津市田向遺跡

－県単道路改良(幹線)委託埋蔵文化財調査報告書－

平成17年 3 月

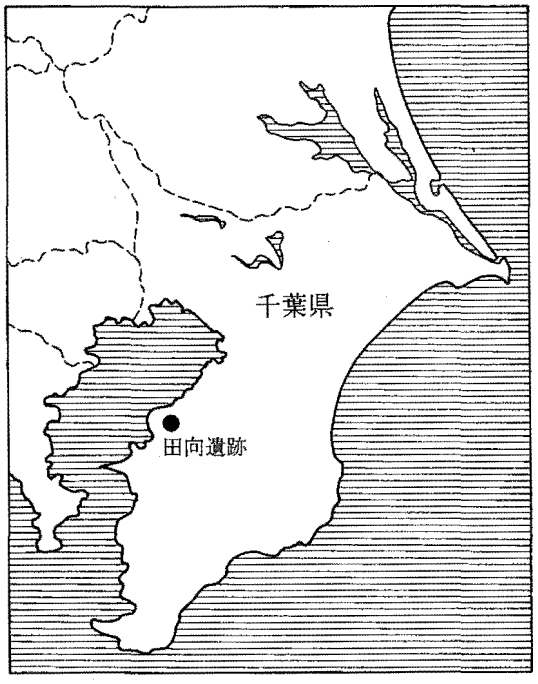
千 葉 県 県 土 整 備 部

財団法人　千葉県文化財センター

# 木更津市田向遺跡

（きさらづしたむかいいせき）

－県単道路改良（幹線）委託埋蔵文化財調査報告書－



# 序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第503集として，千葉県君津地域整備センターの県単道路(幹線)建設事業に伴って実施した木更津市田向遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，古墳時代の竪穴住居跡や井戸が検出されるなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深める資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年３月24日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清水新次

# 凡　　例

1　本書は，千葉県君津地域整備センターによる県単道路改良(幹線)中島木更津線建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書は，下記の遺跡を収録したものである。

　田向遺跡　千葉県木更津市江川986ほか　（遺跡コード206-019(1)（2）（3））

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，千葉県君津地域整備センターの委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者，実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は，南部調査事務所副所長　土屋治雄が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，千葉県君津地域整備センター，木更津市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地図は，下記のとおりである。

　第１図，第２図　国土地理院発行地形図「木更津」「奈良輪」1/25,000

　第３図　木更津市発行　　1/2,500地形図Ⅸ－LE22－１（昭和60年測量・平成６年修正）

　　1/2,500地形図Ⅸ－LE21－１（昭和60年測量・平成６年修正）

　　1/2,500地形図Ⅸ－LE22－２（昭和60年測量・平成６年修正）

　　1/2,500地形図Ⅸ－LE21－２（昭和60年測量・平成６年修正）

8　周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

10　本書で使用した遺構番号の略称は、以下のとおりである。

　ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＫ：土坑　　ＳＤ：溝　　Ｐ・ＳＨ：柱穴　　ＳＥ：井戸

　ＳＢ：掘立柱建物跡

11　本書で使用した遺構番号は，基本的に調査時の番号を踏襲した。

12　図面等におけるスクリーントーン及び記号等の用例はそれぞれに明示した。

# 本文目次

序文
凡例
第1章　はじめに……1
　第1節　調査に至る経緯と経過……1
　第2節　遺跡の位置と周辺の遺跡……2
　　1　遺跡周辺の地理的環境……2
　　2　遺跡周辺の歴史的環境……2
　第3節　調査の方法……2
　第4節　基本土層……6
第2章　検出した遺構と遺物……7
　第1節　古墳時代……10
　　1　竪穴住居跡……10
　　2　井戸状遺構……17
　　3　土坑……17
　　4　溝状遺構……20
　第2節　奈良・平安時代以降……27
　　1　掘立柱建物跡……27
　　2　井戸状遺構……27
　　3　土坑……30
　　4　溝状遺構……39
　　5　水田・畑跡……54
　　6　柱穴群……59
　第3節　遺構外出土遺物……71
第3章　まとめ……75
報告書抄録……巻末

# 挿図目次

第1図　遺跡の位置……1
第2図　周辺遺跡分布図……3
第3図　年度別調査区配置図……4
第4図　グリッド配置図……5
第5図　基本土層……6
第6図　北区遺構配置図……7
第7図　中央区遺構配置図……8
第8図　南区遺構配置図……9

第９図　古墳時代遺構配置図……11
第10図　SI-005号……12
第11図　SI-005号遺物出土状況……14
第12図　SI-006・010号 ……14
第13図　SI-005号出土遺物(1) ……15
第14図　SI-005号出土遺物(2) ……16
第15図　SE-022号 ……17
第16図　SK-002・003号と003号出土遺物 ……17
第17図　SK-009・011号……18
第18図　SK-012・013号……18
第19図　SK-021号 ……18
第20図　SZ-099号 ……18
第21図　SK-130号と出土遺物 ……19
第22図　SK-153号 ……19
第23図　SD-023・024・025号 ……21
第24図　SD-029・030・031・032号……21
第25図　SD-091・092号と091号出土遺物 ……23
第26図　SD-105・106号と105号出土遺物 ……24
第27図　SD-127号と出土遺物 ……26
第28図　SD-128号 ……26
第29図　SD-134・135号……26
第30図　奈良・平安時代以降遺構配置図……28
第31図　SB-001号 ……29
第32図　SE-007号と出土遺物 ……29
第33図　SE-090号 ……29
第34図　SE-111号 ……29
第35図　SK-050号 ……30
第36図　SK-051号 ……30
第37図　SK-052・053・054・081号……30
第38図　SK-055号 ……31
第39図　SK-056号 ……31
第40図　SK-057号と出土遺物 ……31
第41図　SK-058号 ……31
第42図　SK-068号 ……32
第43図　SK-069号 ……32
第44図　SK-072号 ……32
第45図　SK-094・095・096号 ……32
第46図　SK-098号 ……33
第47図　SK-103号 ……34
第48図　SK-112号 ……34
第49図　SK-113号 ……35
第50図　SK-133号 ……35
第51図　SK-154号と出土遺物 ……36
第52図　SK-155号と出土遺物 ……37
第53図　SK-156号 ……37
第54図　SK-157号 ……38
第55図　SK-158・161号……38
第56図　SK-159号 ……38
第57図　SK-160号 ……38
第58図　SD-001・004・008号と004号出土遺物…40
第59図　SD-008号出土遺物 ……41
第60図　溝状遺構とSD-035号出土遺物 ……44
第61図　SD-089・093・097号と089号出土遺物…46
第62図　SD-107・108・109・119号……48
第63図　SD-107号出土遺物 ……49
第64図　SD-108号出土遺物 ……49
第65図　SD-109号出土遺物 ……49
第66図　SD-122・123・124・125・126号 ……51
第67図　SD-129号 ……51
第68図　SD-136・137号……53
第69図　SD-150・151号……53
第70図　SD-162号 ……53
第71図　水田跡①③・畑跡②・SD-120号 ……55
第72図　SD-121号 ……58
第73図　中央区西側調査区柱穴群……60
第74図　中央区中央調査区柱穴群……63
第75図　北区西側調査区柱穴群……64
第76図　中央区東側調査区柱穴群……67
第77図　北区中央調査区柱穴群……67
第78図　SH-131号出土遺物 ……67
第79図　南区西側調査区柱穴群……67
第80図　南区東側調査区柱穴群……70
第81図　遺構外出土遺物……71
第82図　出土須恵器……72

# 表　目　次

第１表　遺物観察表……73

# 図版目次

図版１　田向遺跡周辺航空写真
図版２　中央区空中写真１
中央区空中写真２
北区西側調査区　調査前全景
北区西側調査区全景(南から)
北区　調査前近景(南から)
北区東側調査区全景(南から)
図版３　中央区中央調査区調査前近景(南から)
中央区中央調査区全景(北から)
南区中央調査区調査前近景(北から)
南区東側調査区調査前(南から)
南区東側調査区南側全景(南から)
南区東側調査区全景(北から)
図版４　南区西側調査区全景(北から)
トレンチ調査状況(南から)
Ｅ１トレンチ全景(南から)
Ｅ５トレンチ全景(南から)
Ｗ１トレンチ全景(南から)
Ｗ６トレンチ全景(南から)
図版５　SD-001号全景
SK-003号土層断面
SK-003,P5号全景(南西から)
SI-005号壺出土状況(南から)
SI-005号南コーナー遺物出土状況(南から)
SI-005号遺物出土状況
図版６　SI-006号全景(南から)
SE-007号全景(南東から)
SD-008号全景(南から)
SD-008遺物出土状況１(南東から)
SD-008遺物出土状況２(南東から)
SK-009・011号全景
図版７　SI-010号全景
SK-012・013・021号全景
SK-021号全景
SE-022号全景
SD-029号全景(南から)
SD-030号全景(南から)
図版８　SD-030，P1・P2・P3号全景(西から)
SD-031・032号全景(南西から)
SD-033号全景(北から)
SD-033号遺物出土状況
SD-033・034・035号全景(南から)
SD-036，SK-050・SH-082号全景(南東から)
図版９　SD-037，SK-051号全景(北西から)
SK-044，SH-075・076・077・078号(南東から)
SK-047・048号全景(北東から)
SK-052・081，SH-045・079・080号全景(南東から)
SK-052，SH-074号全景(南東から)
SK-056号全景(西から)
図版10　SK-057号全景(南東から)
SK-058号全景(北東から)
SH-059号耕作痕範囲(西から)
SD-067，SK-068・069号全景(東から)
SD-071・084，SH-085・086号全景(北東から)
SK-072号全景(北から)
図版11　SH-088号ピット群全景(西から)
SD-089号全景
SE-090号全景

SK-094・095・096号全景(西から)
SD-097号全景(西から)
SK-098，SH-104号全景(南東から)
図版12　SH-100号ピット群全景(東から)
SK-103号全景(北から)
SD-105号全景(北西から)
SD-106号全景(北東から)
SD-107号全景(北西から)
SD-108号全景(南西から)
図版13　SD-108号遺物出土状況(北東から)
SD-109，SK-113号全景(東から)
SK-112号全景(東から)
SH-114号全景(西から)
SH-115号全景(南西から)
SH-117，SD-121号全景(北東から)
図版14　SH-118号全景(東から)
北区北側水田跡③(北西から)
北区畝溝群(南西から)
北区畝溝工具痕
南区南東畝溝群(北西から)
SD-122号断面(南西から)
図版15　SD-123・124・125・126号全景(北東から)
SD-127号全景(南東から)
SD-127号土玉出土状況(南西から)
SD-128号全景(南東から)
SD-129号全景(南東から)
SK-130号遺物出土状況(北から)
図版16　SH-131号遺物出土状況(北から)
SD-134号全景(南から)
SD-135号全景
SD-137号全景
SH-138・139・140・141・142・143・144号(東から)
SD-150号全景(東から)
図版17　SD-151号全景(東から)
SK-153号全景(東から)
SK-154号遺物出土状況(西から)
SK-155・159号全景(東から)
SK-158・161号全景
SK-160，SD-162号全景
図版18　SI-005号出土遺物
図版19　出土遺物(1)
図版20　出土遺物(2)
図版21　出土遺物(3)
図版22　遺構外出土遺物・出土須恵器
図版23　出土土製品(1)(2)

# 第1章　は　じ　め　に

## 第1節　調査に至る経緯と経過

千葉県君津土木事務所(現君津地域整備センター)は，木更津市の中島地区における県単道路改良(幹線)事業を計画した。

用地内には田向遺跡が所在することから，その取扱いについて，千葉県教育委員会と千葉県君津土木事務所とで慎重な協議を重ねた結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることで協議が整い，財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

田向遺跡の発掘調査は，平成11年，平成12年，平成14年の３年度にわたり３回実施した。

整理作業は，平成16年度に実施した。発掘調査及び整理作業を行った組織と担当者，期間は以下のとおりである。

発掘調査

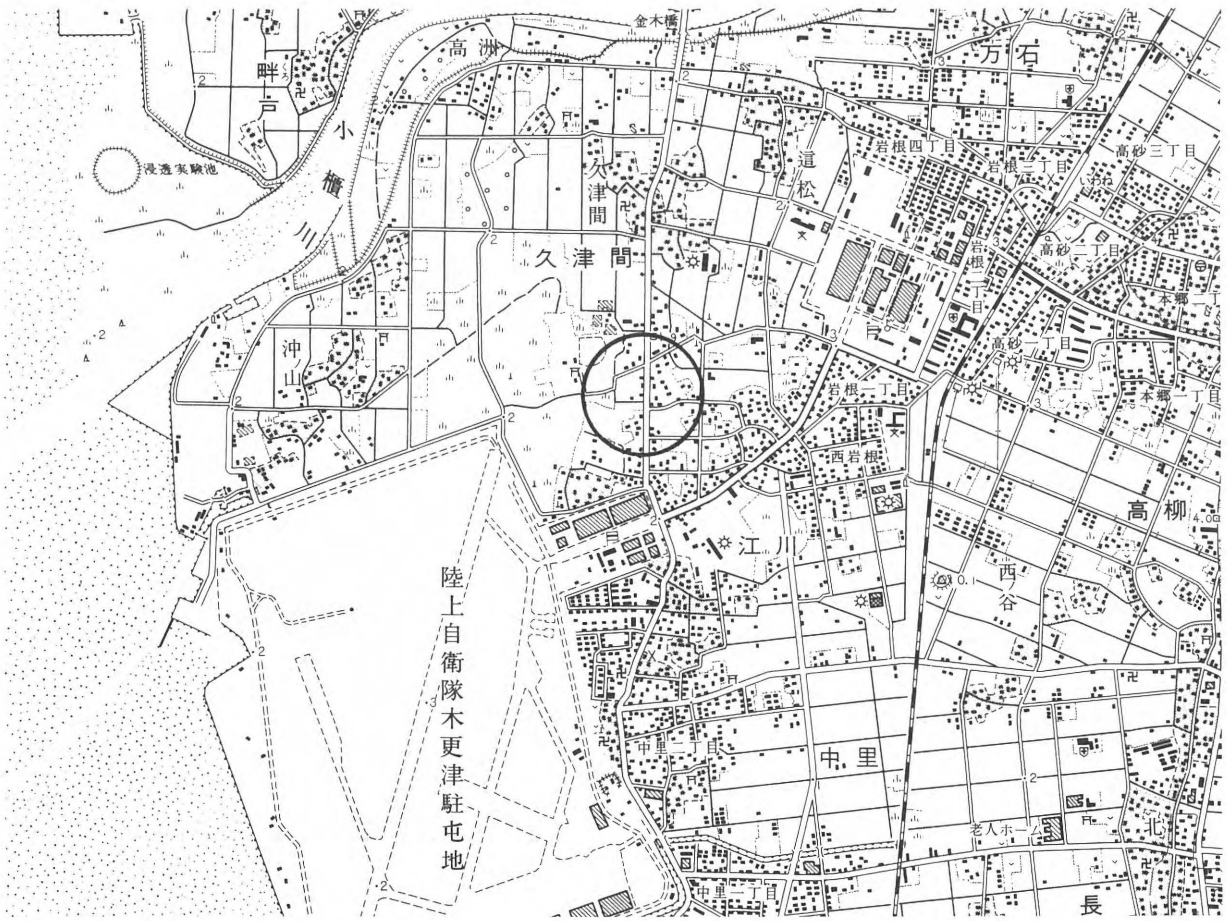
①平成11年度　期間　　平成11年10月１日から平成11年11月30日

南部調査事務所長　　高田　博

担当者　木更津調査室長　小林清隆

②平成12年度　期間　　平成12年9月1日から平成12年10月12日

南部調査事務所長　　高田　博




第１図　遺跡の位置（1/25,000）

担当者　上席研究員　渡邊昭宏

③平成14年度　期間　　平成14年11月1日から平成14年12月25日

南部調査事務所長　　鈴木定明

担当者　上席研究員　地引尚幸

整理作業

①平成16年度　期間　平成16年５月１日から平成16年８月３１日

南部調査事務所長　高田　博

担当者　副所長兼主席研究員　土屋治雄

## 第２節　遺跡の位置と周辺の遺跡

### １　遺跡周辺の地理的環境（第１図）

田向遺跡は木更津市の北西部，木更津市江川986ほかに所在する。君津市を源流とする二級河川小櫃川最下流左岸の自然堤防上に立地する。遺跡の所在する木更津市は房総半島の東京湾岸中ほどに位置しており，西側は東京湾に面し，北側で袖ケ浦市，南側で君津市，東側で市原市と接している。遺跡は，最寄りのＪＲ内房線巌根駅からは海側に直線で約1.6km，北側を流れる小櫃川までの距離は1.5km，潮干狩場になっている久津間海岸までの距離は約1.5kmであり，東京湾に向かって開いている小櫃川低地のほぼ中央部に位置する。標高は１ｍ～２ｍ前後である。

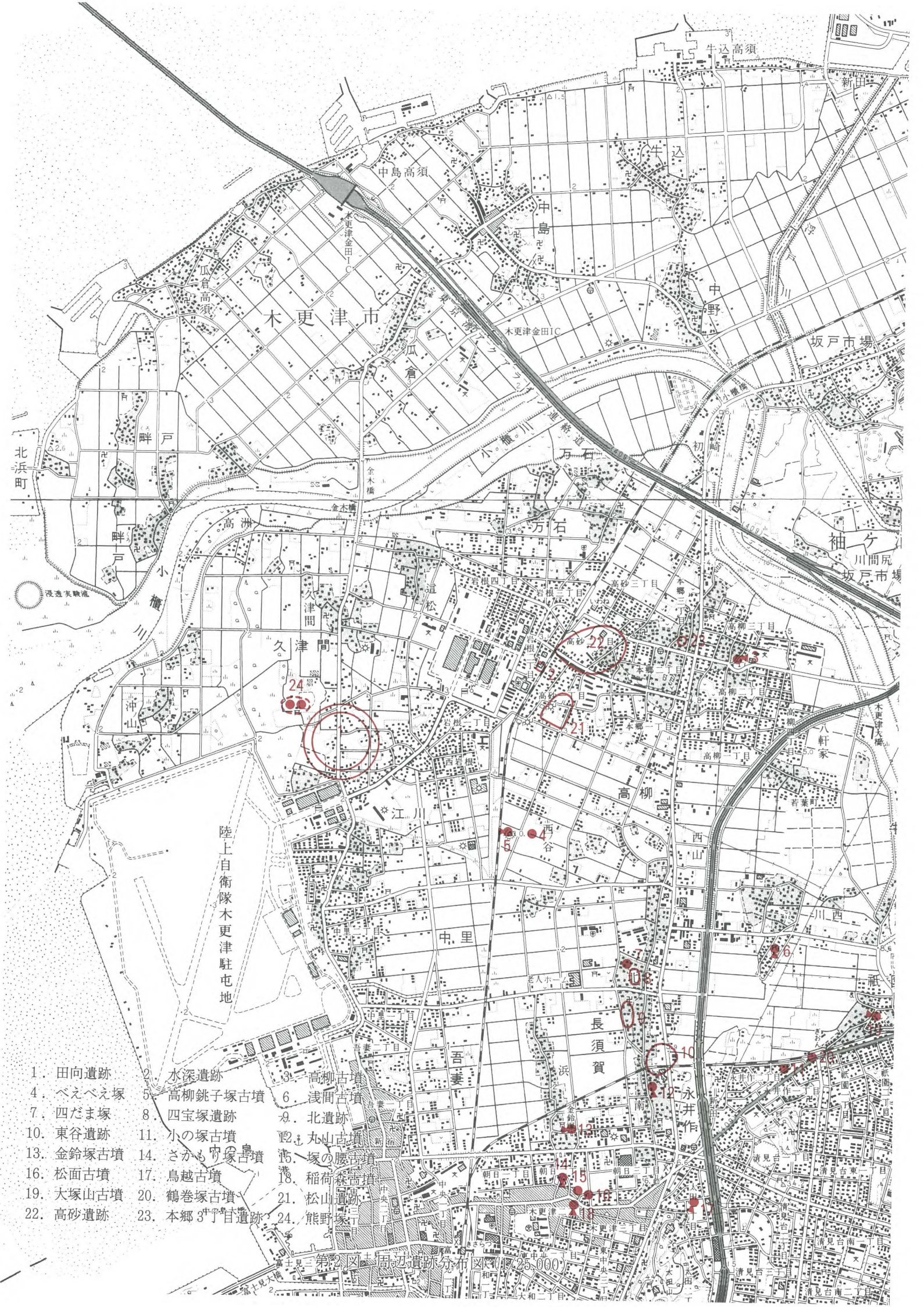
### ２　遺跡周辺の歴史的環境（第２図）

田向遺跡周辺は次のような遺跡が存在している。分布調査により存在が確認されていた遺跡や新発見の遺跡が本事業のほか各種の事業に伴って発掘調査され，遺跡の時代や内容の詳細が判明してきた遺跡が多く，周辺地域の人々の営みがわかってきている。

田向遺跡の東1.3kmには高砂遺跡があり，発掘調査によって弥生・古墳時代の住居跡や方形周溝墓33基が検出され銅釧（どうくしろ）や玉も出土している。東1.1kmにある水深遺跡は弥生後期の集落遺跡である。東1.9kmにある本郷３丁目遺跡は，弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落が検出されている。東1.4kmにある松山遺跡では弥生時代後期から平安時代にかけての集落が存在していたことが確認されている。また，小櫃川下流域の低地や台地上には数多くの古墳が確認されている。東2.3kmには前方後円墳である高柳古墳，南東1.2kmには全長132ｍの前方後円墳である高柳銚子塚古墳，南東2.8kmには全長80ｍの前方後円墳の浅間古墳のほか丸山古墳(前方後円墳)，県指定史跡であり前方後円墳の金鈴塚古墳があり，出土した金鈴ほかは国の重要文化財に指定されている。他にもさかもり塚古墳(前方後円墳)，塚の腰古墳(円墳)，松面古墳(円墳)，鳥越古墳(前方後方墳)，稲荷森古墳(前方後円墳)，祇園大塚山古墳(前方後円墳)，小の塚古墳(円墳)，鶴巻塚古墳(大形円墳)が確認されている。

## 第３節　調査の方法（第３，４図）

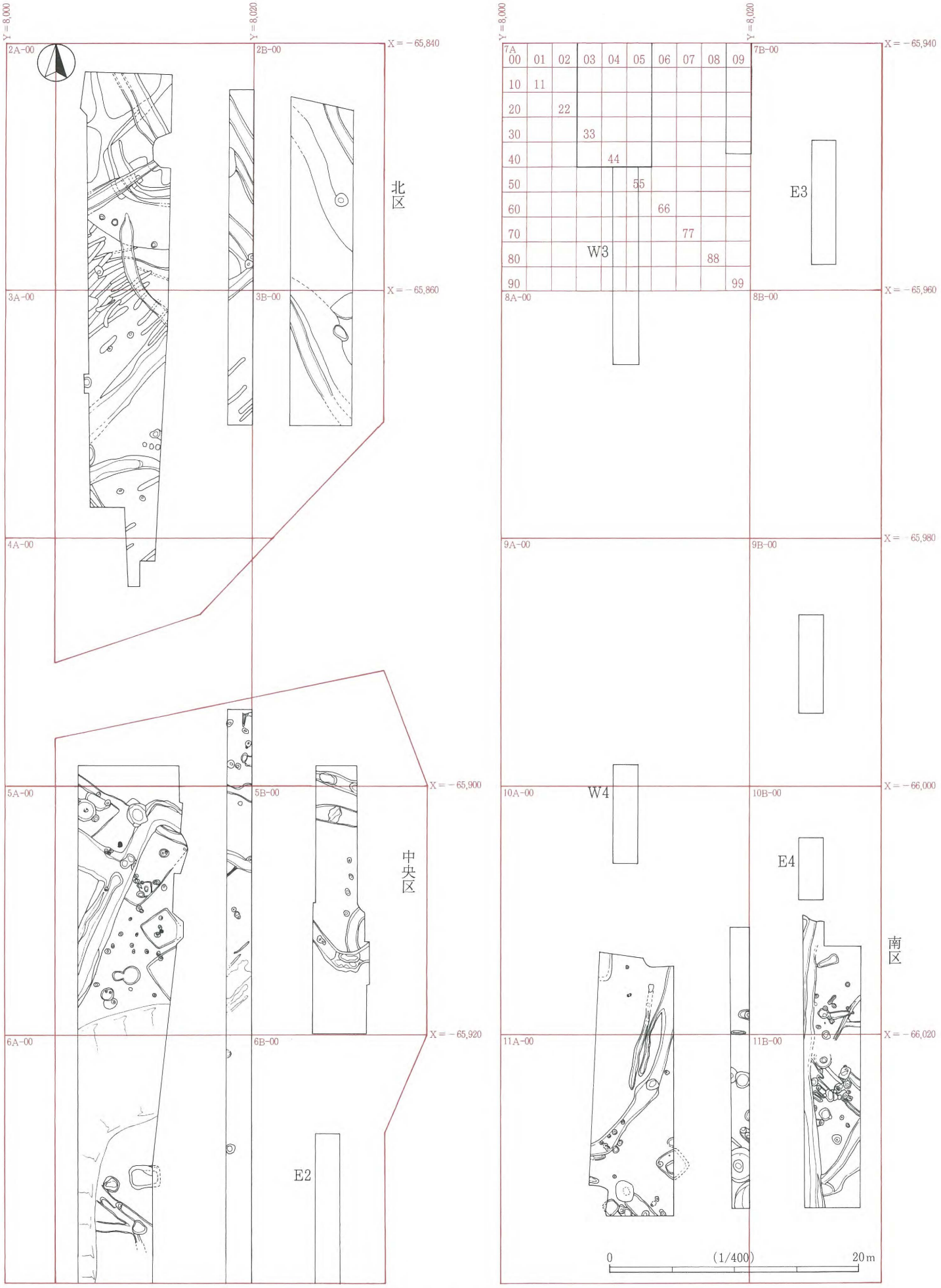
調査区は南北208ｍ，東西25ｍで南北に細長い。発掘調査の開始に際して，対象となる区域を包括するように国土地理院国家座標（第Ⅸ座標）を基準とした発掘区の設定を行った。大グリッドとして一辺20ｍとする区画を設定し，北西隅のグリッドを起点に西から東へＡ・Ｂ・Ｃ…とアルファベットの大文字を付




1．田向遺跡　2．水深遺跡　3．高柳古墳
4．べえべえ塚　5．高柳銚子塚古墳　6．浅間古墳
7．四だま塚　8．四宝塚遺跡　9．北遺跡
10．東谷遺跡　11．小の塚古墳　12．丸山古墳
13．金鈴塚古墳　14．さかもり塚古墳　15．塚の腰古墳
16．松面古墳　17．鳥越古墳　18．稲荷森古墳
19．大塚山古墳　20．鶴巻塚古墳　21．松山遺跡
22．高砂遺跡　23．本郷3丁目遺跡　24．熊野塚

第2図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

第３図　年度別調査区配置図


Y=8,000
Y=8,020
X=−65,840
X=−65,860
X=−65,900
X=−65,920
X=−65,940
X=−65,960
X=−65,980
X=−66,000
X=−66,020
2A-00
2B-00
3A-00
3B-00
4A-00
5A-00
5B-00
6A-00
6B-00
7A
7B-00
8A-00
8B-00
9A-00
9B-00
10A-00
10B-00
11A-00
11B-00
00 01 02 03 04 05 06 07 08 09
10 11
20 22
30 33
40 44
50 55
60 66
70 77
80 88
90 99
W3
W4
E2
E3
E4
北区
中央区
南区
0
(1/400)
20m

第４図　グリッド配置図

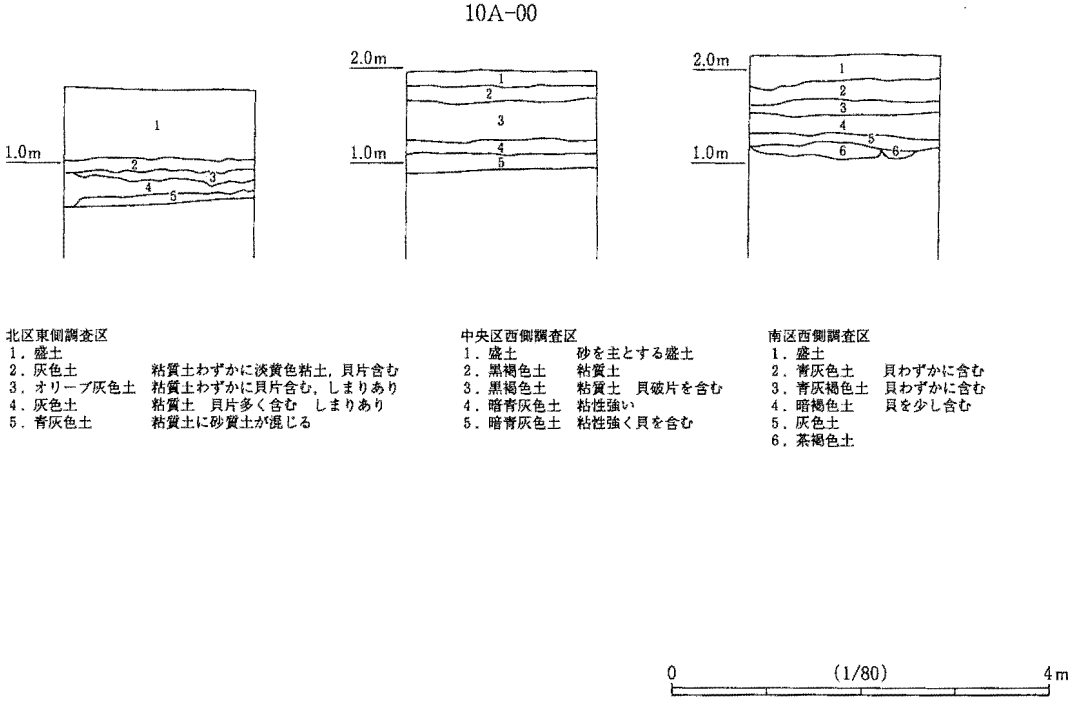
し，北から南へは１・２・３…と数字を付し，数字とアルファベットの組み合わせで大グリッドの名称とした。さらにその大グリッドを一辺２ｍの小グリッドに分割し，大グリッドの北西隅に位置する小グリッドを00とし，東へ向かって01，02，03…と，南へ向かって10，20，30…と命名し，100の小グリッドに分割して最小区域の調査区とした。

平成11年度の調査は中央調査区の西側と東側の上層確認調査と本調査を行った。調査区の状況に合わせて幅２ｍのトレンチを調査対象面積3,750㎡の6.4％に当たる242㎡について設定し，遺構・遺物の分布状況及び表土等の堆積状況などを把握する作業を行った。その結果，竪穴住居跡等の遺構が検出された2,145㎡を本調査範囲とし，その内843㎡の本調査を実施した。平成12年度の発掘調査は北区西側調査区と南区西側調査区および南区東側調査区の1,100㎡の本調査，平成14年度は北区中央調査区と北区東側調査区，中央区中央調査区および南区中央調査区の1,531㎡の本調査を実施した。

下層の調査は，ローム層が存在しないことから行っていない。

## 第４節　基本土層(第５図)

調査区全体に数十cmから１ｍの新しい時期の盛土が確認されている。盛土は北に向かって厚くなっており，砂を主体としている。盛土下は粘質の黒褐色土あるいは青灰色土であり，貝片を含んでいる。貝を含む層の下部は灰色あるいは青灰色土，茶褐色土が堆積している。遺構が確認された面はこれらの層の下の淡黄色粘質土層およびその下の灰黄褐色の砂層である。現表土層からの深さは南区で約0.9ｍ，中央区で約1.1ｍ，北区で約1.4ｍであり標高は約0.5ｍから1.1ｍである。

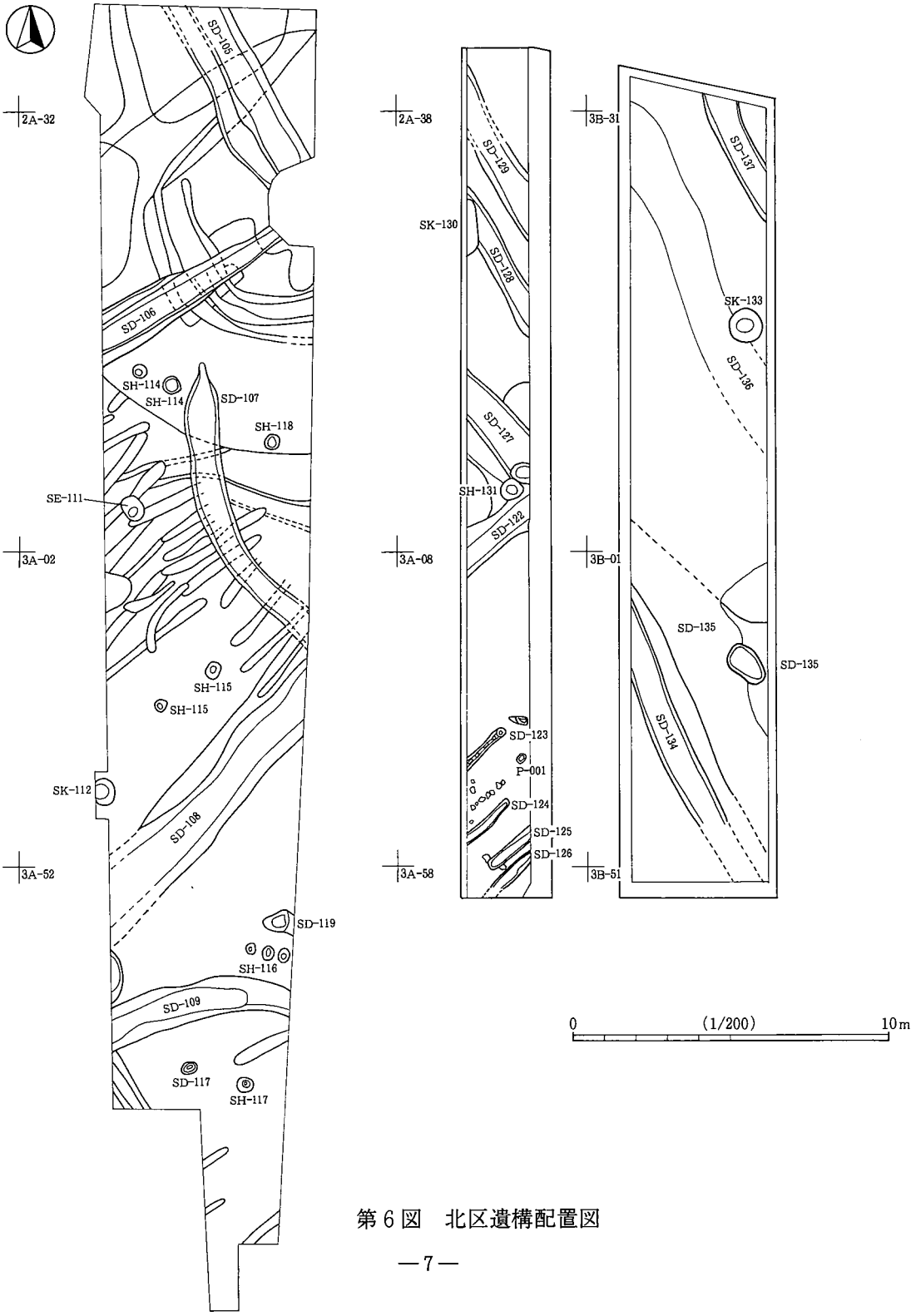



第５図　基本土層

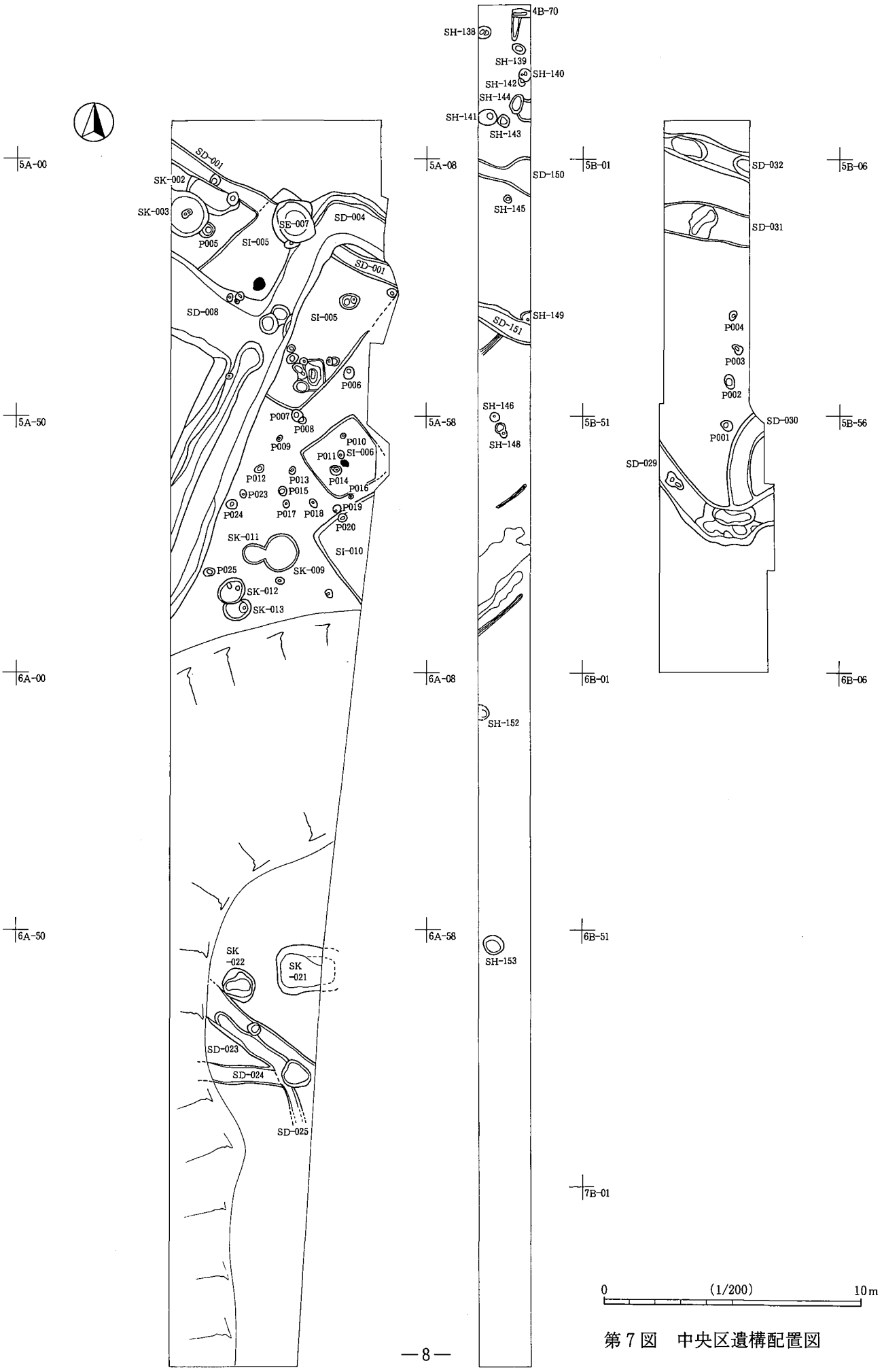
# 第2章　検出した遺構と遺物

概要

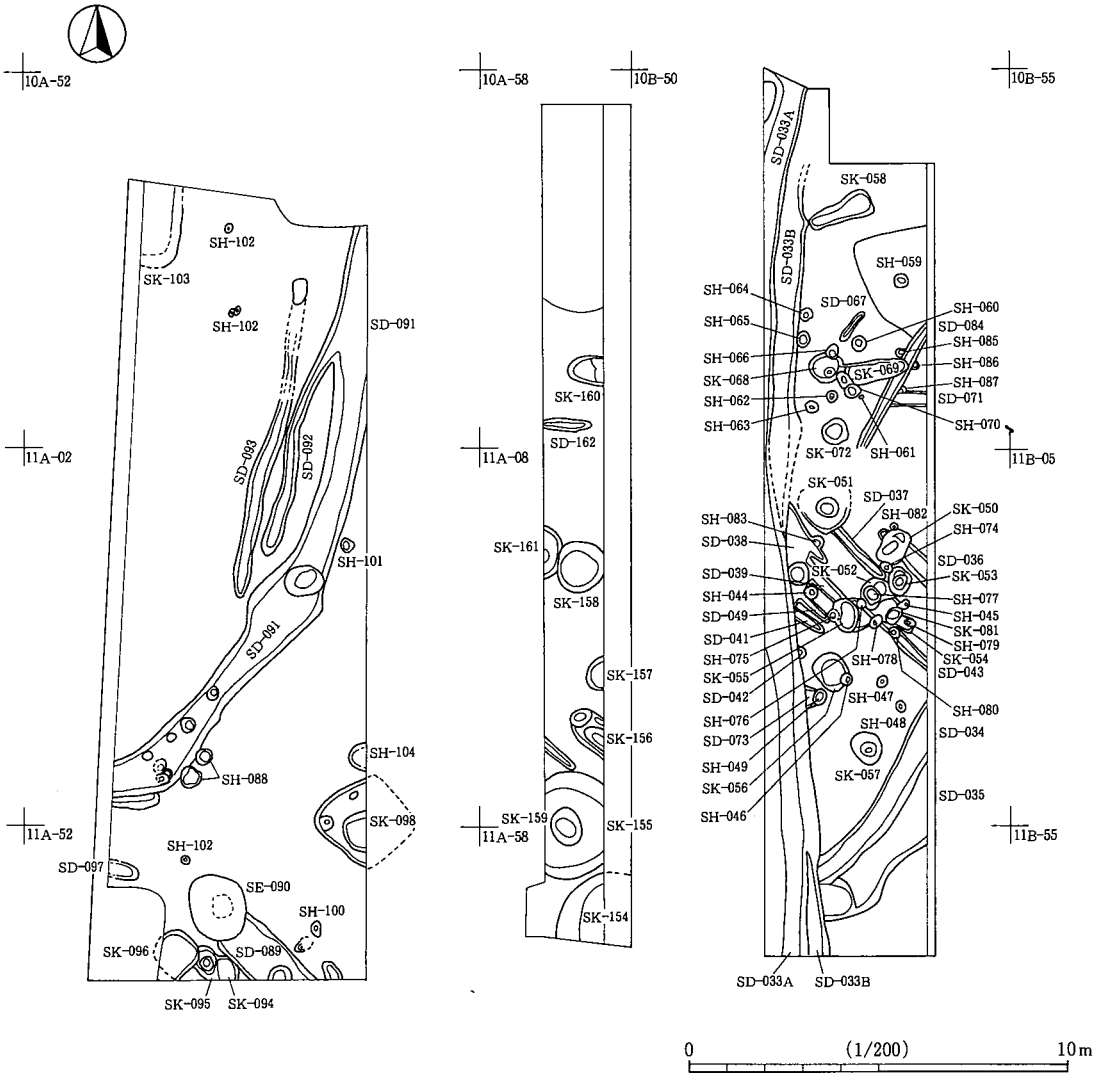
遺跡の主な時代は古墳時代と奈良・平安時代以降である。古墳時代の遺構は竪穴住居跡3軒，土坑は11基（井戸状遺構1基を含む），溝状遺構14条である。奈良・平安時代以降は掘立柱建物跡1基，井戸状遺構3基，土坑29基，溝状遺構38条，水田跡2面，畑跡2か所，柱穴85基が検出された。




第6図　北区遺構配置図




第７図　中央区遺構配置図


10A-52
10A-58
10B-50
10B-55
11A-02
11A-08
11B-05
11A-52
11A-58
11B-55
SH-102
SK-103
SD-091
SD-093
SD-092
SH-101
SH-088
SH-104
SK-098
SD-097
SE-090
SH-100
SK-096
SD-089
SK-095
SK-094
SK-160
SD-162
SK-161
SK-158
SK-157
SK-156
SK-159
SK-155
SK-154
SD-033A
SD-033B
SK-058
SH-059
SH-064
SD-067
SH-065
SH-060
SD-084
SH-085
SH-066
SH-086
SK-068
SK-069
SH-087
SH-062
SD-071
SH-063
SH-070
SK-072
SH-061
SK-051
SD-037
SH-082
SK-050
SH-083
SH-074
SD-038
SD-036
SD-039
SK-052
SK-053
SH-044
SH-077
SD-049
SH-045
SK-081
SD-041
SH-079
SH-075
SH-078
SK-054
SK-055
SD-043
SD-042
SH-047
SH-080
SH-076
SH-048
SD-073
SD-034
SH-049
SK-057
SK-056
SD-035
SH-046
0
(1/200)
10m

第８図　南区遺構配置図

## 第１節　古墳時代

### １　竪穴住居跡

ＳＩ－００５（第10・11・13・14図，図版５・18・19）

ＳＩ－００５号は５Ａ-24グリッドほかから検出された竪穴住居跡である。中央区西側調査区北端に位置する。確認調査段階でのトレンチ調査により住居の存在が確認され，拡張して平面形の確定を行った。中央に溝状遺構(SD-004・008)が入るため難しい作業であった。規模は１辺6.15ｍほどで平面形は正方形だったと思われる。住居床面の標高はおよそ1.2ｍほどである。炭化材が放射状に検出されており焼失住居と思われる。住居で使用されていたと思われる完形あるいは完形に近い土器が多く出土した。住居の主軸は北東－南西に構築されている。確認面からの壁の高さは約６㎝と低い。炉が中心部より北西側にずれて検出されている。住居入り口は南東側だった可能性が高い。炉は長径0.55ｍ，短径0.4ｍ，深さはは約３㎝ほどである。南側コーナー(出入り口左側)から貯蔵穴が検出された。柱穴は８か所検出されており，住居の対角線上に配されている。北西側柱穴(Ｐ１)は１か所のみであるが井戸状土坑(SE-007)に壊されているため遺存度は50％ほどである。上端の径は約30㎝，下端の径は約12㎝，深さは約48㎝であり，平面形は楕円形である。他はSE-007に壊された可能性が高い。北東側柱穴は長径約82㎝の穴から２か所検出されている。住居の対角線上に並んでおり，内側の柱穴(Ｐ２)は上端径約30㎝，下端径は約13㎝，深さは約57㎝でほぼ円形である。外側(Ｐ３)は上端径約28㎝，下端径約12㎝，深さは約30㎝でほぼ円形である。南東側柱穴は数㎝の間隔で２か所検出されている。やはり対角線上に配されており，内側柱穴(Ｐ４)は上端径約44㎝，下端径約16㎝，深さは約37㎝の円形である。外側柱穴(Ｐ５)は上端径約36㎝，下端径約20㎝，深さは約28㎝で円形である。南西側柱穴は３か所検出されている。対角線上に配されているが１か所は内側柱穴を切る形で掘られている。内側柱穴(Ｐ６)の上端径は約38㎝，下端径約13㎝，深さは約33㎝の円形である。この柱穴を切る形で掘られた柱穴(Ｐ７)は上端径約20㎝，下端径８㎝，深さは約17㎝の円形で，他に比べて規模が小さい。外側柱穴(Ｐ８)は上端径約36㎝，下端径約10㎝，深さは約37㎝の楕円形である。Ｐ９・10は出入口柱穴である。Ｐ９の上端径は推定56㎝，下端径は推定50㎝，深さ12㎝で，Ｐ10は上端径は32㎝，下端径８㎝，深さは14㎝である。柱穴が複数検出されていることから立替えが行われた可能性がある。

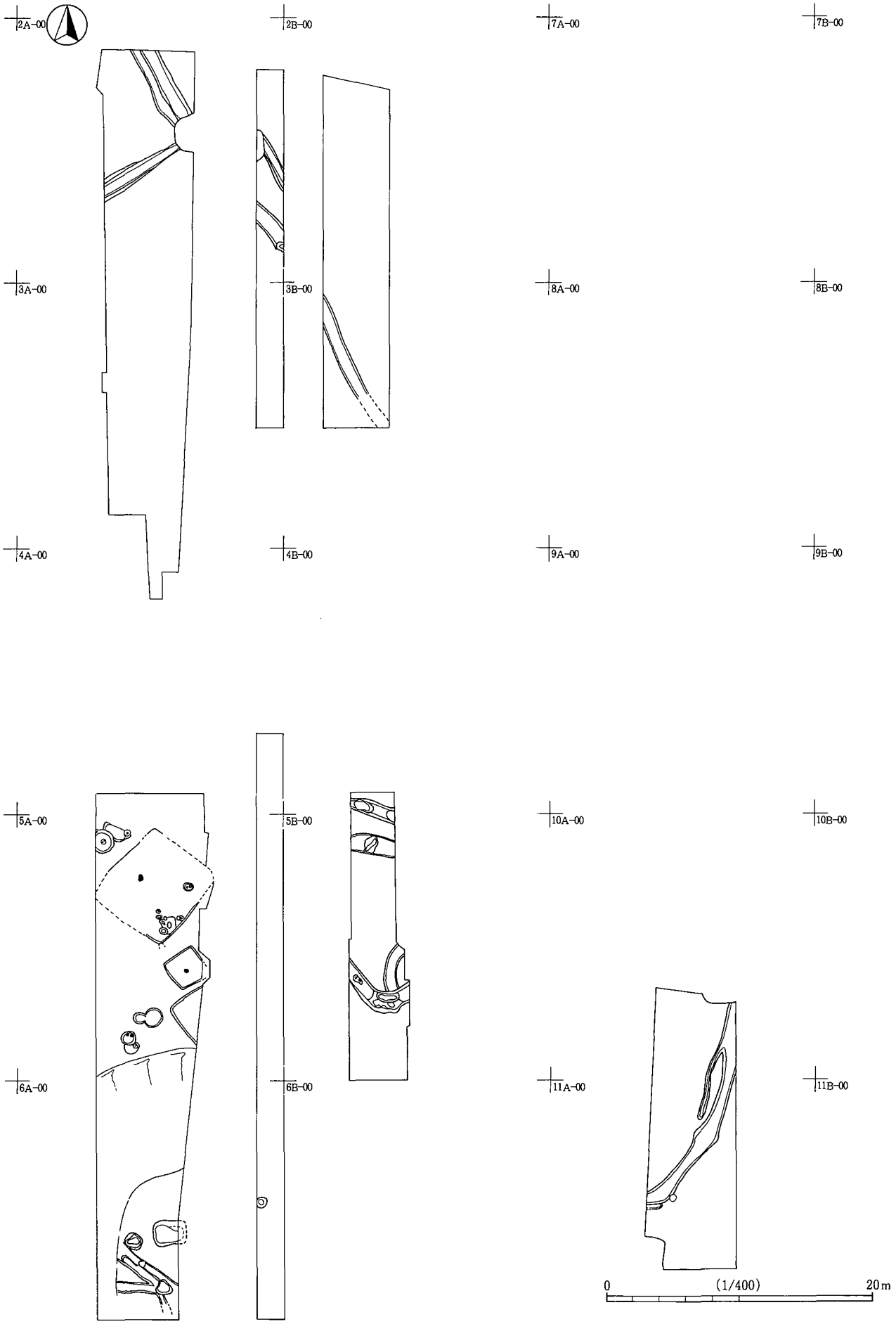
出土遺物は掲載したものを含め土師器片4,002ｇ，須恵器片579ｇ，土製品片11ｇ，礫346ｇが出土している。

１は住居南側コーナーから出土した土師器の壺である。口縁部は直線的に外反し，胴部は球形である。底部は完存し，全体の３/４が遺存している。胎土に砂粒を多量に含み色調はにぶい黄橙色から黒褐色，焼成は良好である。

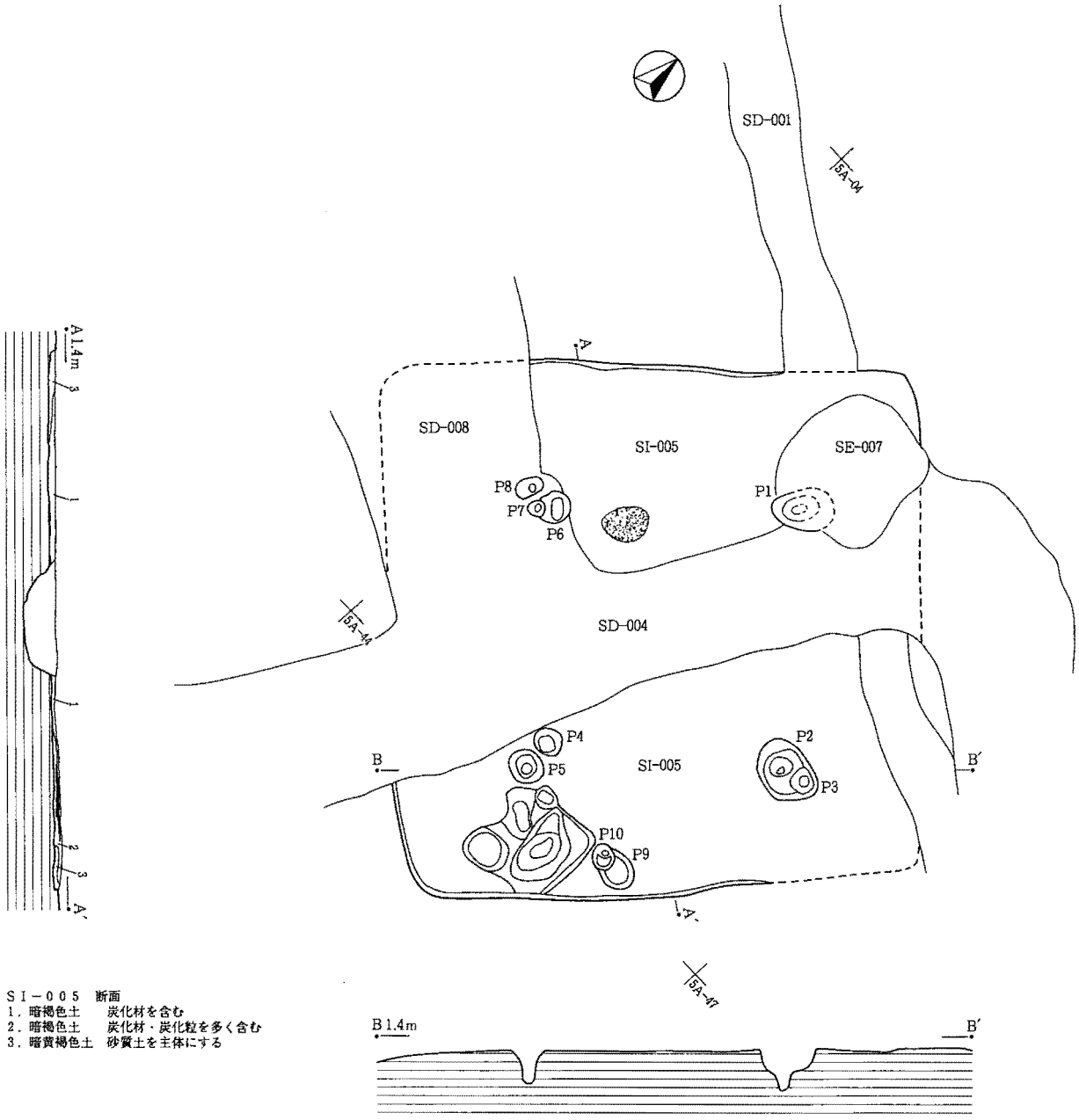
２は住居南側コーナーから出土した土師器の有段口縁の壺である。底部は完存しており口縁部は１/３が遺存している。胎土に砂粒・褐色粒を含み，色調は橙色からにぶい橙色・浅黄色で焼成は良好である。全体に摩滅していて調整痕は不鮮明であり，底部・体部に１か所の黒斑がある。

３は炉内および炉周辺から出土した土師器の甕と思われるが，口縁部の径は胴部の径よりやや小さい。口縁部は直線的に外反し胴部は球形である。

４は住居西壁の壁際から出土した土師器の小型壺である。口辺部はほぼ直線的に開き口縁部との接合部内面に明瞭な稜を持つ。底部は平底である。




第９図　古墳時代遺構配置図




ＳＩ－００５　断面
1．暗褐色土　　炭化材を含む
2．暗褐色土　　炭化材・炭化粒を多く含む
3．暗黄褐色土　砂質土を主体にする

0　(1/80)　4m

第10図　SI-005号

5は炉の北側から出土した土師器の広口壺である。口縁部の一部を欠くがほぼ完形である。口縁部の径が大きく，外反する。底部は中央部がわずかに窪んでいる。器厚が非常に薄い。

6は住居南側コーナーから出土した口縁部を欠損する土師器の坩であろうか。

7は炉の北側から出土した土師器の坏である。口径の3/4が遺存している。胎土に細砂粒を含み色調は橙色からにぶい赤褐色，焼成は良好である。

8は住居出入口付近壁際から出土した土師器の坏である。全体の1/4が遺存している。胎土に細砂粒を多量に含み，色調は灰オリーブ色から灰色で焼成は良好である。全体に摩滅しており調整は不鮮明である。

9は住居南側コーナーから出土した土師器の器台である。全体の4/5が遺存しており脚部に円形の透かし穴を3か所あけている。胎土に砂粒を含み色調は内面は黄橙色から黄灰色，外面は橙色，焼成は良好である。

10は住居出入り口付近の壁際から出土した土師器の鉢である。全体の1/2が遺存，底部は完存している。胎土に細砂粒，若干の白色針状物質を含み，色調はにぶい黄橙色から灰黄褐色で焼成は良好である。口辺部は横方向のナデ，体部に浅いヘラケズリ，底部付近は摩滅して不鮮明である。

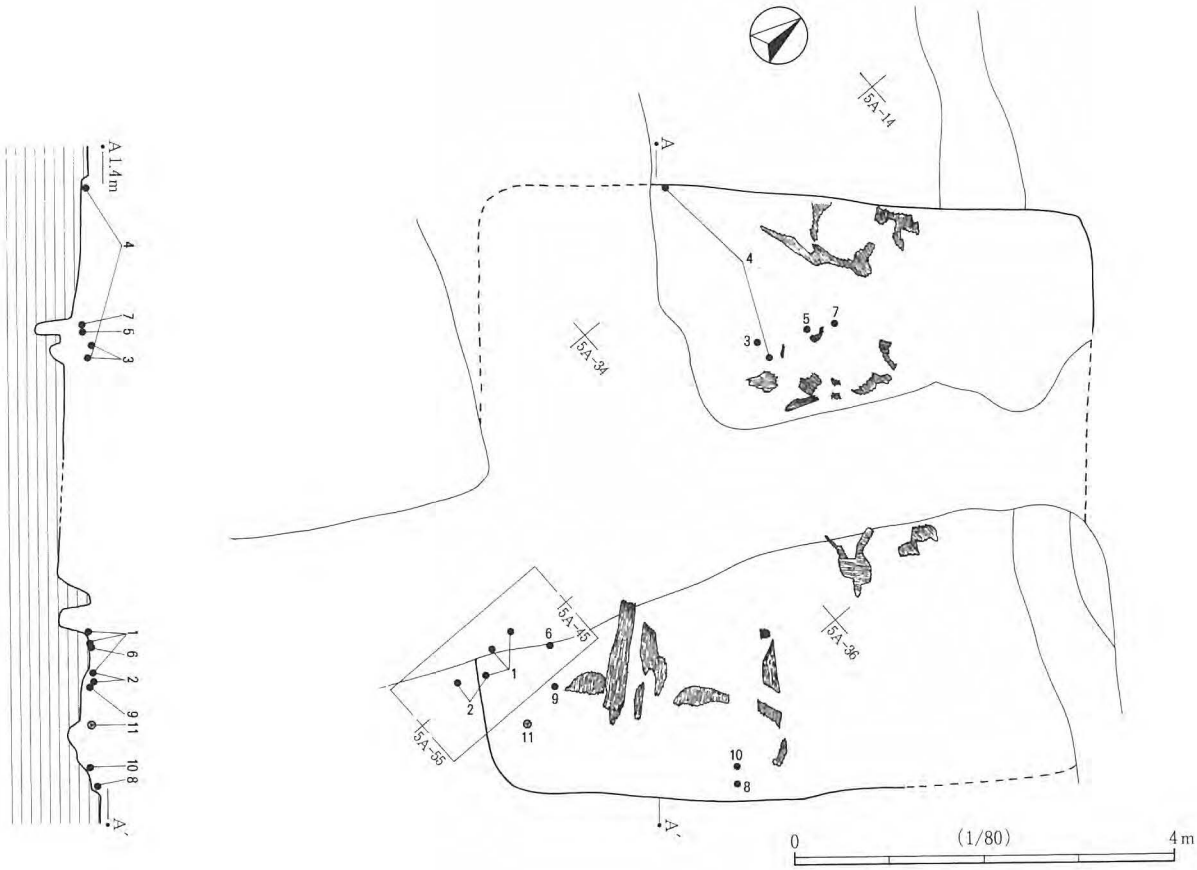
11は住居南側コーナーから出土した磨製石斧と思われる。

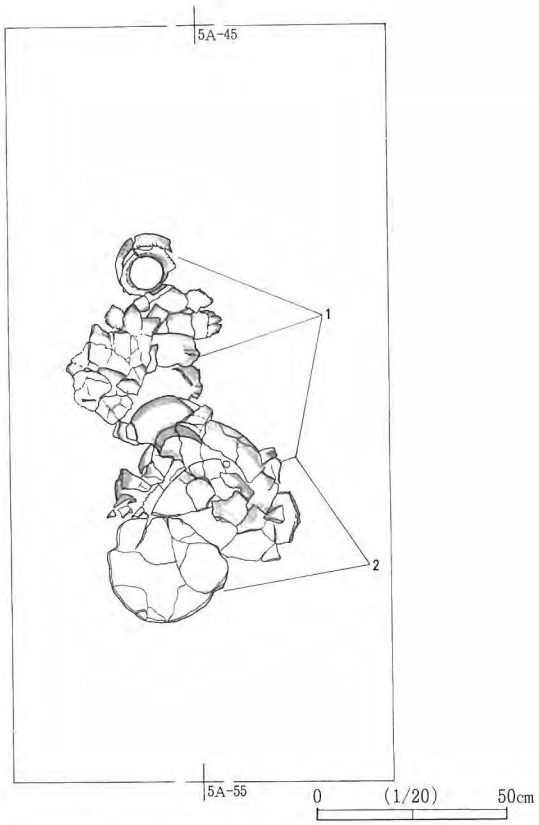
ＳＩ－００６（第12図，図版６）

ＳＩ－００６号は５Ａ-55グリッドから検出された竪穴住居跡である。中央区西側調査区に位置する。北側にＳＩ－００５が存在する。検出面で遺物の出土が認められ精査した結果，平面形が確認された。東側が攪乱を受けており不明だが規模は北東－南西2.6m，北西－南東2.5m，深さは約3cmで，平面形は正方形と思われる。床面の標高はおよそ1.3mほどである。中央よりやや南西にずれた位置に炉があることから入口は北東だった可能性がある。炉は円形で特に掘り込みはなく床面が焼土化している。柱穴は存在しないと思われる。床面を踏み固めた硬質範囲は不明確である。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。遺物は土師器片696gを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

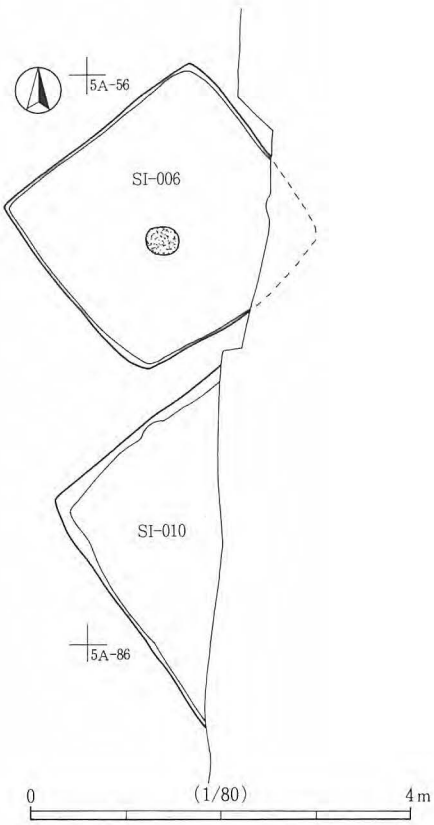
ＳＩ－０１０（第12図，図版７）

ＳＩ－０１０号は５Ａ-76グリッドから検出された竪穴住居跡である。中央区西側調査区に位置する。北側にＳＩ－００６が存在する。検出面で遺物の出土が認められ精査した結果，平面形が確認された。東側が調査不能のため調査したのは全体の1/3ほどである。規模は北東－南西2.3m，北西－南東1.8m，最大掘り込み18cmである。床面の標高はおよそ1.1mほどである。プランはＳＩ－００６よりも不明瞭だった。床面と考えられる面まで掘り下げると内側に1段低くなるような状況が観察されたがはっきりとしなかった。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。遺物は土師器片201g，須恵器片21g，自然礫34gを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

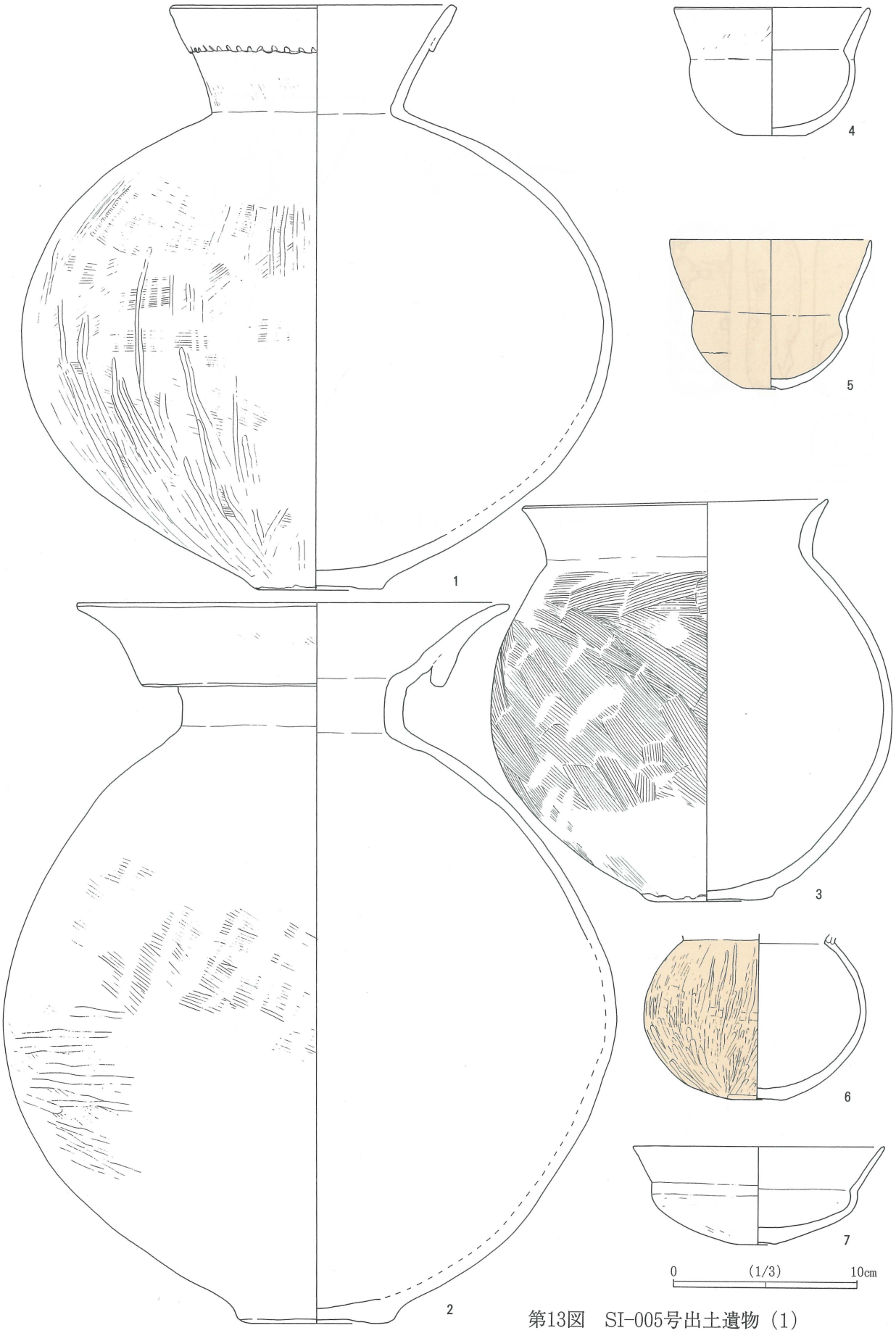


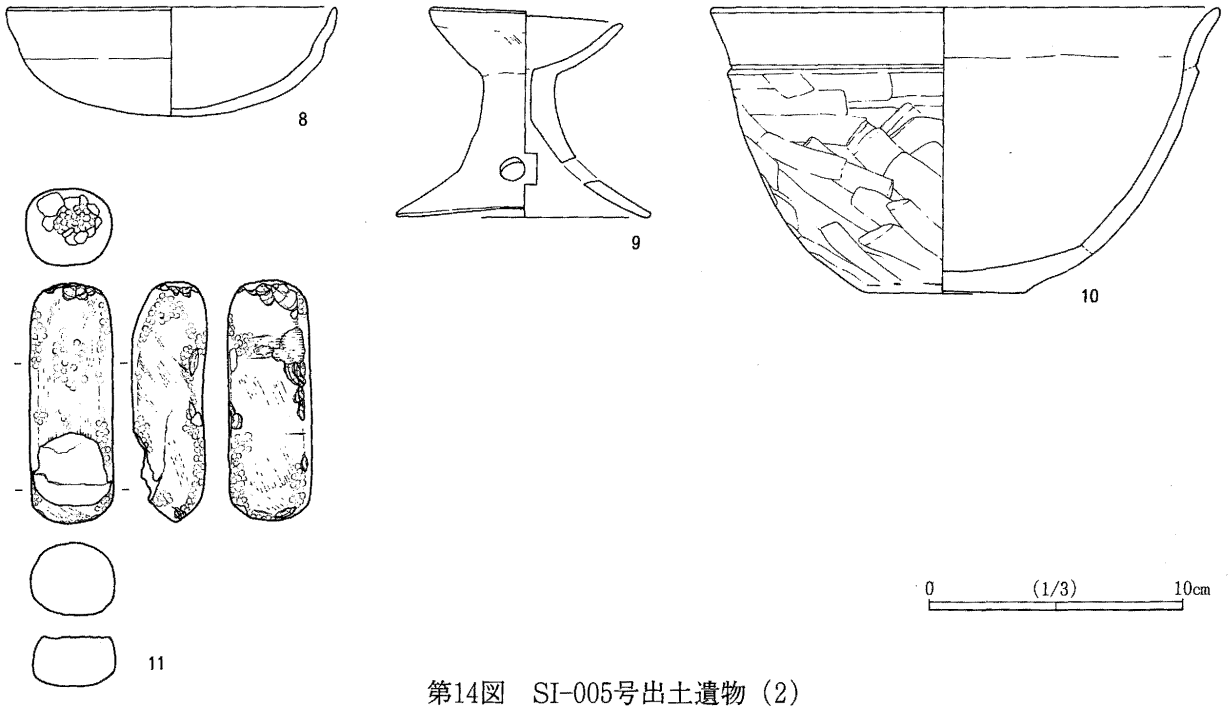

第11図　SI-005号遺物出土状況




第12図　SI-006・010号




第13図　SI-005号出土遺物（1）




第14図　SI-005号出土遺物（2）

## 2　井戸状遺構

### ＳＥ－０２２（第15図，図版７）

ＳＥ－０２２号は６Ａ-54グリッドから検出された井戸状遺構である。中央区西側調査区に位置する。開口部の径は1.25ｍのややゆがんだ円形で，確認面からの掘り込みの深さは81cmである。断面形は逆台形で，壁はやや急角度に立ち上がっている。覆土は黒灰色の粘質土が混じる青灰色の粘質土である。検出面から50cmほど掘り下げると水がかなり湧きだすため，底面は未検出で終わっている可能性がある。遺物は土師器片596ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

## 3　土坑

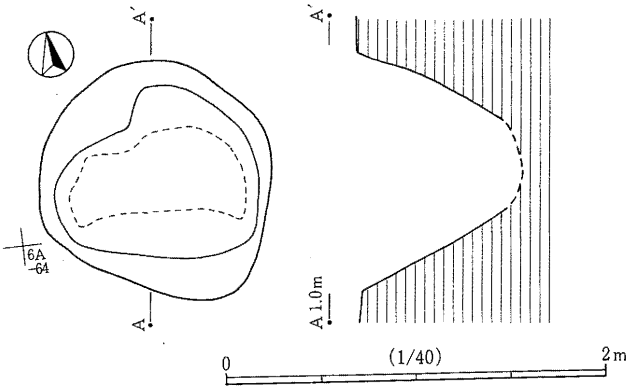
### ＳＫ－００２（第16図）

ＳＫ－００２号は５Ａ-03グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区に位置する。北側で００１号に，南側で００３号に切られている。上端部は長軸2.7ｍ，推定短軸1.8ｍで平面形は楕円形であろうか。確認面からの掘り込みの深さは10cmである。壁はゆるやかに立ち上がっている。遺物は土師器片132ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

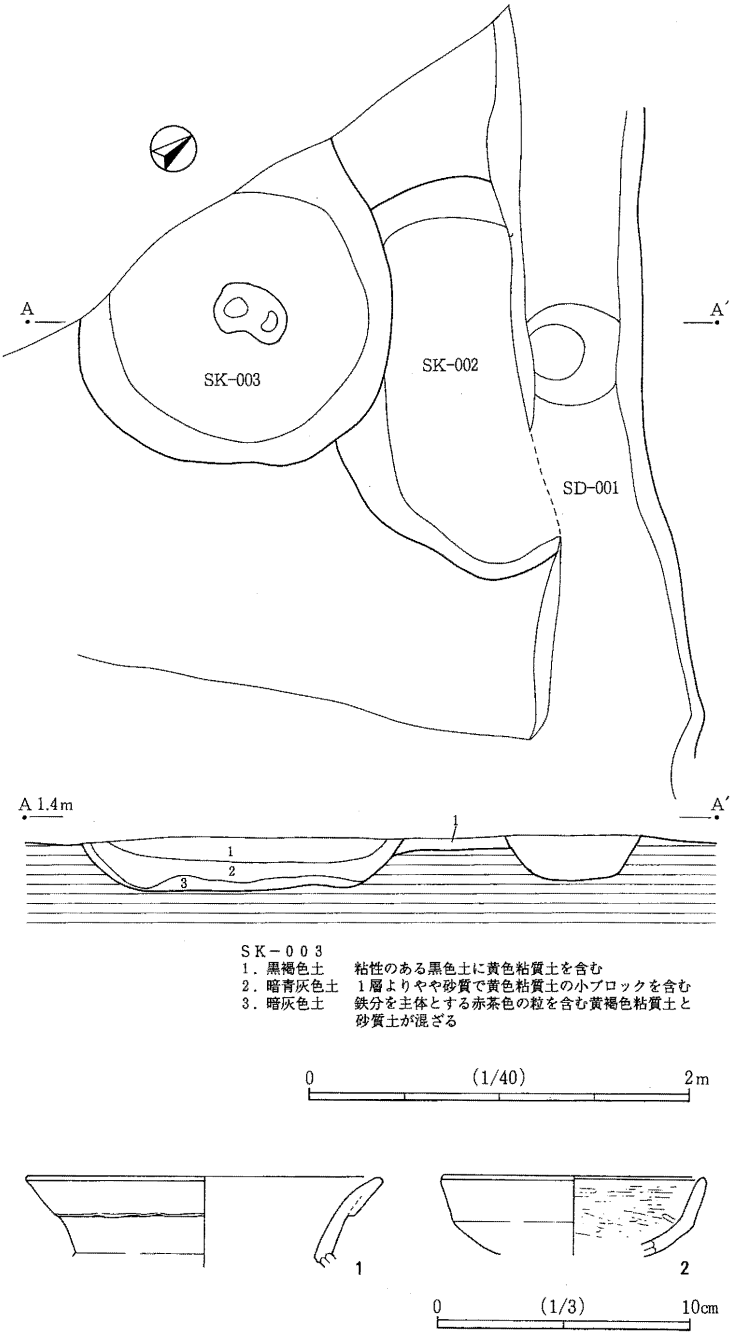
### ＳＫ－００３（第16図，図版５）

ＳＫ－００３号は５Ａ-13グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区に位置する。西側は調査区外となるため完掘されていない。上端部の径は1.75ｍの円形で，確認面からの掘り込みの深さは30cmである。断面形は逆台形で，壁は斜めに立ち上がっている。図示した遺物を含め土師器片1,316ｇを出土している。

遺物１は土師器の壺の口縁部である。折り返しの二重口縁で大粒の砂粒を多量に含み，にぶい黄橙色から褐灰色で焼成は良好




第15図　SE-022号




第16図　SK-002・003号と003号出土遺物

である。２は土師器の坏である。底部との境に稜をもつ。口径の１/４弱が遺存している。細砂粒，褐色粒を含み，色調はにぶい黄橙色で焼成は良好である。内面をミガキ調整している。

ＳＫ－００９（第17図，図版６）

ＳＫ－００９号は５Ａ-75グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区に位置する。ＳＫ－０１１号と切り合うが新旧関係ははっきりしない。開口部の径は1.4ｍほどの円形で，確認面からの掘り込みの深さは８㎝である。底面は平坦である。壁は斜めに立ち上がっている。遺物は出土していない。

ＳＫ－０１１（第17図，図版６）

ＳＫ－０１１号は５Ａ-74グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区北側に位置する。ＳＫ－００９号と切り合うが新旧関係ははっきりしない。開口部の径は長軸１ｍ，短軸0.7ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは４㎝である。壁は斜めに立ち上がっている。底面は平坦である。遺物は出土していない。

ＳＫ－０１２（第18図，図版７）

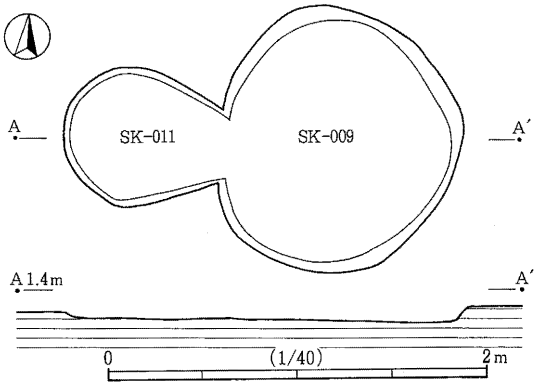
ＳＫ－０１２号は５Ａ-84グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区に位置する。開口部の径は長軸1.2ｍ，短軸0.95ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは20㎝である。断面形は逆台形であろう。壁は斜めに立ち上がっている。０１３号と重複しており，０１３号より新しい。遺物は出土していない。

ＳＫ－０１３（第18図，図版７）

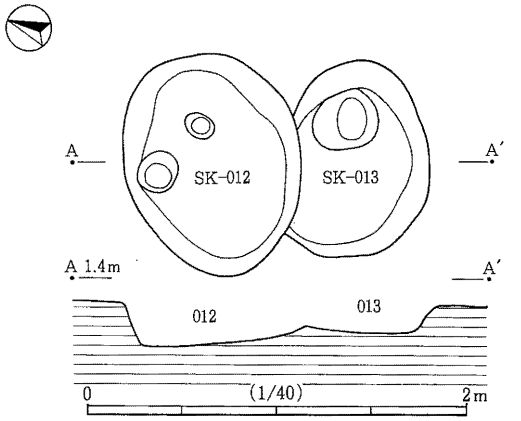
ＳＫ－０１３号は５Ａ-84グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区に位置する。開口部の径は長軸1.03ｍ，短軸0.85ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは18㎝である。断面形は逆台形であろう。壁は斜めに立ち上がっている。０１２号と重複しており０１２号より古い。遺物は土師器片109ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＫ－０２１（第19図，図版７）

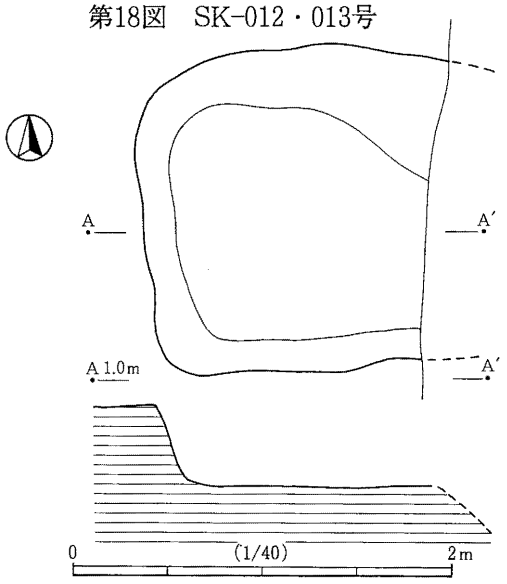
ＳＫ－０２１号は６Ａ-55グリッドから検出された土坑である。中央区西側調査区に位置する。開口部の径は長軸1.74ｍ，短軸1.5ｍの方形で，確認面からの掘り込



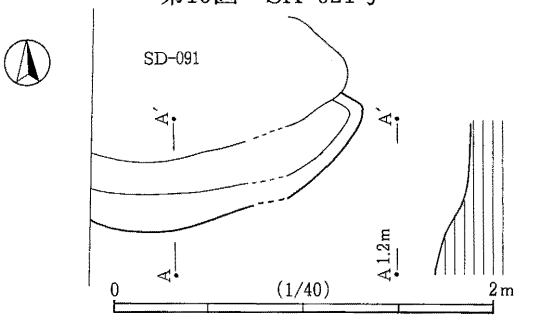
第17図　SK-009・011号



第18図　SK-012・013号



第19図　SK-021号



第20図　SZ-099号

みの深さは39cmである。断面形は逆台形，壁は急角度に立ち上がる。調査区外にはあまり広がらない。遺物は土師器片116ｇ，礫72ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

ＳＺ－０９９（第20図）

ＳＺ－０９９号は11Ａ-43グリッドから検出された土坑と思われる。南区西側調査区に位置する。開口部の１辺は1.5ｍで，確認面からの掘り込みの深さは16cmである。方形土坑のようであるが調査部分が少ないため形態は不明である。０９１より古い。遺物は出土していない。

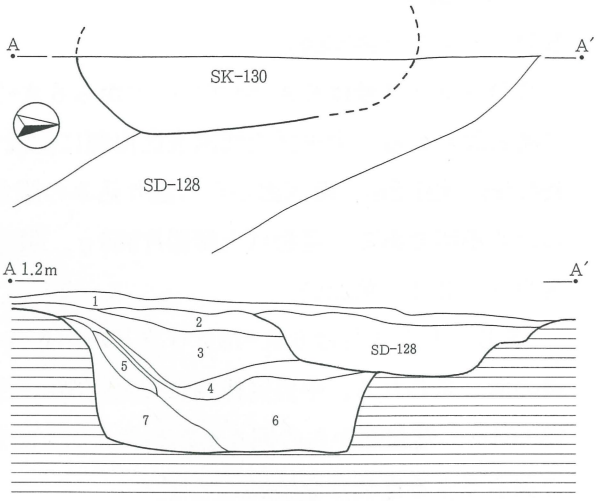
ＳＫ－１３０（第21図，図版15）

ＳＫ－１３０号は２Ａ-49・59グリッドから検出された土坑である。北区中央調査区に位置する。ＳＤ－１２８の溝状遺構を切る形で検出された。調査中に壁面が崩落し，遺構は埋没したため上端のみ実測した。開口部の径は長軸1.8ｍ，短軸0.36ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは75cmである。断面形は逆台形，壁は急角度に立ち上がっている。図示した遺物を含め土師器片312ｇ，須恵器片145ｇ，礫31ｇを出土している。

遺物１は土師器の壺の口縁部である。折り返しの二重口縁で折り返し端部に刻みを施している。胎土に砂粒を多量に含み，色調は灰黄色からにぶい黄橙色で焼成は良好である。内外全体に赤彩しており口辺部内外共に摩滅して調整痕は不鮮明である。２は土師器の高坏の坏部である。胎土に砂粒を多量に含み，色調はにぶい黄橙色，焼成は良好である。内外共に摩滅して調整痕は不鮮明である。

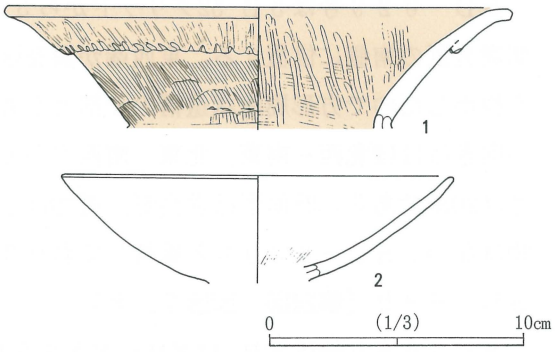
ＳＫ－１５３　（第22図，図版17）

ＳＫ－１５３号は６Ａ-59グリッドから検出された土坑である。中央区中央調査区に位置する。開口部の径は長軸0.76ｍ，短軸0.66ｍの楕円形で底部も同形である。断面形は逆台形，底部は平坦である。確認面からの掘り込みの深さは26cmである。壁は急角度に立ち上がっている。遺物は土師器片80ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

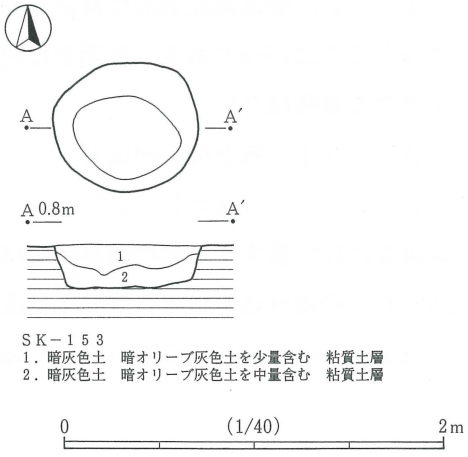



ＳＫ－１３０
1．灰色土　灰混じりの灰色土層と青灰色土層の間にある層で貝をほとんど含まない層である　粘質土で青灰色土や地山の黄褐色土をわずかに含む
2．黒灰色土　灰色の粘質土に黒色粘質土が多く混じる
3．黒灰色土　黒色粘質土を多く含む　淡黄色粘質土を少量含む　しまりあり
4．黒灰色土　黒色粘質土を少量含む　淡黄色粘質土を中量含む　しまりあり　色は３より薄い
5．褐灰色土　粘質土　淡黄色土を多く含む　しまりあり
6．灰色土　粘質土　黒色土淡黄色土を少量含む　土器片含む　しまりあり
7．灰色土　粘質土　６より明るい　黒色土淡黄色土を少し含む　土器片含む　しまりあり

0　(1/40)　2m




第21図　SK-130号と出土遺物




ＳＫ－１５３
1．暗灰色土　暗オリーブ灰色土を少量含む　粘質土層
2．暗灰色土　暗オリーブ灰色土を中量含む　粘質土層

第22図　SK-153号

4　溝状遺構

ＳＤ－０２３（第23図）

ＳＤ－０２３号は６Ａ-54グリッドから６Ａ-75グリッドにかけて検出された溝状遺構である。ほぼ直線の溝と思われる。中央区西側調査区南側に位置する。溝の向きはほぼ西北西から東南東方向である。検出長4.7ｍ，幅1.2ｍ，確認面からの掘り込みの深さは５㎝程度と浅い。北西側は未検出，南東側は調査区外のため不明である。遺物は土師器片959ｇ，須恵器片46ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０２４（第23図）

ＳＤ－０２４号は６Ａ-73グリッドから６Ａ-75グリッドにかけて検出された溝状遺構である。ほぼ直線の溝と思われる。中央区西側調査区南側に位置する。 溝の向きはほぼ東西方向である。検出長2.8ｍ，幅0.64ｍ，確認面からの掘り込みの深さは５㎝程度と浅い。遺物は土師器片152ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０２５（第23図）

ＳＤ－０２５号は６Ａ-75グリッドから６Ａ-85グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北西から南南東方向である。検出長1.1ｍ，幅は一定で0.4ｍ，確認面からの掘り込みの深さは7㎝程度と浅い。遺物は土師器片637ｇ，礫191ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０２９（第24図，図版７）

ＳＤ－０２９号は５Ｂ-52グリッドから５Ｂ-74グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区東側調査区の南側に位置する。東西端が調査区外となるため全長は不明である。「く」の字状のコーナー部を検出したので方形周溝状遺構の一部とも考えられるが，対向する溝が明確でないため断定できない。溝の向きはほぼ北西－南東，北東－南西方向である。検出長6.8ｍ，幅1.05ｍ，確認面からの掘り込みの深さは20㎝である。断面形は逆台形，遺物は土師器片877ｇ，礫20ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。ＳＤ－０３０号と重複しており０３０号より新しい。

ＳＤ－０３０（第24図，図版７，８）

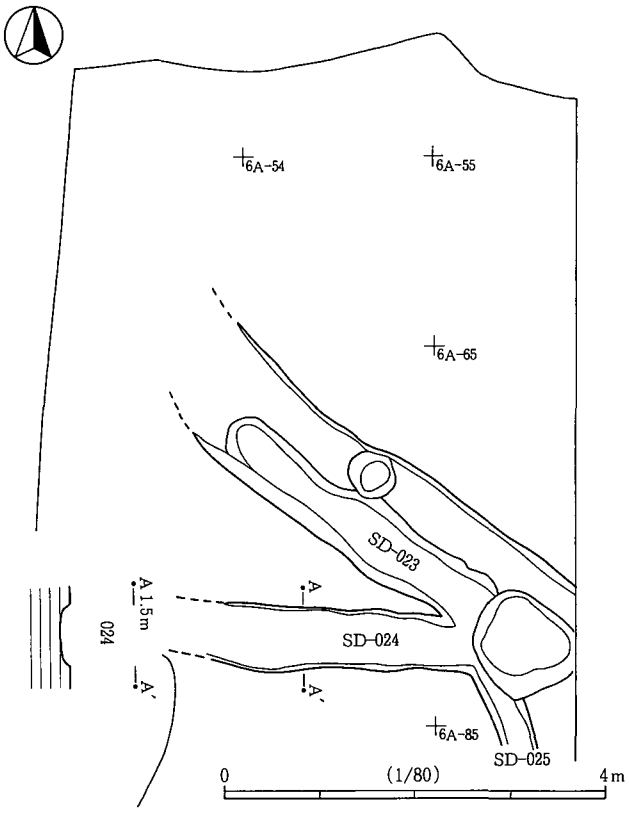
ＳＤ－０３０号は５Ｂ-44グリッドから５Ｂ-64グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区東側調査区の南側に位置する。円墳か円形周溝の一部の可能性がある。ＳＤ－０２９号と重複しており０２９号より古い。溝は南北方向に検出されており東側に延びる。検出長3.7ｍ，幅0.84ｍ，確認面からの掘り込みの深さは19㎝である。断面形は逆台形であろうか。遺物は土師器片227ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０３１（第24図，図版８）

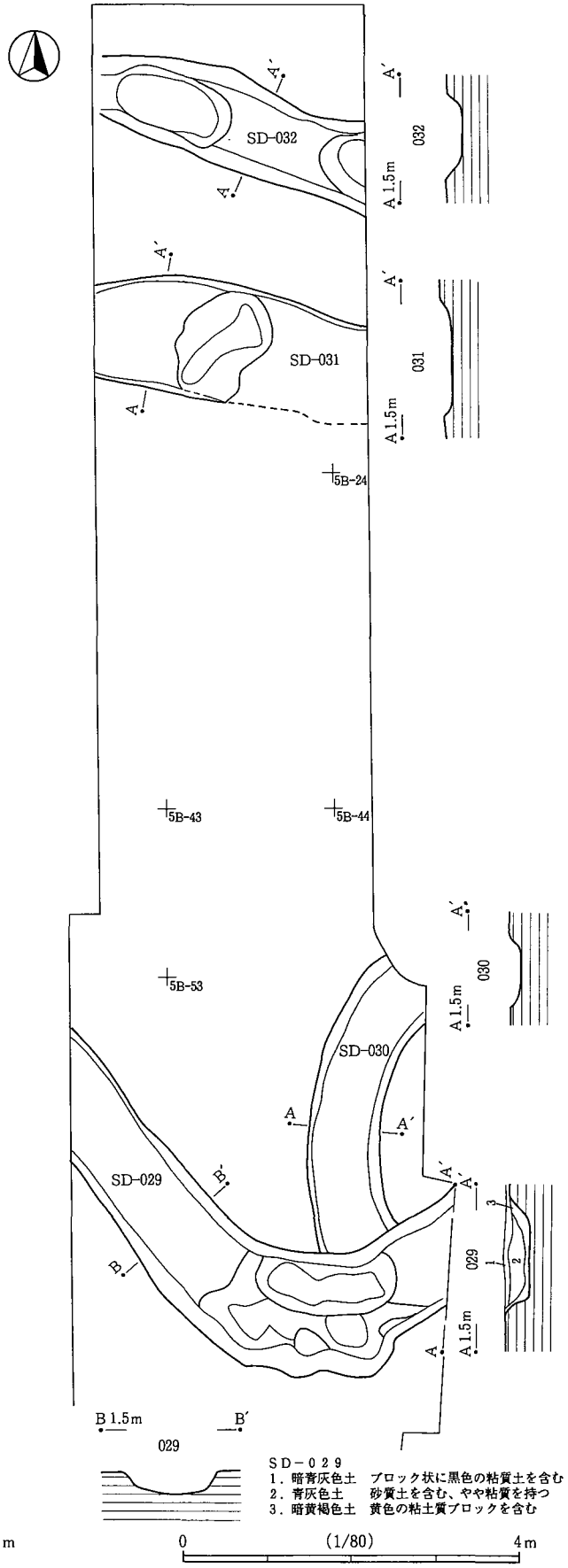
ＳＤ－０３１号は５Ｂ-02グリッドから５Ｂ-14グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ東西方向で東西の調査区外に延びる。検出長3.2ｍ，幅1.45ｍ，確認面からの掘り込みの深さは６㎝程度で浅い。断面形は逆台形であろうか。遺物は土師器片18ｇ，礫10ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

ＳＤ－０３２（第24図，図版８）

ＳＤ－０３２号は４Ｂ-93グリッドから５Ｂ-04グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区東側調査区の中央部に位置する。溝の向きはほぼ西北西から東南東方向で東西の調査区外に延びる。検出長3.5ｍ，幅1.05ｍ，確認面からの掘り込みの深さは９cm程度で浅い。断面形は逆台形と思われる。遺物は土師器片108ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。




第23図　SD-023・024・025号




第24図　SD-029・030・031・032号

ＳＤ－０９１（第25図，図版23）

ＳＤ－０９１号は10Ａ-76グリッドから11Ａ-43グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北東から南南西方向でわずか南東側に膨ら曲線を描いている。検出長16.5ｍ，幅0.7ｍから1.65ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10cmから19cm程度である。北東側，西側は調査区外に延びる。西側にＳＤ－０９２が存在する。０９２より新しい。南端部でＳＺ－０９９に切られる。ＳＰＣ－Ｃ′付近から遺物が多く検出された。図示した遺物以外に土師器片1,452ｇ，須恵器片47ｇ，礫410ｇを出土している。

遺物１は環状土錘である。

ＳＤ－０９２（第25図）

ＳＤ－０９２号は10Ａ-85グリッドから11Ａ-15グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北東から南南西方向で，南側は収束している。検出長5.95ｍ，幅0.34ｍから0.46ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10cmから15cm程度である。覆土はＳＤ－０９１と似ている。10Ａ-85グリッド付近でＳＤ－０９１に合流している。遺物は出土していない。０９１と重複しており０９１より古い。

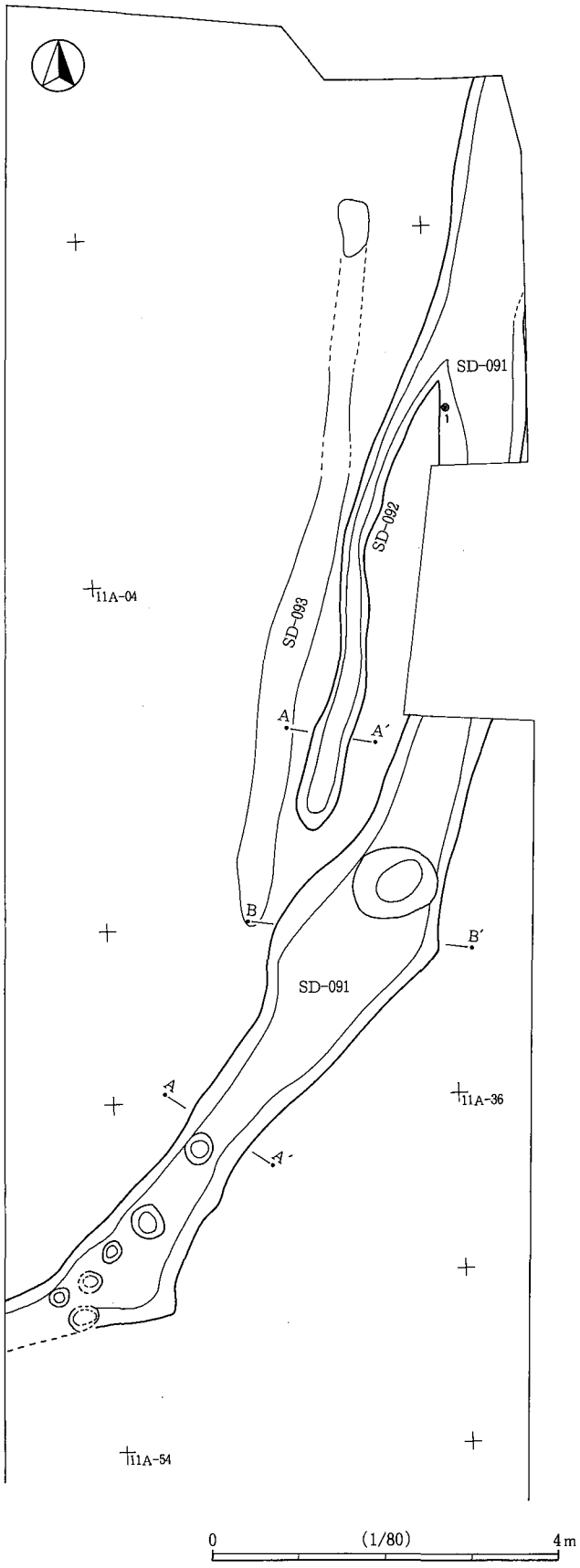
ＳＤ－１０５（第26図，図版12，20，23）

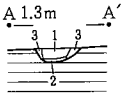
ＳＤ－１０５号は２Ａ-24グリッドから２Ａ-45グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長5.3ｍ，幅2.0ｍで一段低く掘られた溝は1.2ｍの幅を持つ。確認面からの掘り込みの深さはは浅い部分で10cm，深い部分が29cm程度である。北端は調査区外に延びる。南東端は排水溝のため不明である。西側にテラスが張り出し南側に傾斜している。図示した遺物を含め土師器片2,041ｇ，礫457ｇを出土している。

遺物１は土師器の壺の頸部から口縁部である。口縁部の１/２が遺存している。胎土に砂粒・褐色粒を含み，色調はにぶい橙色で，焼成は良好である。２は土師器の甕の頸部から口縁部である。外面にハケメを残し，胎土に砂粒・褐色粒を含み，色調は外面灰褐色，内面はにぶい黄橙色で，焼成は良好である。３は土師器の高坏の脚部である。胎土に砂粒を含み，色調はにぶい橙色から灰褐色で焼成は良好である。内外ともに赤彩しており脚部外面に縦方向のミガキを施している。４，５は環状土錘である。

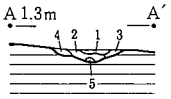
ＳＤ－１０６（第26図，図版12）

ＳＤ－１０６号は２Ａ-55グリッドから２Ａ-63グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区東側調査区の北側に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。南西端は調査区外に延びる。北東端は排水溝のため不明である。検出長5.5ｍ，幅0.6ｍから1.5ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10cmから20cm程度で断面形は皿形である。西端には両側にテラスがあるが，東に向かい途中でなくなる。遺物は土師器片119ｇ，礫875ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

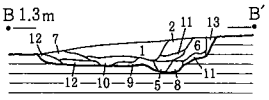


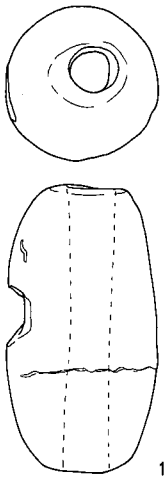

SD－092
1．灰褐色土　灰色粘質土主体に淡黄色土(径1cm前後)ブロックが入る
　　埋めた土
2．淡褐色土　淡黄色土主体に灰色土がしみ込む
3．淡褐色土　淡黄色土主体に灰色土がブロック状に入る




SD－091　B－B′
1．黒灰色土　黒灰色土のみ
2．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土粒が僅かに混入
3．灰褐色土　灰色粘質土主体に黒色土粒や黄色土粒がきめ細かく入る
　　内側に流れ込むよう堆積し，鉄分が沈殿する
4．淡褐色土　淡褐色土主体に茶褐色土が入る
　　茶褐色土は，水田のすき床に入り込んだ土か？
5．淡黄褐色土　淡黄色土主体に黒灰色土が僅かに入る

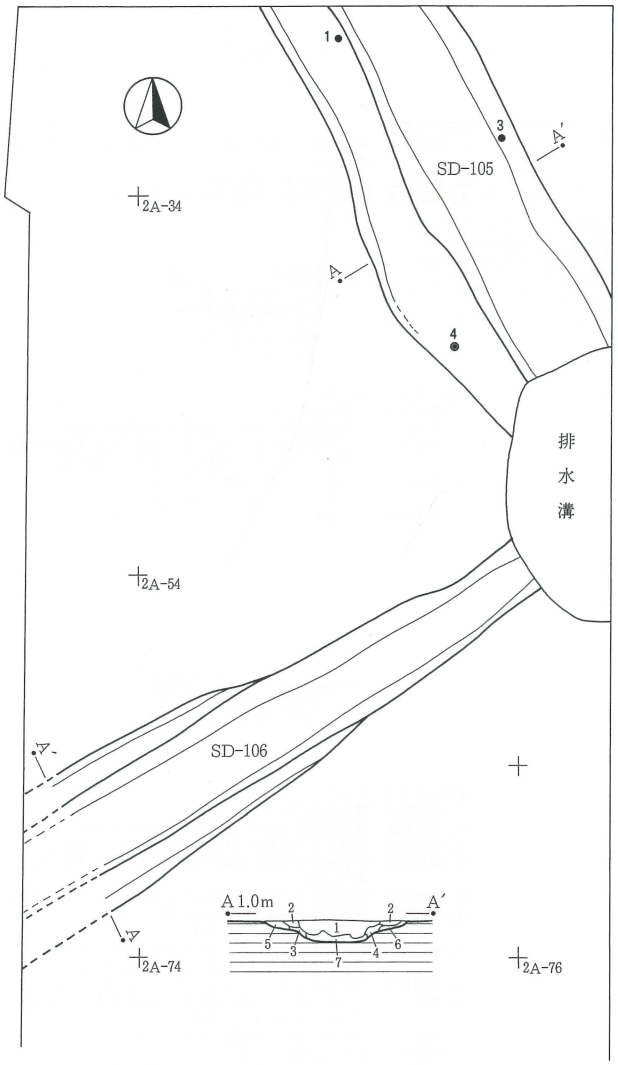



SD－091　C－C′
1．黒灰色土　黒灰色土のみ
2．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土粒が僅かに混入
3．黒灰色土　2層とよく似るが，鉄分がより多く入る（沈殿する）
4．灰褐色土　灰色粘質土主体に淡黄色土が小さなブロック状をなし混入
　　鉄分が多い
5．灰褐色土　灰色粘質土主体に灰色砂を含み淡黄色土がブロック状に混入
6．灰褐色土　灰色粘質土主体に淡黄色土が斑に入る
　　内側に流れ込むように堆積
7．灰褐色土　灰色粘質土主体に黒色土粒や黄色土粒がきめ細かく入る
　　内側に流れ込むよう堆積し，鉄分が沈殿する
8．淡褐色土　淡黄色土主体に灰色土がブロック状に入る
9．灰色土　灰色砂（粗い）主体に淡黄色土や灰色粘質土が混じる
　　内側に流れ込むように堆積
10．灰色土　9層と似るが，淡黄色土の割合が多い
11．淡褐色土　8層とよく似ている
12．淡褐色土　淡褐色土主体に灰色粘質土や灰色砂が混入する
13．淡褐色土　淡褐色土主体に茶褐色土が入る
　　茶褐色土は，水田のすき床に入り込んだ土か？




0　(1/3)　10cm

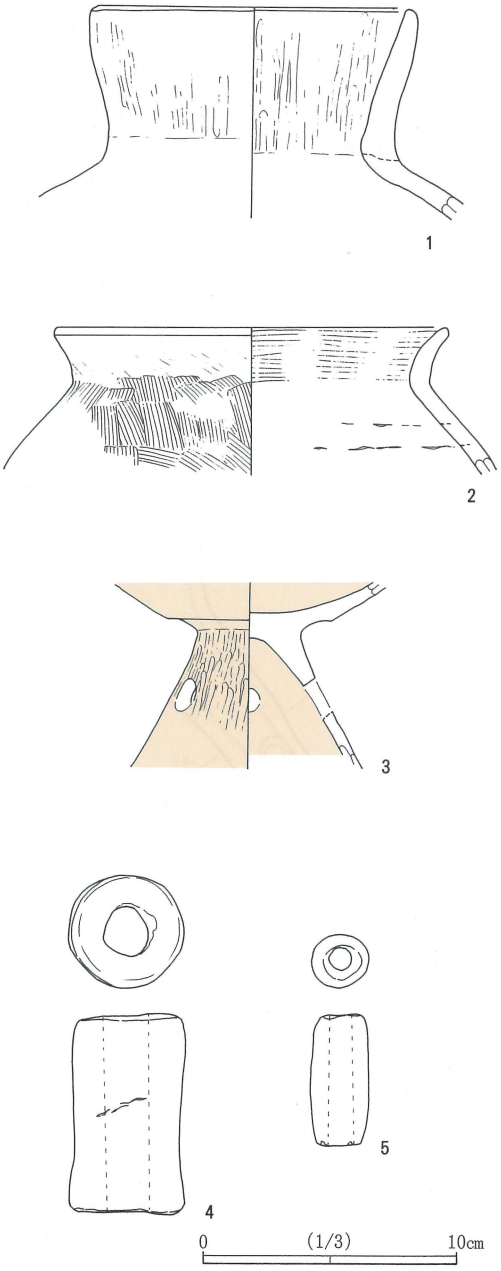
第25図　SD-091・092号と091号出土遺物




SD－105
1．黒灰色土　黒灰色砂質土のみ　鉄分が多く浸み込む
2．黒灰色土　黒灰色砂質土と黒灰色粘質土がブロック状に混じる
　　鉄分はさほど目立たない
3．黒灰色土　黒灰色粘質土のみ
4．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック(小)が少し入る
5．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック(大)がやや多めに入る
6．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に青灰色砂が流れ込むように入る
7．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に青灰色砂が流れ込むように入る
8．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロックが多い
9．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロックが多い
10. 黒色粘質土のすき痕
＊全体的に鉄分は入るが，さほど目立たない。人為的な埋め戻しと思われる。

SD－106
1．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック（小）が僅かに入る
2．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロックが斑に入る
3．淡褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック（大）が入る
4．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土が浸み込むように混ざる
5．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック(小)が少し入る
6．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック(小)が少し入る
7．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック(中)が多く入る
＊どの層も鉄分がほとんどない。人為的な埋め戻しと思われる。

0　(1/80)　4m




第26図　SD-105・106号と105号出土遺物

ＳＤ－１２７（第27図，図版15，23）

ＳＤ－１２７号は２Ａ-79グリッドから２Ａ-89グリッドにかけて検出された溝状遺構である。地山の淡黄色粘土層を掘り込んだ溝状遺構である。北区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長３ｍ，幅は上端1.15ｍ，下端１ｍで南側がやや広がっている。確認面からの掘り込みの深さは18cm程度である。断面形は不整形で底面はほぼ平坦である。溝は南西側で立ち上がりの部分が２段になっており，段差の部分の覆土は下が暗褐色，上が黒褐色で，溝の改修が行われたものと考えられ，幅は0.4ｍから0.8ｍである。南東側に長さ0.5ｍ，深さ８cmほどの掘り込みが検出された。北西側，南東側は調査区外に続く。南側でＳＨ－１３１に切られる。図示した遺物以外に土師器片127ｇ，礫157ｇを出土している。遺物１は土玉である。十文字に切れ目が入っている。

ＳＤ－１２８（第28図，図版15）

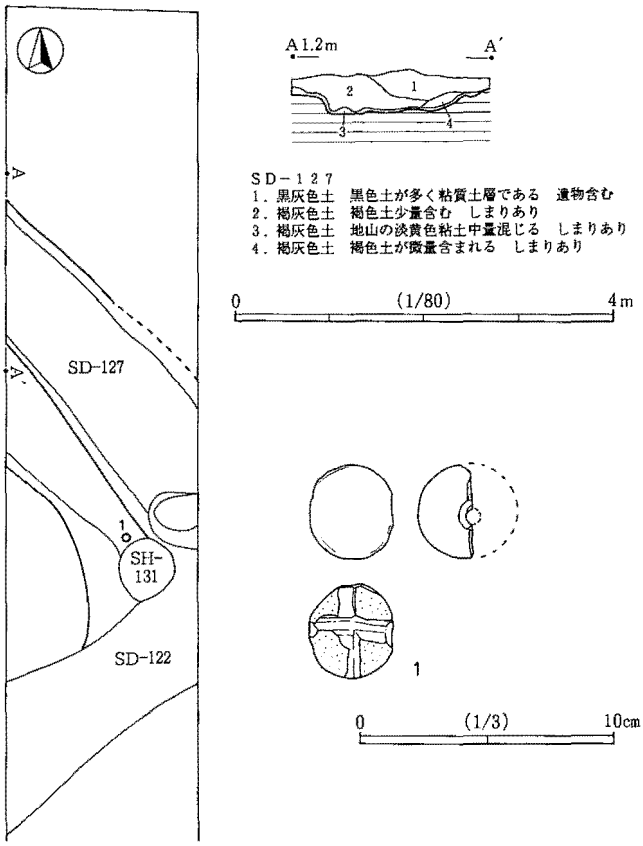
ＳＤ－１２８号は２Ａ-49グリッドから２Ａ-59グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区中央調査区に位置する。青灰色粘質土に地山の淡黄色粘土が混入した層を掘り抜いて溝が掘られている。溝の向きはほぼ北北西から南南東方向である。溝の底部は平坦で検出長3.9ｍ，幅は上端で70cm，下端で50cm，確認面からの掘り込みの深さは北端で18cm，南端で37cmである。覆土は暗灰色粘質土で，底部は砂質土であり，断面形は逆台形状である。北西側はＳＫ－１３０に切られている。北西側，南東側は調査区外に続く。遺物は土師器片558ｇ，礫65ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－１３４（第29図，図版16）

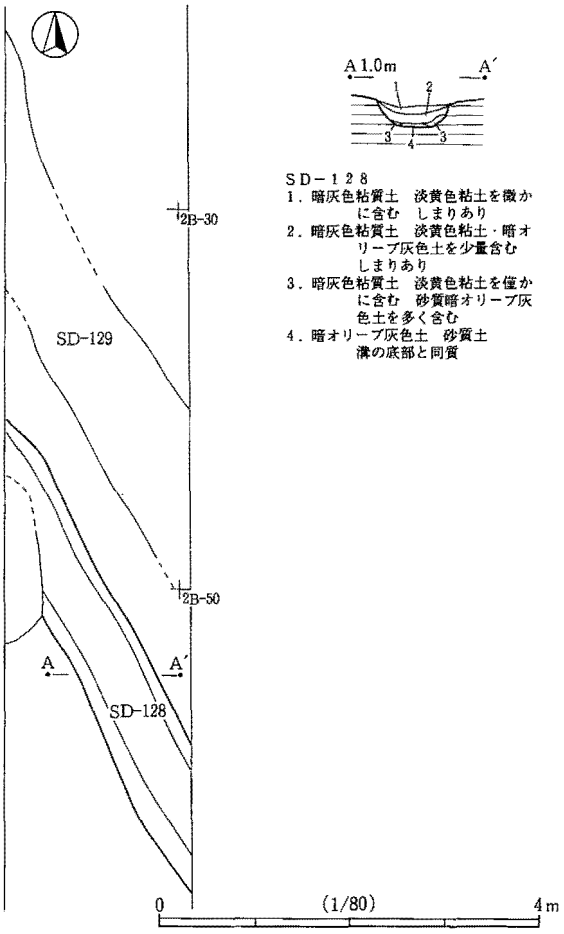
ＳＤ－１３４号は３Ｂ-11グリッドから３Ｂ-43グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北西から南南東方向で直線である。検出長7.2ｍ，幅は一定で1ｍ，確認面からの掘り込みの深さは８cmから15cm程度である。断面形は逆台形状で底面は平坦である。覆土は褐灰色粘質土で，土師器片を含んでいた。底部は青灰色の砂質土である。土師器片は小片で，流れ込みの可能性もある。溝の東側は緩やかに東方向に下がっており，地山の淡黄色粘土層はなくなり，青灰色砂質土へと変わっていく。西側，東側は調査区外に続く。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。遺物は土師器片25ｇ，礫36ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－１３５（第29図，図版16）

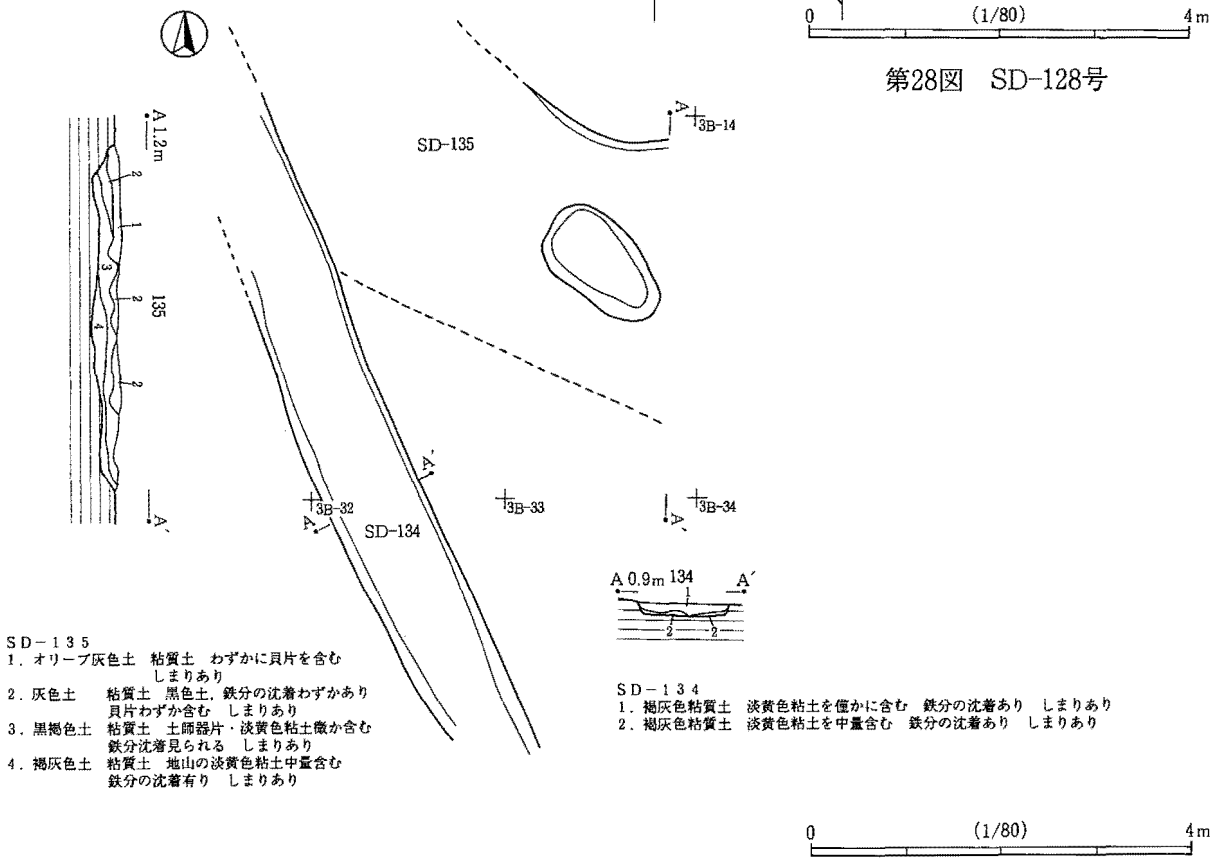
ＳＤ－１３５号は３Ｂ-13グリッドから検出された溝状遺構である。北区東側調査区に位置する。東側調査地の東西のセクション面と東側の一部で溝状遺構と思われる痕跡が見られた。東側の一部以外は，暗灰色土の貝混じりの粘質土層となるため確認できなかった。検出長2.0ｍ，幅2.8ｍで，壁面で確認できた掘り込みの深さは28cm程度で，溝の底面は凹凸がある。長径1.4ｍほどの楕円形の掘り込みがみられるが，溝との関係は不明である。




第27図　SD-127号と出土遺物




第28図　SD-128号




第29図　SD-134・135号

## 第２節　奈良・平安時代以降

### １　掘立柱建物跡

ＳＢ－００１（第31図）

ＳＢ－００１号は5A-36グリッドから5A-56グリッドで検出された掘立柱建物跡である。中央区西側調査区北側に位置する。５か所のピットが検出されたが，他は調査区外となるため不明である。建物の主軸は北東－南西を向く。Ｐ１－直径24cm，深さは６cm，Ｐ６－上端部最大径50cm，底部最大径32cmで，確認面からの掘り込みの深さは44cmである。遺物は土師器片137ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。Ｐ７－上端部最大径42cm，底部最大径23cmで確認面からの掘り込みの深さは26cmである。遺物は土師器片20ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。Ｐ８－上端部最大径26cm，底部最大径23cm，確認面からの掘り込みの深さは７cmである。遺物は出土していない。Ｐ14－上端部最大径42cm，底部最大径20cmで確認面からの掘り込みの深さは25cmである。柱間距離はP1-1.8m-P6，P6-2.64m-P7，P7-2.54m-P14である。

### ２　井戸状遺構

ＳＥ－００７（第32図，図版21）

ＳＥ－００７号は５A-15グリッドから検出された井戸状遺構である。中央区西側調査区北側に位置する。上端部の長軸1.6m，短軸1.25mのややゆがんだ長方形で，底面は最大径１mの円形，確認面からの掘り込みの深さは1.2mである。壁は急角度に立ち上がっており，断面形は逆台形である。底面付近は砂層中に掘り込まれている。００１号，００４号，００５号と重複しており，これらより新しい。図示した遺物を含め土師器片827ｇ，須恵器片95ｇ，礫131ｇを出土している。

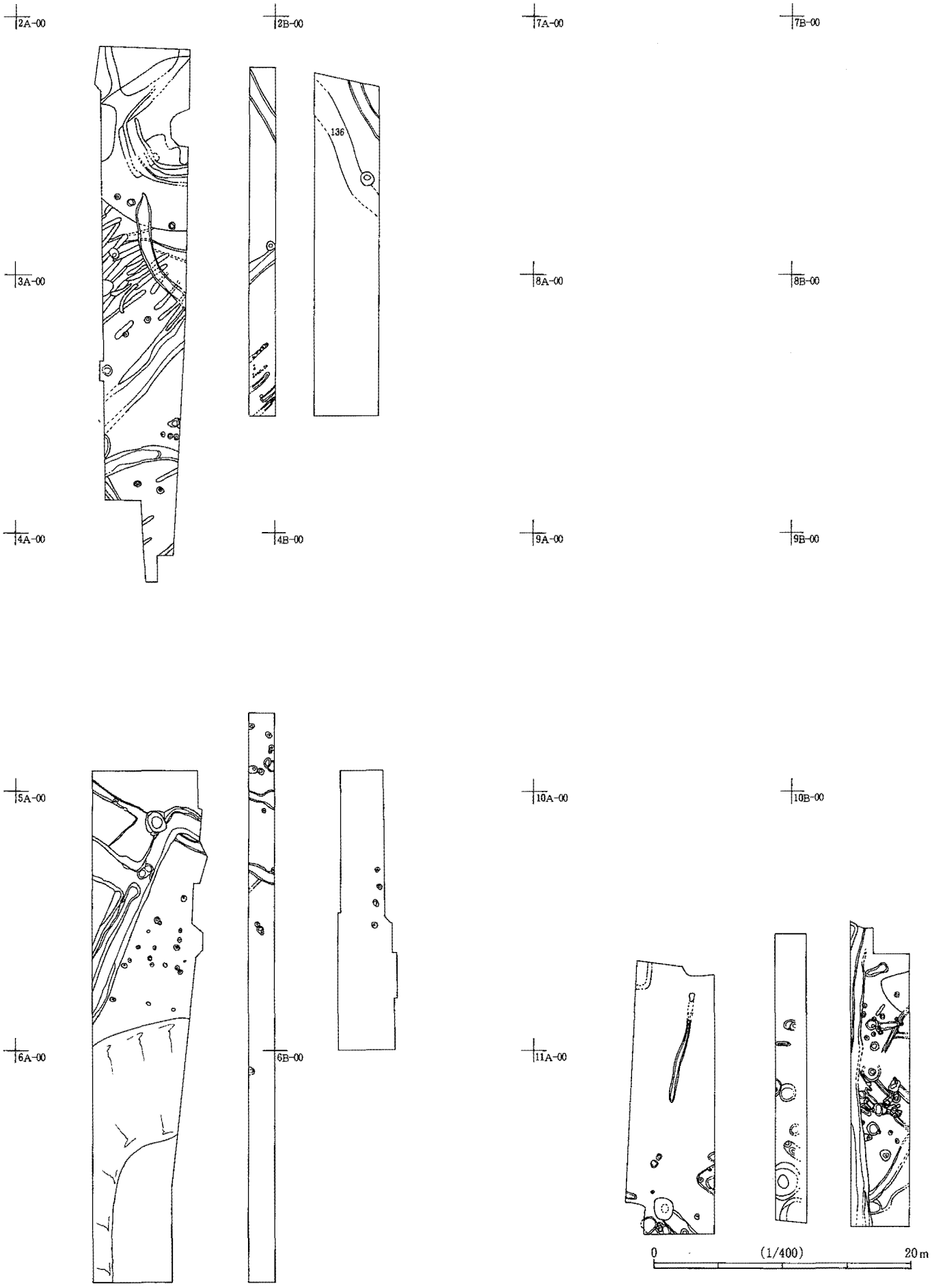
遺物１は土師器の高台付坏の底部であり，底径の1／4ほどが遺存している。細砂粒・褐色粒を含み，外面はにぶい橙色，内面はにぶい黄色で，焼成は良好である。２は土師器の坏である。内面全体と外面口辺部にまだらに油煙痕が付着している。灯明皿として使用している。胎土に砂粒，雲母を多量に含み，にぶい黄橙色から橙色をしており焼成は良好である。３は砥石である。

ＳＥ－０９０（第33図，図版11）

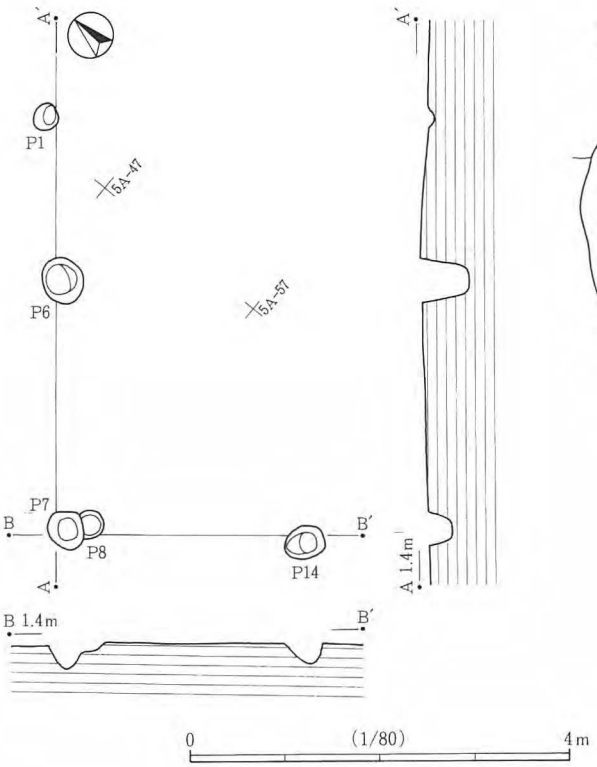
ＳＥ－０９０号は１１A-54グリッドから検出された井戸状遺構である。南区西側調査区に位置する。上端部の径は長軸1.68m，短軸1.46mの隅丸方形で，確認面からの掘り込みの深さは71cmである。断面形は逆台形である。検出面から50cmほど掘り下げた段階で水がかなり湧きだした。確認された底面は長軸0.6m，短軸0.5mの長方形だが，底面が未検出で終わった。遺物は土師器片316ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＥ－１１１（第34図）

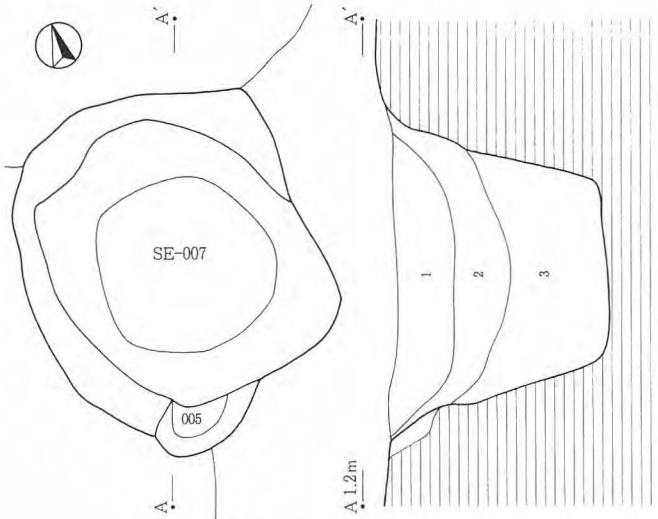
ＳＥ－１１１号は２A-83グリッドから検出された井戸状遺構である。北区西側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.88m，短軸0.8mの方形で，確認面からの掘り込みの深さは99cmである。断面形は逆台形，壁はほぼ垂直に近い形で立ち上がっている。検出面から50cmほど掘り下げると水がかなり湧きだす。底面が未検出で終わった。遺物は土師器片232ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。




第30図　奈良・平安時代以降遺構配置図

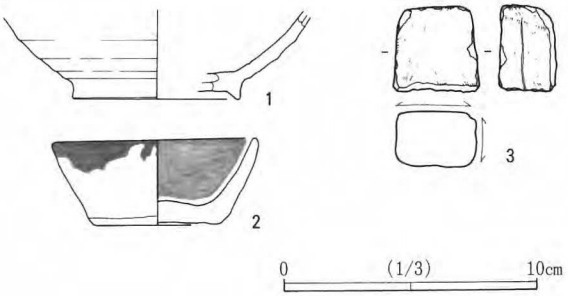



第31図　SB-001号

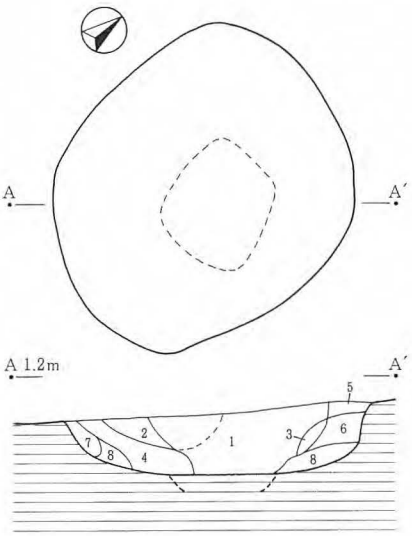



SE－007
1．黒色土　しまりがあり，粘性を持つ黒色土を主体とする
2．黒色土　1層よりも粘性があり，粘土質のブロックを含む
3．黒褐色土

0　(1/40)　2m



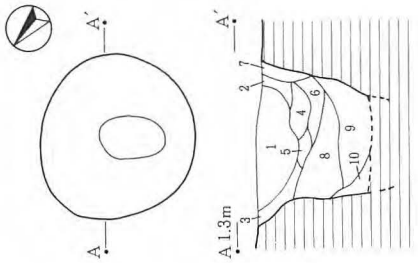

第32図　SE-007号と出土遺物




SE－090
1．灰色土　灰色粘質土のみ　上部に僅かに黒色土がのる　鉄分が多い
2．灰色土　灰色砂主体に灰色粘質土が僅かに混じる　鉄分が多くしみ込む
3．灰色土　灰色砂主体に灰色粘質土が混じる　鉄分が多い
4．灰色土　粒の粗い灰色砂主体に灰色粘質土が僅かに入る　鉄分が多い
5．灰褐色土　灰色粘質土主体に淡黄色土が混じる　鉄分が多い
6．淡褐色土　淡黄色土主体に灰色粘質土が混じる　鉄分が多い
7．灰褐色土　灰色砂（粗い）主体に淡黄色土ブロックが混じる
8．灰褐色土　灰色粘質土主体に淡黄色ブロックを含む
＊2～4層は流れ込むような堆積。4・7層は保水状態である。

0　(1/40)　2m

第33図　SE-090号




SE－111
1．灰褐色土　灰色砂質土のみ　鉄分の浸み込みが多い
2．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土粒を少し含む
3．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土が小さいブロック状に入る
4．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土粒が僅かに混入する
5．灰褐色土　粒の粗い灰色砂主体に淡黄色土粒が僅かに混入する
6．黒灰色土　黒灰色砂質土主体に淡黄色土ブロックが少し入る
7．淡褐色土　淡黄色土主体に黒色粘質土がブロック状に入る
8．灰褐色土　灰色砂（粗い）主体に，鉄分が粗い粒状に固まったものが入る
淡黄色土ブロックも僅かに含む
9．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土粒が僅かに混入する
10．淡褐色土　淡黄色土主体に黒色粘質土がブロック状に入る

0　(1/40)　2m

第34図　SE-111号

## 3　土坑

### ＳＫ－０５０（第35図）

ＳＫ－０５０号は11Ｂ-13グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.95ｍ，短軸0.7ｍの隅丸長方形で，底面は最大径0.5ｍの楕円形である。確認面からの掘り込みの深さは41cmである。断面形は逆台形に近い。北東側に段を有する。ＳＤ－０３６，ＳＨ－０８２と重複している。０３６より新しく，０８２より古い。遺物は出土していない。

### ＳＫ－０５１（第36図）

ＳＫ－０５１号は11Ｂ-02グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.95ｍ，短軸0.7ｍの長方形で，確認面からの掘り込みの深さは40cmである。断面形は逆台形と思われる。遺物は出土していない。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。

### ＳＫ－０５２（第37図，図版９）

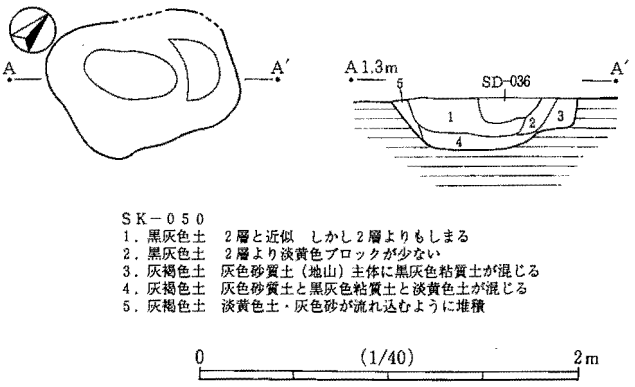
ＳＫ－０５２号は11Ｂ-13グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.9ｍ，短軸0.6ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは21cmである。ＳＨ－０７７を切る。壁は緩やかに立ち上がっている。遺物は土師器片117ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

### ＳＫ－０５３（第37図）

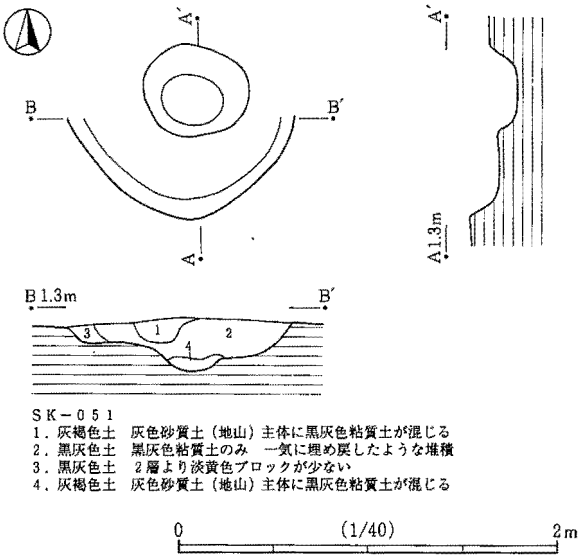
ＳＫ－０５３号は11Ｂ-13グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.75ｍ，短軸0.58ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは30cmで断面形は椀形である。壁は斜めに立ち上がっている。遺物は土師器片9ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。ＳＫ－０５２号と重複しており０５２号より新しい。

### ＳＫ－０５４（第37図）

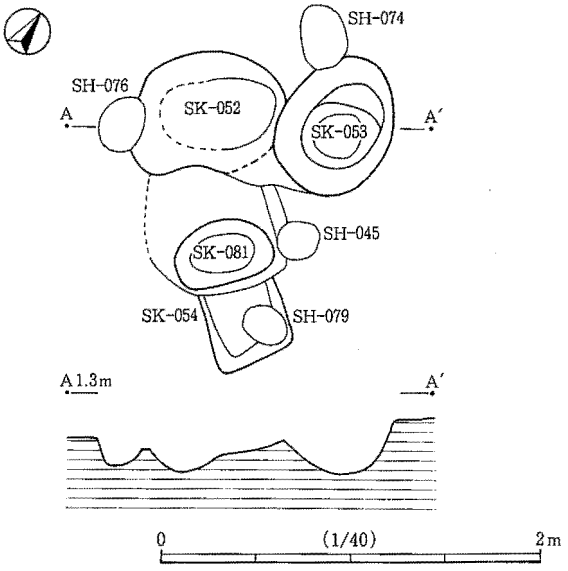
ＳＫ－０５４号は11Ｂ-22グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の短径は0.42ｍの長方形で，確認面からの掘り込みの深さは10cmである。壁は斜めに立ち上がる。遺物は出土し




第35図　SK-050号




第36図　SK-051号




第37図　SK-052・053・054・081号

ていない。

ＳＫ－０８１（第37図）

ＳＫ－０８１号は11Ｂ-23グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.53ｍ，短軸0.28ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは15cmである。ＳＫ－０５２号，０５４号と重複しており０５２号より古く０５４号より新しい。遺物は出土していない。

ＳＫ－０５５（第38図）

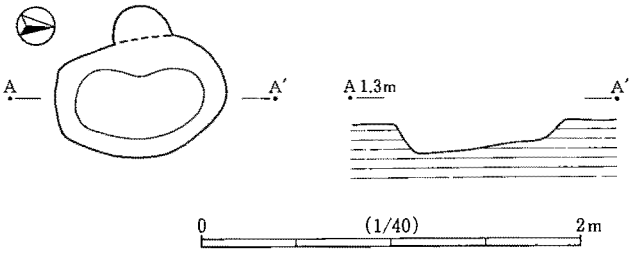
ＳＫ－０５５号は11Ｂ-22グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.92ｍ，短軸0.62ｍの楕円形で底面は長軸0.68ｍ，短軸0.3ｍの楕円形である。確認面からの掘り込みの深さは21cmである。壁は斜めに立ち上がっており南側が深い。ＳＤ－０３９と重複しており０３９より新しい。遺物は土師器片87ｇ，須恵器片13ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＫ－０５６（第39図，図版９）

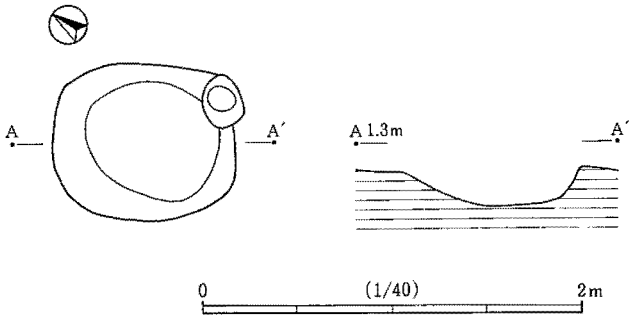
ＳＫ－０５６は11Ｂ-22グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.98ｍ，短軸0.82ｍの隅丸長方形で，底面は最大径0.7ｍの楕円形である。確認面からの掘り込みの深さは15cmで，壁はやや緩やかに立ち上がっている。遺物は出土していない。

ＳＫ－０５７（第40図，図版10）

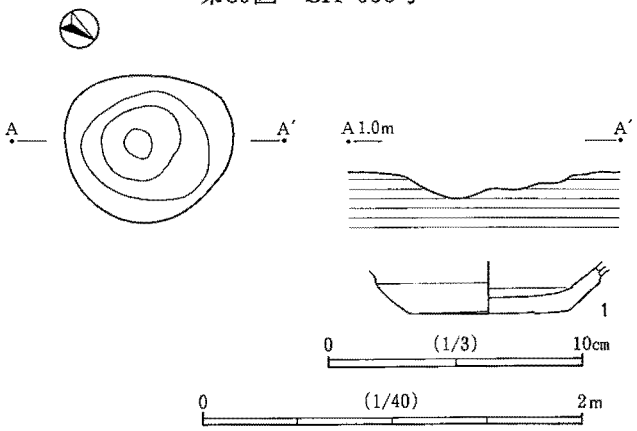
ＳＫ－０５７号は11Ｂ-43グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.9ｍ，短軸0.78ｍの円形で，底面の最大径は0.42ｍ，確認面からの掘り込みの深さは18cmである。底面に径16cmのピットを掘り込む。遺物は土師器片67ｇ，礫5ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物１は土師器の坏の底部である。底部を手持ちヘラケズリしている。胎土に細砂粒を含み，色は灰黄色から灰黄褐色で焼成は良好である。



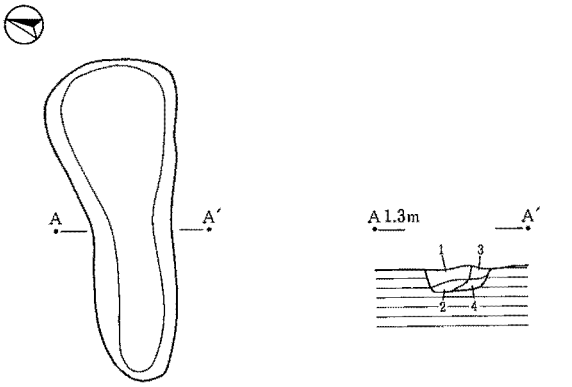

第38図　SK-055号



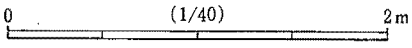

第39図　SK-056号




第40図　SK-057号と出土遺物




ＳＫ－０５８
1．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土が少し入る　一気に埋めたような感じ
2．褐色土　淡黄色土(地山)主体に黒色粘質土が僅かに入る
3．褐色土　淡黄色土(地山)主体に黒色粘質土が僅かに入る
4．灰褐色土　灰色砂質土(地山)主体に淡黄色土と黒灰色土が僅かに入る




第41図　SK-058号

ＳＫ－０５８（第41図，図版10）

ＳＫ－０５８号は10Ｂ-62グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸1.72ｍ，短軸0.7ｍから0.44ｍのひょうたん形で，確認面からの掘り込みの深さは11cmから18cmである。壁はほぼ垂直に近い形で立ち上がっており断面形は逆台形である。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＫ－０６８（第42図，図版10）

ＳＫ－０６８号は10Ｂ-82グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.87ｍ，短軸0.54ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。ＳＨ－０６６と重複しており０６６より古い。遺物は土師器片11ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。ＳＤ－０８４号と重複しており０８４号より新しい。

ＳＫ－０６９（第43図，図版10）

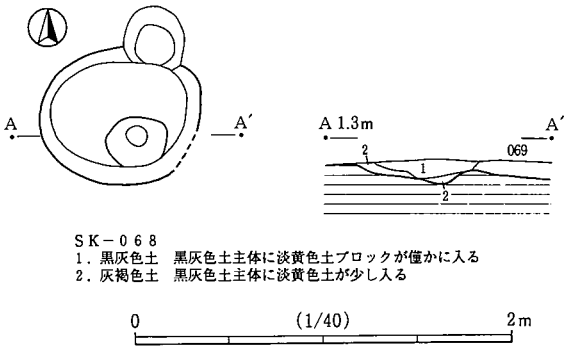
ＳＫ－０６９号は10Ｂ-93グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。上端部の径は長軸1.58ｍ，短軸0.48ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは17cmである。断面形は逆台形である。畝溝の可能性もあるが，畝溝よりは深い堀り方である。遺物は土師器片23ｇ，須恵器120ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。０８４号と重複しており０８４号より新しい。

ＳＫ－０７２（第44図，図版10）

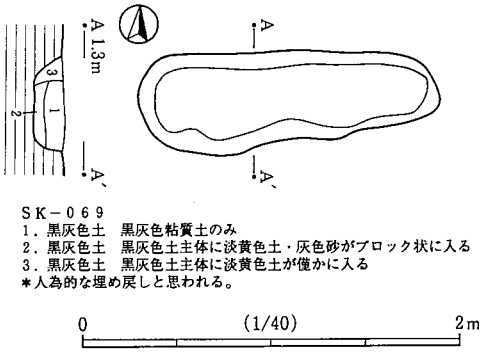
ＳＫ－０７２号は10Ｂ-92グリッドから検出された土坑である。南区東側調査区に位置する。開口部の径は長軸0.68ｍ，短軸0.58ｍのややゆがんだ円形で，底面の最大径は0.42ｍ，確認面からの掘り込みの深さは19cmである。断面形は逆台形で，壁は斜めに立ち上がっている。遺物は土師器片16ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

ＳＫ－０９４（第45図，図版11）

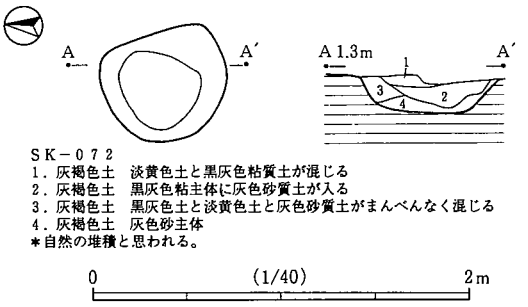
ＳＫ－０９４号は11Ｂ-64グリッドから検出された土坑である。南区西側調査区最南端に位置する。上端



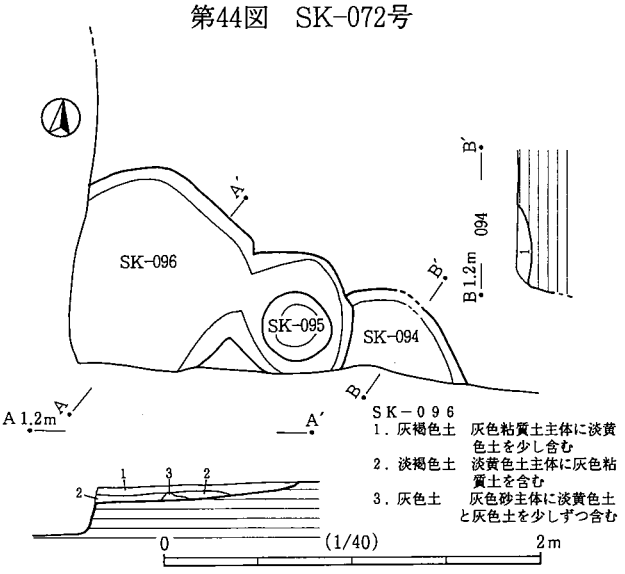

第42図　SK-068号




第43図　SK-069号




第44図　SK-072号




第45図　SK-094・095・096号

部の径は長軸0.6m，短軸0.42mの不整方形と思われ，確認面からの掘り込みの深さは6cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。ＳＫ－０９５と一部重複しており新旧関係は０９４(古)→０９５→０９６(新)である。西側・南側は排水溝のため完掘されていない。遺物は出土していない。

ＳＫ－０９５（第45図，図版11）

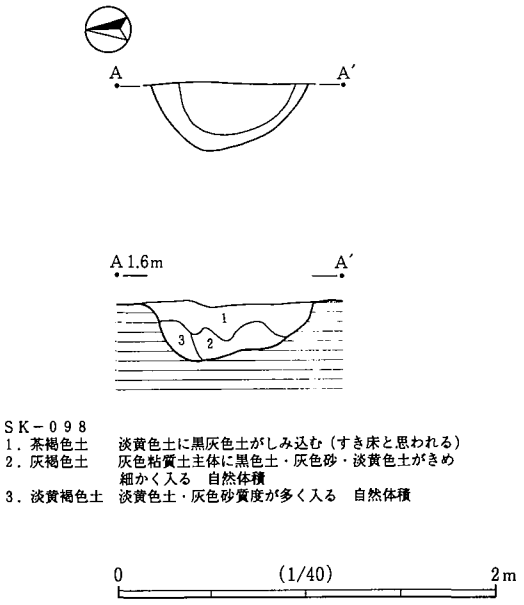
ＳＫ－０９５号は11B-64グリッドから検出された土坑である。南区西側調査区最南端に位置する。上端部の径は0.6mの円形で，確認面からの掘り込みの深さは12cmである。南側は排水溝のため一部完掘されていない。ＳＫ－０９４・０９６と一部重複している。遺物は土師器片19gを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＫ－０９６（第45図，図版11）

ＳＫ－０９６号は11A-64グリッドから検出された土坑である。南区西側調査区最南端に位置する。上端部の径は長軸1.06m，短軸0.9mの隅丸方形と思われる。確認面からの掘り込みの深さは10cmである。南側は排水溝のため完掘されていない。遺物は土師器片20gを出土しているが小片で図示できる遺物はない。ＳＫ－０９５と一部重複している。

ＳＫ－０９８（第46図，図版11）

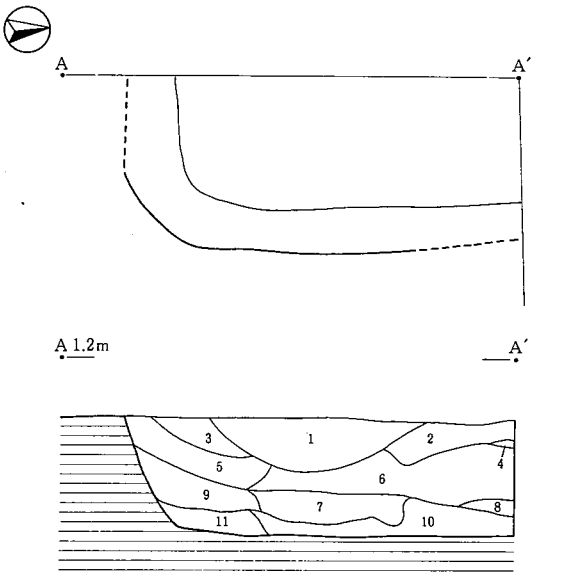
ＳＫ－０９８号は11A-56グリッドから検出された土坑である。南区西側調査区に位置する。上端部の１辺が1.5mの方形で，確認面からの掘り込みの深さは14cmである。壁は斜めに立ち上がっている。断面形は椀型と思われる。遺物は土師器片24g，須恵器片7gを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。




第46図　SK-098号

ＳＫ－１０３（第47図，図版12）

ＳＫ－１０３号は10Ａ-73グリッドから検出された土坑である。南区西側調査区最北端に位置する。上端部の径は長軸2.1ｍ，短軸0.95ｍの長方形で，北側，西側は調査区外になるため全容は不明である。確認面からの掘り込みの深さは61㎝である。断面形は逆台形になると思われる。遺物は土師器片3ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。



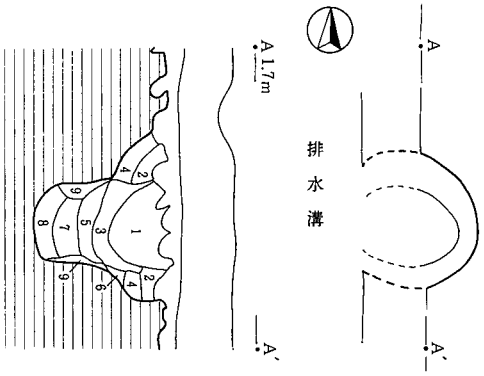

ＳＫ－１０３
1．褐色砂(緑がかる)・灰黄色土・灰色粘質土が同じ位の割合でブロック状に入る
2．灰黄色土主体に灰色粘質土のブロック（大）が入る
3．灰色粘質土主体に褐色砂(緑がかる)が混じる
4．褐色砂(緑がかる）主体に灰黄色土がブロック状に少し入る
5．灰色粘質土主体に褐色砂(緑がかる)が少し混じる 灰色粘質土はブロック状に入る
6．褐色砂(緑がかる)主体に灰色粘質土の大きめブロックが少し灰黄色土の小さいブロックも所々に混じる
7．1層に同じ　下の１０層が灰色粘質土のみなので、この層の境目から水が浸み出ている
8．4層に近似　灰黄色土のブロックが僅かに多い
9．5層と同じ　灰色粘質土が僅かに少ない
10. 灰色粘質土のみ
11. 灰黄色土主体に灰色粘質土のブロックが僅かに入る褐色砂(緑がかる)も僅かに混入
＊人為的な埋め戻しと思われる。全体に鉄分が縦にしみ込む。

0　(1/40)　2m

第47図　SK-103号

ＳＫ－１１２（第48図，図版13）

ＳＫ－１１２号は３Ａ-33グリッドから検出された土坑である。北区西側調査区に位置する。上端部の径は長軸0.74ｍの円形で，確認面からの掘り込みの深さは68㎝である。壁はほぼ垂直に近い形で立ち上がっており上部が開いている。下から湧水する。遺物は土師器片42ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。



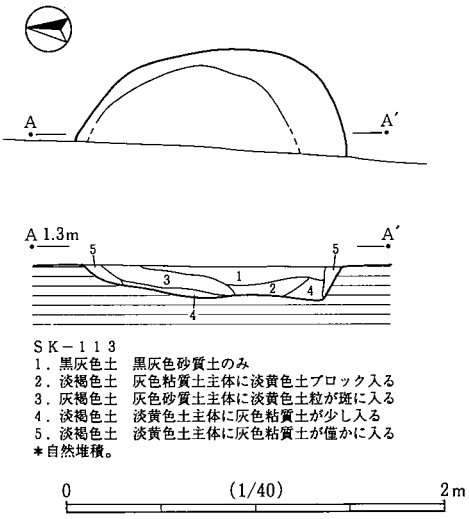

ＳＫ－１１２
1．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土粒が僅かに入る
2．淡褐色土　淡黄色土主体に灰褐色土が僅かに入る
3．灰褐色土　灰色粘質土主体に灰色砂質土と淡黄色ブロックが流れ込むように入る
4．淡褐色土　淡黄色土主体に灰色粘質土が入る
5．黒色土　黒色粘質土主体に淡黄色土粒が僅かに入る内側に流れ込むよう堆積
6．淡褐色土　淡褐色粘質土主体に黒色土が少し入る
7．黒色土　黒色粘質土主体に淡黄色土ブロックが僅かに入る
8．灰褐色土　灰色砂質土と淡黄色粘質土が互層を成している砂質土は粒形が粗く，水が浸み出る
9．淡褐色土　淡褐色粘質土主体に黒色土が少し入る
＊全般に鉄分が多く、覆土は自然堆積と思われる。

0　(1/40)　2m

第48図　SK-112号

ＳＫ－１１３（第49図，図版13）

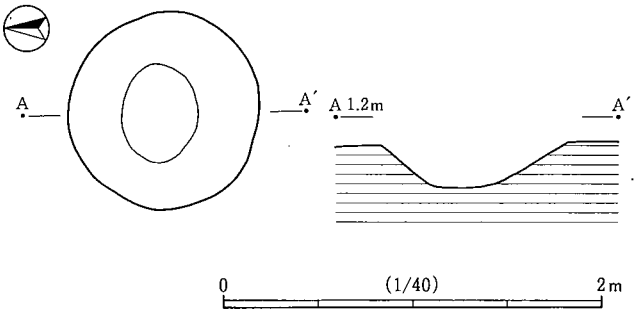
ＳＫ－１１３号は３Ａ-63グリッドから検出された土坑である。北区西側調査区に位置する。上端部の径は長軸1.45ｍ，短軸0.52ｍの円形で，確認面からの掘り込みの深さは16㎝である。壁は斜めに立ち上がっている。遺物は土師器片43ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。




第49図　SK-113号

ＳＫ－１３３（第50図）

ＳＫ－１３３号は２Ｂ-63グリッドから検出された土坑である。北区東側調査区に位置する。砂質土と粘質土の混じった青灰色土を掘り抜いた遺構である。上端部の最大径1ｍの円形で，底面の最大径は0.54ｍ，確認面からの掘り込みの深さは26㎝である。壁は緩やかに立ち上がっており，底面は平坦である。覆土は黒灰色土である。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。




第50図　SK-133号

ＳＫ－１５４（第51図，図版17・21）

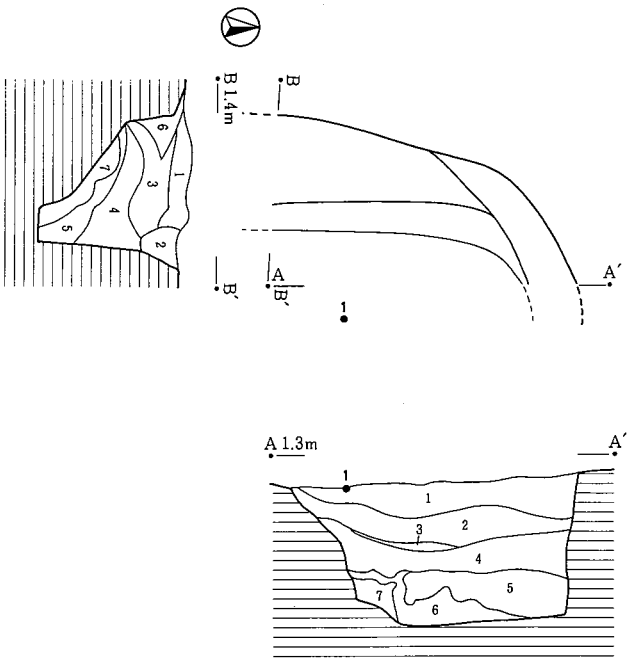
ＳＫ－１５４号は11A-59・69グリッドから検出された土坑である。南区中央調査区最南端に位置する。検出部分が少ないため全体形は不明である。上端部の径は１ｍで確認面からの掘り込みの深さは70cmである。壁はかなり斜めに立ち上がっている。底部及び壁面は地山の淡黄色粘土層であり，覆土上・中層から，奈良・平安時代の土器片を出土した。図示した遺物を含め土師器片285ｇ，須恵器片35ｇ，礫4ｇ，軽石2ｇを出土している。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。

遺物１は土師器の坏である。胎土に細砂粒，褐色粒，雲母を含み，にぶい黄橙色から橙色で焼成は良好である。下部をヘラケズリしている。

ＳＫ－１５５（第52図，図版17・21）

ＳＫ－１５５号は11A-49グリッドから検出された地山の淡黄色粘土層に掘り込まれた土坑である。南区中央調査区に位置する。上端部の径は長軸2.8ｍ，短軸1.42ｍで全体の形は不明だが，円形の土坑と思われる。確認面からの掘り込みの深さは１ｍである。断面は逆台形状で上部が広がっている。壁面及び底部は地山の粘土層を掘り込んでおり，底面は平坦である。掘削中，底部から地下水と砂が吹き出した。土師器片及び須恵器片が出土している。また炭化物（木材）も混じっており，少量だが焼土が検出された。本遺構はＳＫ－１５９を伴い，地下水や雨水の溜井戸と思われる。図示した遺物を含め土師器片1,187ｇ，須恵器片150ｇ，自然礫409ｇを出土している。

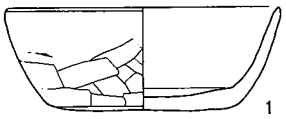
遺物１は土師器の坏である。全体の３/５が遺存している。胎土に細砂粒・雲母・白色針状物質を含み，色調はにぶい橙色で，焼成は良好である。ロクロ成形で底部付近をヘラケ




ＳＫ－１５４（東）Ａ－Ａ′
1．暗褐色土　粘質土　鉄分の沈着あり　地山の淡黄色粘土を少量含む
　　小土器片・炭化物を僅かに含む　しまりあり
2．暗褐色土　粘質土　鉄分の沈着あり　径1cm内外の淡黄色粘土を多く含む
　　小土器片・炭化物を僅かに含む　しまりあり
3．淡黄色土　暗褐色粘質土を中量含む　筋状に地山の淡黄色粘土が入っている
4．暗褐色土　粘質土　淡黄色粘土を少量含む
5．暗褐色土　粘質土　４層よりも色目は濃くなる
　　地山の粘土がブロック状に入り込む
6．暗褐色土　粘質土　淡黄色粘土が中量含まれる
7．淡黄色土　暗褐色土を混在する層

ＳＫ－１５４（南）Ｂ－Ｂ′
1．暗褐色土　粘質土　鉄分の沈着が僅かに見られる　淡黄色粘土の入り込みは微量
　　炭化物を僅かに含む　しまりあり
2．暗褐色土　鉄分の沈着あり　淡黄色粘土が微量含まれる　粘質土　しまりあり
3．暗褐色土　鉄分の沈着あり　淡黄色粘土を少量含む　粘質土　炭化物を僅かに含む
　　しまりあり
4．暗褐色土　粘質土　淡黄色粘土を少量含む　鉄分の沈着あり　炭化物を僅かに含む
　　しまりあり（(東）の４層と同じ）
5．暗褐色土　粘質土　４層よりも色相は濃くなる　地山の淡黄色粘土がブロック状に入る
　　しまりあり（(東）の５層と同じ）
6．淡黄色土　暗褐色粘質土を少量含む　地山の淡黄色粘土が多く入り込む
7．淡黄色土　暗褐色粘質土を少量含む
　　地山の淡黄色粘土が６層よりも多くブロック状に入る

0　(1/40)　2m




0　(1/3)　10cm

第51図　SK-154号と出土遺物

ズリしている。2は土師器の坏である。胎土に細砂粒・雲母・褐色粒を含み，色調はにぶい橙色で焼成は良好である。3は土師器の坏である。胎土に砂粒・褐色粒・白色針状物質を含む。色調は橙色，焼成は良好である。

ＳＫ－１５６（第53図）

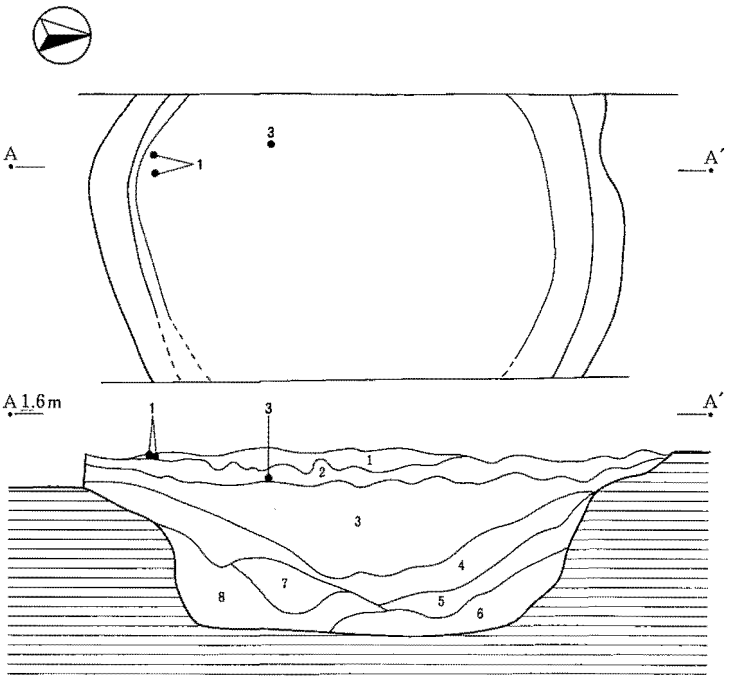
ＳＫ－１５６号は11A-39グリッドから検出された土坑と思われる。南区中央調査区に位置する。検出された上端部は長軸１ｍ，短軸0.9ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは19cmである。東側が調査区外となるため全掘されていない。底面にピット状の掘り込みが見られる。壁の立ち上がりは緩やかである。土坑状のものだが，底部は平坦ではなく，複雑な掘り込みも見られ，形状把握は難しい。遺物は土師器片25ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。

ＳＫ－１５７（第54図）

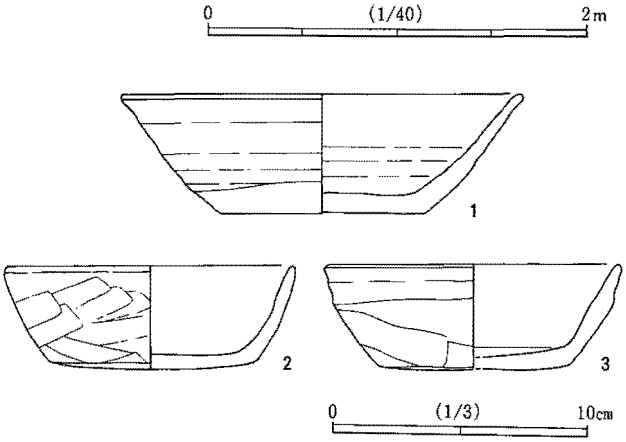
ＳＫ－１５７号は11A-29グリッドから検出された土坑である。南区中央調査区に位置する。検出された上端部の径は長軸1.26ｍ，短軸0.3ｍだが，大部分が調査区外となり平面形は不明である。確認面からの掘り込みの深さは24cmである。覆土は暗褐色土に淡黄色の粘土が混入していた。形状は擂り鉢状の土坑と思われる。東側は調査区外に続く。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＫ－１５８（第55図，図版17）

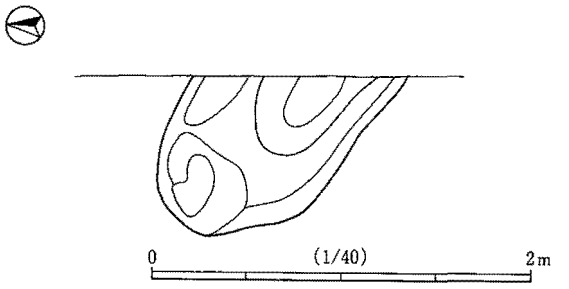
ＳＫ－１５８号は11A-19グリッドから検出された土坑である。南区中央調査区に位置する。開口部の径は長軸1.28ｍ，短軸1.04ｍの円形で，底面の直径0.93ｍの円形，確認面からの掘り込




ＳＫ－１５５
1．粘質暗褐色土　粘質の灰色土を少量含む
2．粘質暗灰色土　粘質の暗褐色土を少量含む　しまりあり
3．粘質暗褐色土　暗灰色粘質土を少量含む
土師器片，炭化物をわずかに含む
4．粘質暗褐色土　暗灰色粘質土を少量含む
土師器片，炭化物をわずかに含む
淡黄色粘土をブロック状に少量含む
5．粘質暗褐色土　暗灰色粘質土を少量含む
淡黄色粘土をブロック状に中量含む
6．粘質暗褐色土　５層より色が濃い
7．粘質暗褐色土　淡黄色粘土をわずかに含む
8．淡黄色土　灰色土・暗褐色土が混入
地山の淡黄色土を多く含む




第52図　SK-155号と出土遺物




第53図　SK-156号

みの深さは26cmである。底部はほぼ平坦である。壁は斜めに立ち上がっている。断面形は逆台形である。覆土は鉄分の沈着のある砂質土が混じった暗褐色土である。東側は一部調査区外に続く。西側はＳＫ－１６１を切って掘られている。遺物は土師器片35ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＫ－１６１（第55図，図版17）

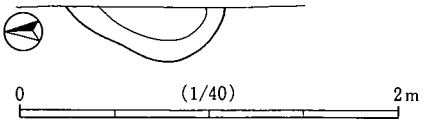
ＳＫ－１６１号は11A-18グリッドから検出された土坑である。南区中央調査区に位置する。検出された部分が少ないが上端部の径は1.35ｍで，平面形は円形と思われる。底面の径は0.43ｍ，確認面からの掘り込みの深さは約15cmである。暗褐色粘質土を覆土としている。東側でＳＫ－１５８に切られる。遺物は土師器片36ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＫ－１５９（第56図，図版17）

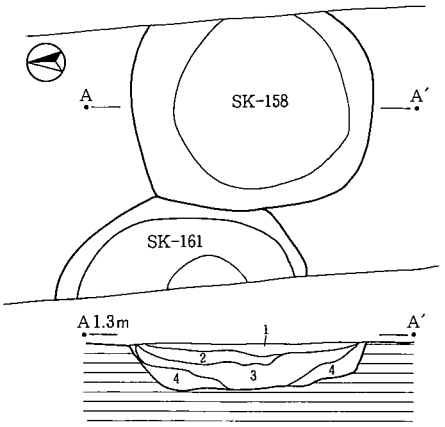
ＳＫ－１５９号は11A-49グリッドから検出された土坑である。南区中央調査区に位置する。ＳＫ－１５５の遺構内中央部に検出された土坑状の遺構である。上端部の径は長軸0.96ｍ，短軸0.75ｍの楕円形で，底面は最大径0.6ｍの楕円形，確認面からの掘り込みの深さは38cmである。壁は斜めに立ち上がっている。ＳＫ－１５９はＳＫ－１５５の遺構内に掘られた遺構と思われ，地下水及び雨水の溜井戸の可能性もある。遺物は土師器片47ｇ，須恵器23ｇ，礫５ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＫ－１６０（第57図，図版17）

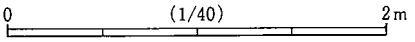
ＳＫ－１６０号は１０A-89・99グリッドから検出された土坑である。南区中央調査区に位置する。上端部の径は長軸0.84ｍ，短軸0.76ｍの楕円形で，確認面からの掘り込みの深さは11cmである。覆土は暗褐色土である。底部は西側がやや深くなっている。東側は調査区外に続く。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。



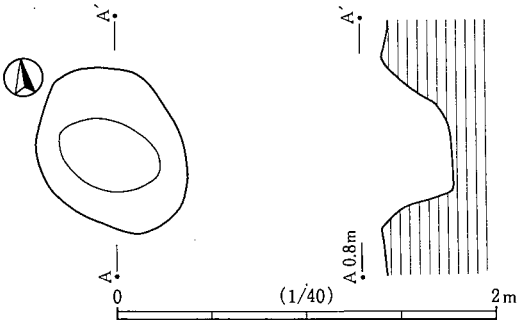

第54図　SK-157号



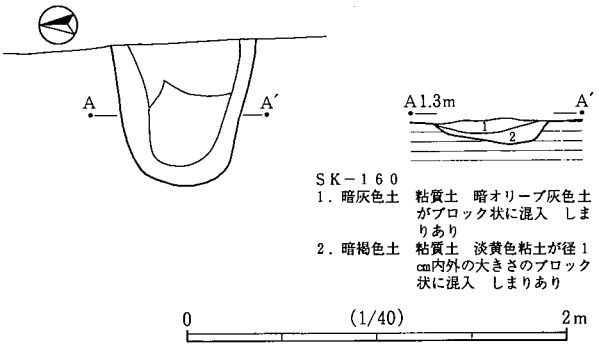

ＳＫ－１５８
1．灰色粘質土　鉄分の沈着あり　淡黄色粘土を微かに含む　しまりあり
2．灰色粘質土　鉄分の沈着が増す　淡黄色粘土を微かに含む　しまりあり
3．灰色粘質土　鉄分の沈着は２層と同程度　淡黄色粘土がブロック状に少量　しまりあり
4 黄灰色粘質土　鉄分の沈着は２層と同程度　淡黄色粘土が多く含まれる　しまりあり




第55図　SK-158・161号




第56図　SK-159号




第57図　SK-160号

4　溝状遺構

ＳＤ－００１（第58図，図版５）

ＳＤ－００１号は４Ａ-93グリッドから５Ａ-04グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ西北西から東南東方向である。検出長４ｍ，幅0.8ｍ，確認面からの掘り込みの深さは４cmから11cm程度である。断面形は逆台形で，底面は平坦である。ＳＤ－００４号，ＳＩ－００５号，ＳＥ－００７号と重複しており００５号より新しく００４号，００７号より古い。遺物は土師器片709ｇ，礫43ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－００４（第58図）

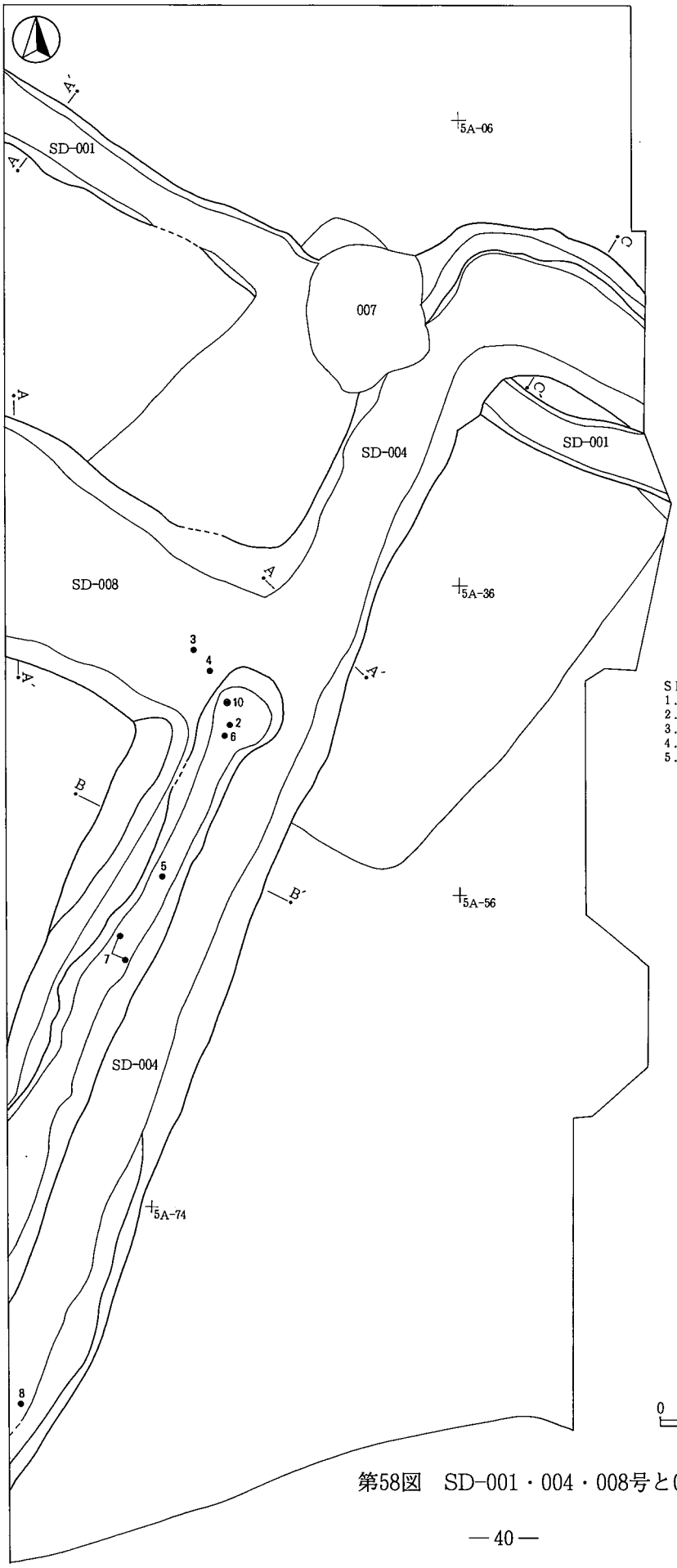
ＳＤ－００４号は５Ａ-06グリッドから５Ａ-83グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北東から南南西方向である。検出長19ｍ，幅2.6ｍ，確認面からの掘り込みの深さは63cm程度である。断面形に掘り直しの段が見られる。北端で東南東方向に直角に曲がっている。その先は調査区外に延びる。南南西端も調査区外に延びる。００８と００４の新旧関係は平面的には捉えられなかったが，００８が古く次に００４が掘られ，もう一度００８を掘り直したように思われる。図示した遺物を含め土師器片1,890ｇを出土している。

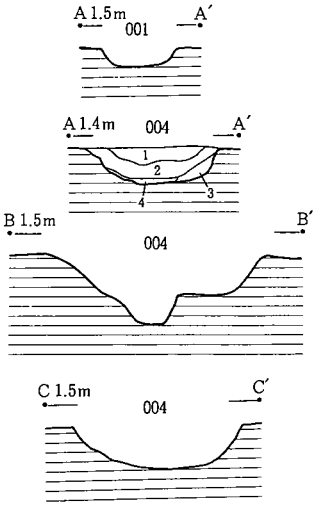
遺物１は土師器の坏の口縁部 である。口径の１/４ほどが遺存している。復元口径12.2cmである。砂粒，褐色粒，雲母，白色針状物質を含み，にぶい黄橙色をしている。焼成は良好である。２は砥石である。

ＳＤ－００８（第58・59図，図版６・19）

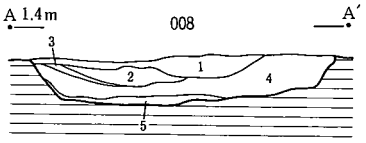
ＳＤ－００８号は５Ａ-23グリッドから５Ａ-34グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ西北西から東南東方向に延び，ＳＤ－００４と重複し直角に曲がって南南西方向に延びている。新旧関係はＳＤ－００８が古く，次にＳＤ－００４が掘られもう一度００８を掘り直している。検出長12ｍ，幅2.5ｍ，確認面からの掘り込みの深さは55cm程度で，断面形は逆台形である。図示した遺物を含め土師器片6,350ｇ，須恵器片978ｇ，自然礫370ｇを出土している。

遺物１は滑石製の管玉である。穴は貫通していない。２から８は土師器の坏である。２は全体の２/３が遺存しており，底部は遺存している。底部に回転糸切り痕を残す。内外ともに摩滅しており調整は不鮮明である。胎土に砂粒・褐色粒を含み，色調はにぶい黄橙色から橙色で，焼成は良好である。３はロクロ成形でほぼ遺存している。底部に回転糸切り痕を残し，胎土に砂粒，褐色粒を含み，色調はにぶい黄橙色から橙色で内面に油煙痕がある。４はロクロ成形でほぼ遺存している。底部は回転糸切り後ヘラケズリ調整している。５はほぼ遺存している。ロクロ成形で，底部に回転糸切り痕を残す。胎土に細砂粒を含み，色調は橙色，焼成は良好である。６はほぼ遺存している。ロクロ成形で胎土に砂粒，褐色粒を含み色調は外面はにぶい黄橙色から橙色，内面は橙色からにぶい黄橙色であり焼成は良好である。７はほぼ遺存している。ロクロ成形で，底部は回転糸切り後ヘラケズリしている。胎土に砂粒，褐色粒を含み，色調はにぶい橙色で焼成は良好である。８は全体の１/３が遺存している。胎土に細砂粒を含み，色調はにぶい黄橙色から橙色で，焼成は良好である。９，10は大型の環状土錘である。

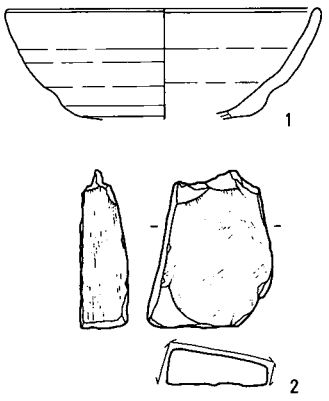



SD－004
1．黒灰色土　やや砂質の灰褐色土と黒色土が混じる
2．暗青灰色土　しまりのある粘質土を主体にする
3．暗褐色土　シルトの小ブロックを含む
4．黄褐色土　シルト状の黄色土を主体にする



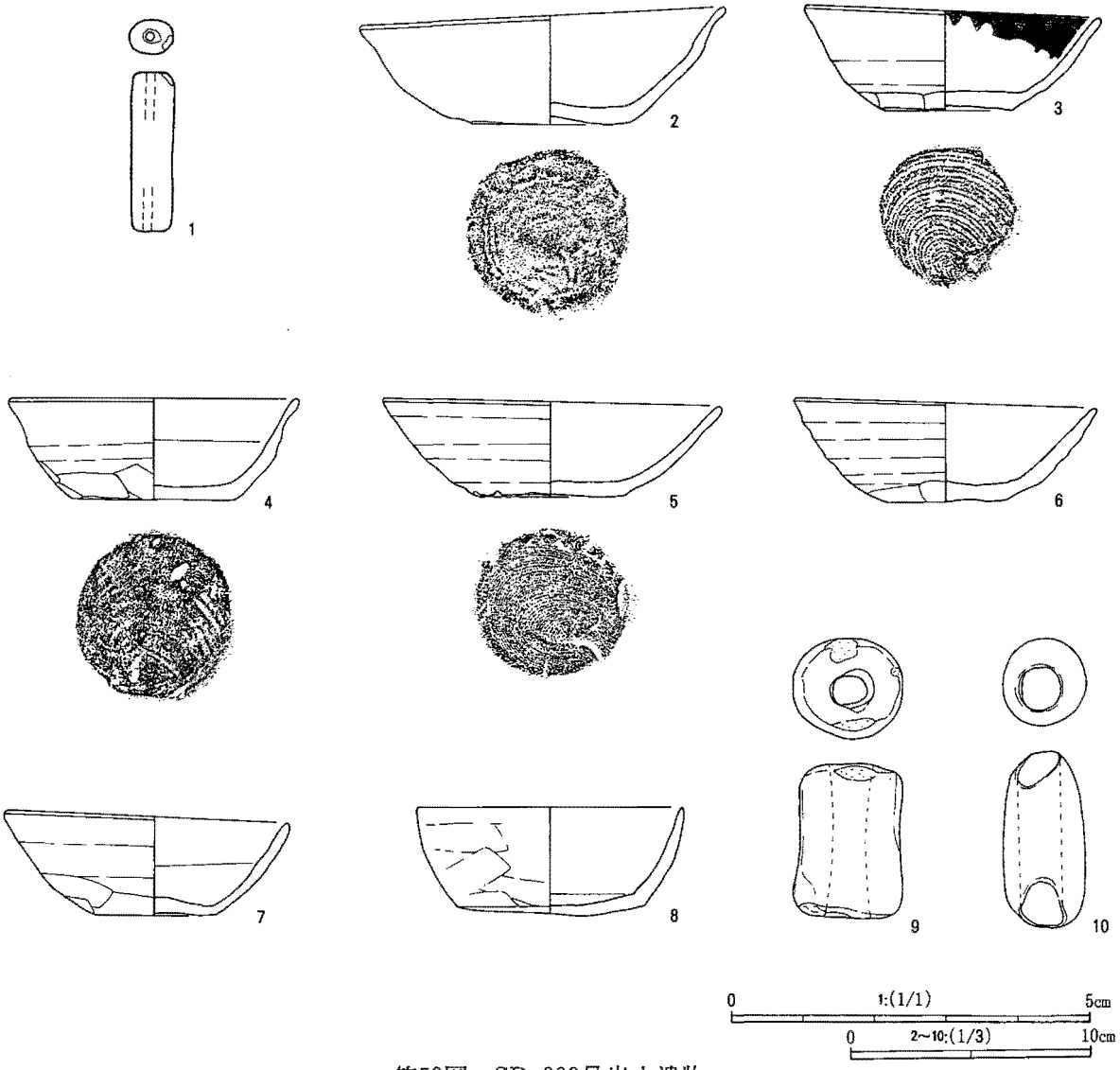

SD－008
1．暗褐色土　しまりのある粘質土に黄色土が混ざる
2．暗青灰色土　しまりのある粘質土
3．暗黄褐色土　シルト状の黄色土を主体とする
4．暗青灰色土　しまりのある粘質土に小黄色土ブロックを含む
5．暗褐色土　粘質の黄色土のブロックを主体にする




0　(1/3)　10cm

0　(1/80)　4m

第58図　SD-001・004・008号と004号出土遺物




第59図　SD-008号出土遺物

ＳＤ－０３３Ａ（第60図，図版８）

ＳＤ－０３３Ａ号は10Ｂ-52グリッドから11Ｂ-62グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ南北方向である。検出長33ｍ，幅0.9ｍ，確認面からの掘り込みの深さは65cm程度である。ＳＤ－０３３Ｂに切られている。ＳＤ－０３３ＡはＳＤ－０３３Ｂを埋め戻し，掘り直している。断面観察によると０３３Ｂ→０３５→０３４→０３３Ａの順に掘られている。南半部の約10ｍの範囲で段を有している。遺物は土師器片603ｇ，須恵器393ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０３３Ｂ（第60図，図版８）

ＳＤ－０３３Ｂ号は10Ｂ-62グリッドから10Ｂ-92グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ南北方向である。検出長30.5ｍ，幅0.75ｍ，確認面からの掘り込みの深さは30cm程度である。ＳＤ－０３３Ａを切って掘られている。調査区南端で複雑に交わっている。断面観察によると０３３Ｂが一番古い。

ＳＤ－０３４（第60図，図版８）

ＳＤ－０３４号は１１Ｂ-33グリッドから11Ｂ-52グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはわずかに曲線を描きながらほぼ北北東から南南西方向である。検出長4.2ｍ，幅0.68ｍ，確認面からの掘り込みの深さは12cmから20cm程度である。南南西方向に深くなっている。調査区南端で複雑に交わっている。南側のＳＤ－０３５を切って掘られている。西側で０３３Ａ，０３３Ｂに切られている。調査区外に延びる可能性がある。ＳＤ－０３４とＳＤ－０３５との新旧関係は０３５（古）→０３４（新）である。遺物は土師器片185ｇ，礫183ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０３５（第60図，図版８）

ＳＤ－０３５号は11Ｂ-52グリッドから11Ｂ-53グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北東から南南西方向である。検出長3.3ｍ，幅0.8ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10cmから12cm程度である。ＳＤ－０３４によって壊されているため実際の幅はもっと広かったと思われる。南南西方向に深くなっている。西側で０３３Ａ，０３３Ｂに切られている。調査区外に延びる可能性がある。調査区南端で複雑に交わっている。遺物は図示した遺物を含め土師器片65ｇ，須恵器65ｇを出土している。

遺物１は須恵器の長頸壺の底部である。底部の１/４ほどが遺存している。胎土に微細砂粒を含み，色調は灰色で焼成は良好である。

ＳＤ－０３６（第60図，図版８）

ＳＤ－０３６号は11Ｂ-13グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長1.5ｍ，幅0.5ｍ，確認面からの掘り込みの深さは14cm程度である。東側は調査区外に続く。西側は収束している。畑の畝溝の可能性がある。遺物は土師器片108ｇを

出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０３７（第60図，図版９）

ＳＤ－０３７号は11Ｂ-12グリッドから11Ｂ-13グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長1.8ｍ，幅0.25ｍ，確認面からの掘り込みの深さは4cm程度で比較的浅い。西側でＳＫ－０５１に切られている。ＳＫ－０５１より古い。東側は収束している。ＳＤ－０３９，０４０，０４１と並行している。畑の畝溝の可能性がある。遺物は土師器片８ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０３８（第60図）

ＳＤ－０３８号は11Ｂ-12グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長1.5ｍ，幅0.22ｍ，確認面からの掘り込みの深さは７cm程度で比較的浅い。西側でＳＤ－０３３Ｂに切られており調査区外に続いている可能性があるが中央調査区では検出されていない。東側は収束している。ＳＤ－０４０，０４１と並行している。畑の畝溝の可能性がある。０３３号と重複しており０３３号より古い。遺物は土師器片12ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０３９（第60図）

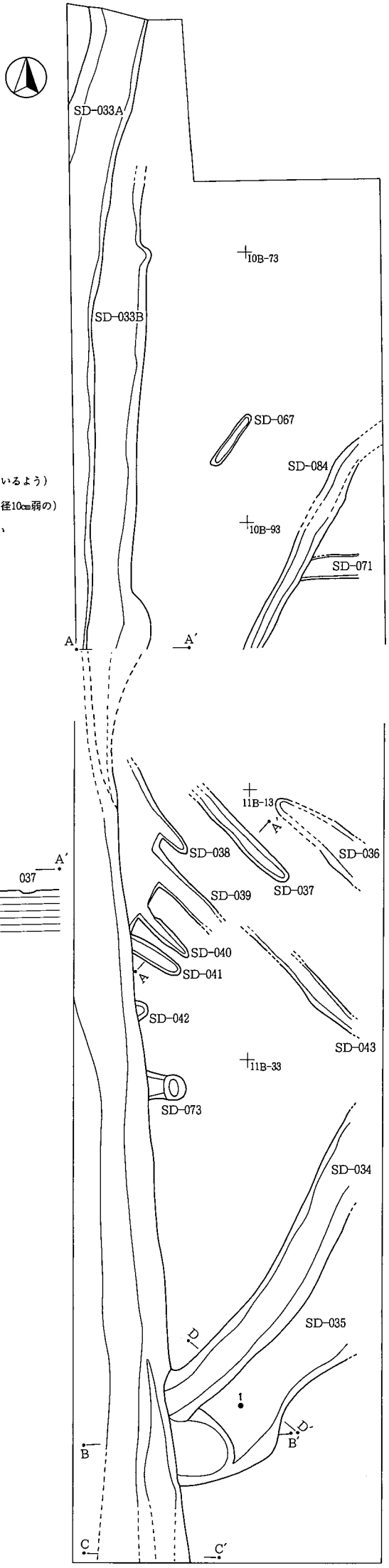
ＳＤ－０３９号は11Ｂ-12グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長1.3ｍ，幅0.32ｍ，確認面からの掘り込みの深さは６cm程度で比較的浅い。南側でＳＫ－０５５に切られているが，さらに延長はしていない。０５５より古い。西側はＳＤ－０３３Ｂに切られている。調査区外に続く可能性があるが，南区中央調査区までは延びない。畑の畝溝の可能性がある。遺物は土師器片30ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

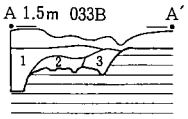
ＳＤ－０４０（第60図）

ＳＤ－０４０号は11Ｂ-22グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長１ｍ，幅0.22ｍ，確認面からの掘り込みの深さは６cm程度で比較的浅い。西側はＳＤ－０３３Ｂに切られている。南区中央調査区までは延びない。南東側は収束している。南側には0.1ｍの間隔でＳＤ－０４１が並行して掘られている。畑の畝溝の可能性がある。遺物は出土していない。

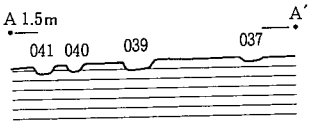
ＳＤ－０４１（第60図）

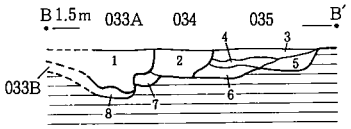
ＳＤ－０４１号は11Ｂ-22グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ西北西方向から東南東方向である。検出長0.9ｍ，幅0.26ｍ，確認面からの掘り込みの深さは７cm程度で比較的浅い。西側にＳＤ－０３３Ｂが存在し切られている。調査区外にも続く可能性がある。南区中央調査区までは延びない。東南東方向は収束している。畑の畝溝の可能性がある。遺物は出土していない。



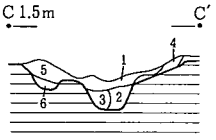




SD－033（A－A′）
1．黒灰色土　黒灰色粘質土のみ
　　（一気に埋められているよう）
2．灰褐色土　灰褐色粘質土に
　　淡黄色土ブロック（径10cm弱の）
　　が少し混入
3．灰褐色土　鉄分の凝集痕が多い
＊人為的な埋め戻しの可能性大。



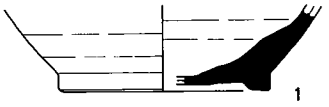

SD－033・034・035
1．黒灰色土　黒灰色の粘質土のみ　一気に埋め戻したような堆積
2．黒灰色土　黒灰色の粘質土のみ　一気に埋め戻したような堆積
3．灰褐色土　灰褐色粘質土主体に淡黄色土（地山）が4層よりも多く入る　自然な堆積
4．灰褐色土　灰褐色粘質土に淡黄色土が少し入る　自然な堆積
5．暗黄褐色土　灰褐色粘質土に淡黄褐色土が少なく入る　横縞状の堆積が見られる　自然な堆積
6．暗黄褐色土　灰色粘質土に淡黄褐色土が少なく入る　自然な堆積
7．暗黄色土　黒色粘質土と淡黄色土がブロック状に混じる　人為的な埋め戻しと判断できる
8．暗黄色土　黒色粘質土と淡黄色土がブロック状に混じる　人為的な埋め戻しと判断できる




SD－033（C－C′）
1．黒灰色土　淡黄色土ブロックが少し混じる埋め戻したような状況
2．黒灰色土　黒灰色粘質土のみ　埋め戻したような状況
3．灰褐色土　淡黄色土ブロック（地山）が少ない　埋め戻したような状況
4．灰褐色土　淡黄色土が混じる　流れ込むような堆積を見せる　自然堆積
5．灰褐色土　灰褐色土のみ　埋め戻し
6．灰褐色土　淡黄色土ブロックが多く入る　埋め戻し

SD－034・035
1．黒灰色土　淡黄褐色土（地山）が少し混じる
2．黒灰色土　淡黄褐色土（地山）が僅かに入る
3．灰褐色土　淡黄褐色土と灰色砂質土を少し含む
4．灰褐色土　淡黄褐色土と灰色砂質土を少し含む
5．黒灰色土　淡黄褐色土（地山）が少し混じる
6．灰褐色土　淡黄褐色土・灰色砂を含む　黒灰色粘質土と共に斑状に入る
7．灰褐色土　淡黄褐色土・灰色砂を含む
8．灰褐色土　灰色砂質土主体に黒色粘質土や淡黄褐色土が斑に入る

0　(1/80)　4m




0　(1/3)　10cm

第60図　溝状遺構とSD-035号出土遺物

ＳＤ－０４２（第60図）

ＳＤ－０４２号は11Ｂ-22グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。検出長0.17ｍ，幅0.3ｍ，確認面からの掘り込みの深さは5cm程度で比較的浅い。検出された長さが短いため方向は不明である。畑の畝溝の可能性がある。遺物は出土していない。

ＳＤ－０４３（第60図）

ＳＤ－０４３号は11Ｂ-23グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長２ｍ，幅30cm，確認面からの掘り込みの深さは８cm程度で比較的浅い。畑の畝溝の可能性がある。遺物は土師器片25ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０６７（第60図，図版10）

ＳＤ－０６７号は10Ｂ-82グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。両端は収束している。検出長0.9ｍ，幅0.15ｍ，確認面からの掘り込みの深さは７cm程度で比較的浅い。畝溝とは掘り込みは同じ位だが，軸も異なり，幅も狭い。遺物は出土していない。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。

ＳＤ－０７１（第60図，図版10）

ＳＤ－０７１号は10Ｂ-93グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ東西方向である。検出長0.8ｍ，幅0.35ｍ，確認面からの掘り込みの深さは８cm程度で比較的浅い。畝溝と思われる。西側でＳＤ－０８４に切られる。０８４の西には検出されていない。東側は調査区外に延びる。遺物は出土していない。

ＳＤ－０７３（第60図）

ＳＤ－０７３号は11Ｂ-32グリッドから検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ東西方向である。検出長0.25ｍ，幅0.4ｍ，確認面からの掘り込みの深さは８cm程度で比較的浅い。東側でＳＨ－０４９に切られている。０４９より東では検出されていない。西側はＳＤ－０３３Ｂに切られていて不明だが，調査区外に続いていると思われる。畑の畝溝の可能性がある。遺物は出土していない。

ＳＤ－０８４（第60図）

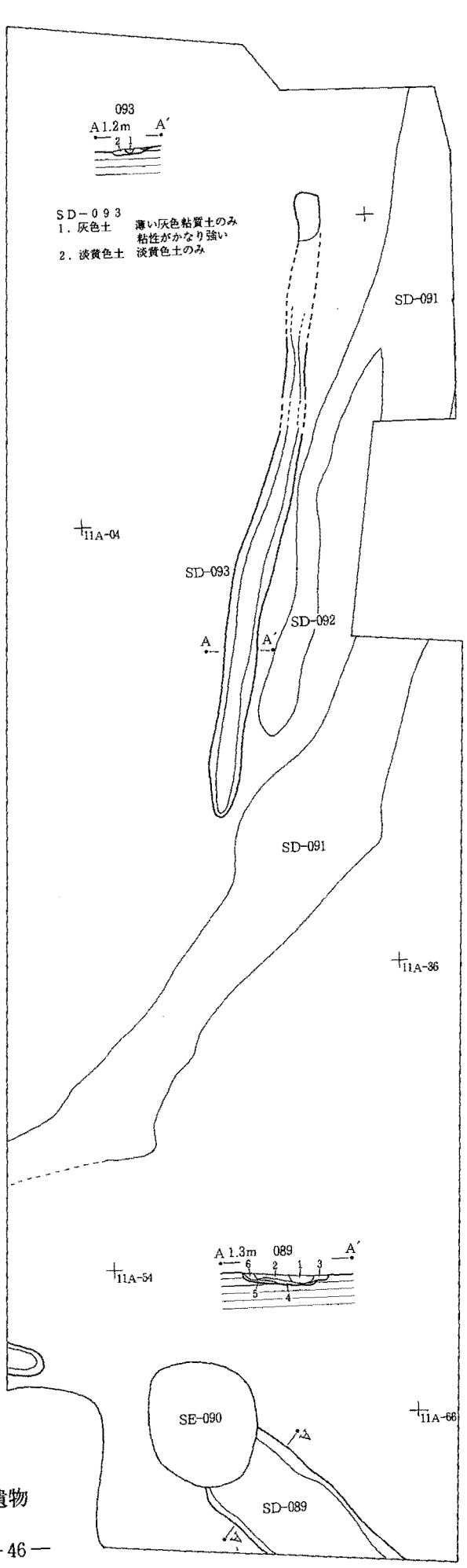
ＳＤ－０８４号は10Ｂ-83グリッドから10Ｂ-93グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北東から南南西方向で直線である。検出長3.35ｍ，幅0.35ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10cm程度で比較的浅い。畝溝と思われる。東側は調査区外に延びる。西側は排水溝のため不明である。ＳＫ－０６９に切られ，ＳＤ－０７１を切る。遺物は土師器片13ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－０８９（第61図，図版11）

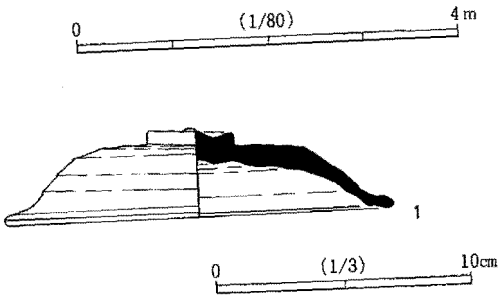
ＳＤ－０８９号は11Ａ-65グリッドから検出された溝状遺構である。南区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長2.6ｍ，幅は一定で1.26ｍ，確認面からの掘り込みの深さは19cm程度である。北西側でＳＥ－０９０に切られる。ＳＥ－０９０とＳＤ－０８９は関連施設の可能性が高く，ＳＥ－０９０で湧いた水を流すため掘られたものと思われる。図示した遺物以外に土師器片147ｇを出土している。遺物１は須恵器の坏蓋である。扁平なつまみを有する。

ＳＤ－０９３（第61図）

ＳＤ－０９３号は10Ａ-85グリッドから11Ａ-14グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北東から南南西方向である。検出長6.6ｍ，幅0.45ｍ，確認面からの掘り込みの深さはは2cmから11cmと浅い掘り込みである。覆土は灰色土である。北側は下げすぎてしまったためか確認できなかった。東側にＳＤ－０９２が並行する。南側は収束している。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。




ＳＤ－０８９
1．灰褐色土　灰色粘質土主体に淡黄色土ブロック（大）が入る
2．灰色土　灰色粘質土主体に淡黄色土粒や灰色砂が僅かに入る
3．灰褐色土　１層と同質で，淡黄色土の混入は少ない
4．灰褐色土　灰色・黒灰色粘質土主体に灰色砂が内側に流れるように堆積
5．灰色土　灰色砂主体に灰色粘質土が僅かに入る　内側に流れるように堆積
6．灰色土　５層とよく似ている　灰色土が少し多い




第61図　SD-089・093・097号と089号出土遺物

ＳＤ－０９７（第61図，図版11）

ＳＤ－０９７号は11Ａ-53グリッドから検出された溝状遺構である。南区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ東西である。検出長0.5ｍ，幅0.4ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10㎝程度である。西側で調査区外に続く。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＤ－１０７（第62・63図，図版12・20）

ＳＤ－１０７号は２Ａ-74グリッドから３Ａ-16グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区東側調査区の中央に位置する。溝の向きは北側が南北方向に検出され，南側は北西－南東方向である。検出長９ｍ，幅0.7ｍから1.1ｍで北側が広い。確認面からの掘り込みの深さは８㎝程度で比較的浅い。ＳＤ－１０８と重複しており１０８より古い。南東端は調査区外に延びる。図示した遺物を含め土師器片1,780ｇ，礫522ｇを出土している。

遺物１は土師器の甕である。口径の１/２が遺存している。胴部は縦方向のヘラケズリ後，横方向のナデを施していると思われるが摩耗して不鮮明である。

ＳＤ－１０８（第62・64図，図版12・20）

ＳＤ－１０８号は３Ａ-25グリッドから３Ａ-53グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区西側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。検出長９ｍ，幅2.2ｍ，確認面からの掘り込みの深さは28㎝程度である。北東端，南西端は調査区外に延びる。北側にテラスが張り出す。東側に溝を掘り直した痕跡が見える。図示した遺物以外に土師器片3,575ｇ，自然礫2,189ｇを出土している。

遺物１は土師器の高台付坏である。ほぼ遺存する。ロクロ成形で，焼成は良好である。胎土に細砂粒，雲母，褐色粒，白色針状物質を含む。２は土師器の甕の底部 である。底部の３/４が遺存する。３は土師器の高台付坏の底部である。底径の２/３が遺存する。４は環状土錘である。

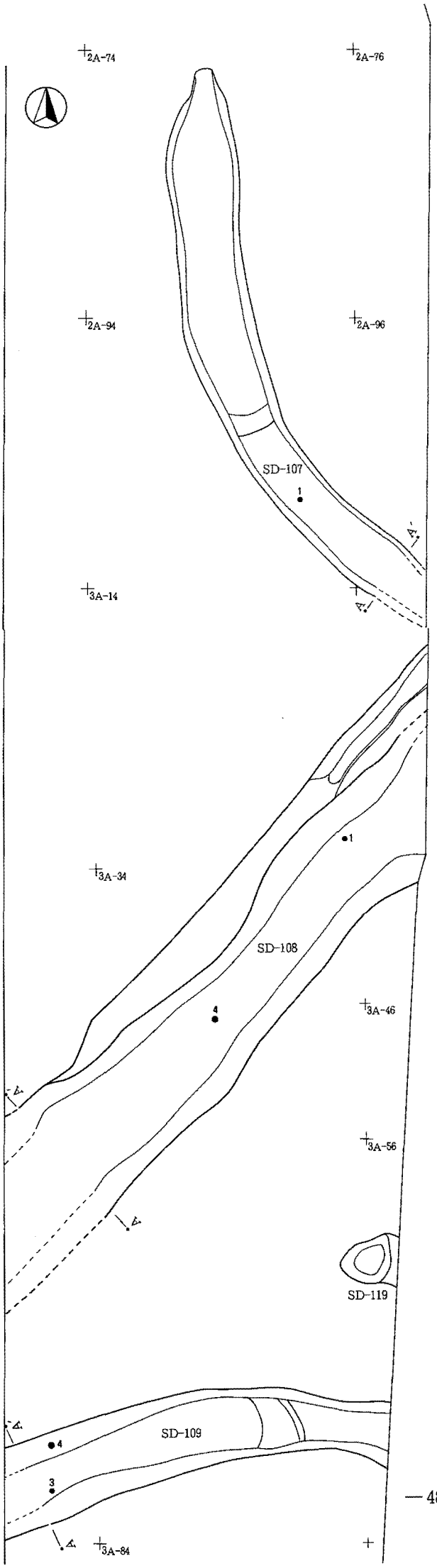
ＳＤ－１０９（第62・65図，図版13・20）

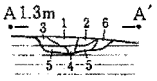
ＳＤ－１０９号は３Ａ-73グリッドから３Ａ-76グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区西側調査区に位置する。溝の向きはわずかに北に膨らむ曲線を描きながらほぼ東西方向に掘られている。検出長5.6ｍ，幅0.8ｍから1.15ｍ，確認面からの掘り込みの深さは36㎝である。東に向かって浅くなっている。東西端は調査区外に延びる。図示した遺物以外に土師器片1,875ｇ，須恵器35ｇ，自然礫1,044ｇを出土している。単独で検出されており他の遺構との切り合いはない。

遺物１，２は土師器の甕の頸部から口縁部である。１は口径の１/５が遺存している。頸部付近に横方向のミガキ，それより下位は斜め方向のミガキと思われる。２は口径の１/６が遺存している。３は土師器の坏の底部である。底部の１/２が遺存している。４は環状土錘である。

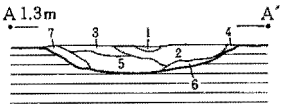
ＳＤ－１１９（第62図）

ＳＤ－１１９号は３Ａ-56グリッドから検出された溝状遺構である。北区西側調査区に位置する。検出長0.9ｍ，幅0.6ｍ，確認面からの掘り込みの深さは17㎝程度である。検出長が短いため方向など不明な点が多い。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はなく，遺物は出土していない。

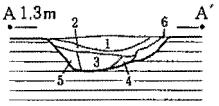



SD－107
1．黒灰色土　黒灰色粘質土のみ
2．黒褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土粒が僅かに入る
3．黒褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土粒が多く混入する
4．黒褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土がブロック状に入る
5．黒褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土がブロック状に多く入る
6．黒褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土がブロック状に入るが，5層より少ない
＊人為的な埋め戻しと思われる。



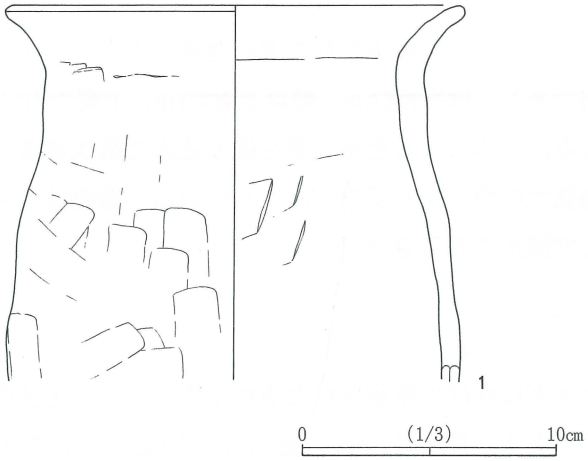

SD－108
1．黒色土　黒色土のみ（泥炭のように真っ黒）
2．灰褐色土　灰色砂質土主体に灰色粘質土が少し混じる
3．灰褐色土　灰色砂質土のみ
4．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土が少し入る
5．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土の小ブロックが少し入る
6．黒褐色土　黒灰色粘質土主体に淡黄色土が大きめのブロックが少し入る
7．淡黄色土　灰色砂質土と淡黄色ブロックが混じる



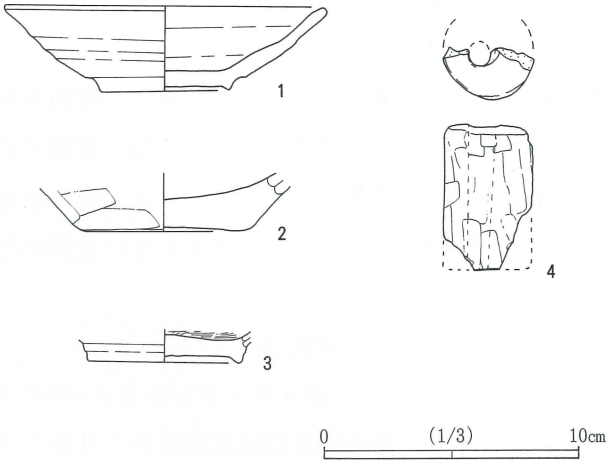

SD－109
1．灰褐色土　灰色砂質土のみ
2．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土を僅かに含む
3．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土ブロックを少し含む
4．淡褐色土　灰色粘質土・灰色砂質土・淡黄色土粒が混じり合う
5．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色土がブロック状に僅かに入る
6．淡黄色土　灰色粘質土と淡黄色土粒が半々位にまんべんなく混じる
＊全般に鉄分が多く、流れ込むような堆積を呈する。自然堆積と思う。

0　(1/80)　4m

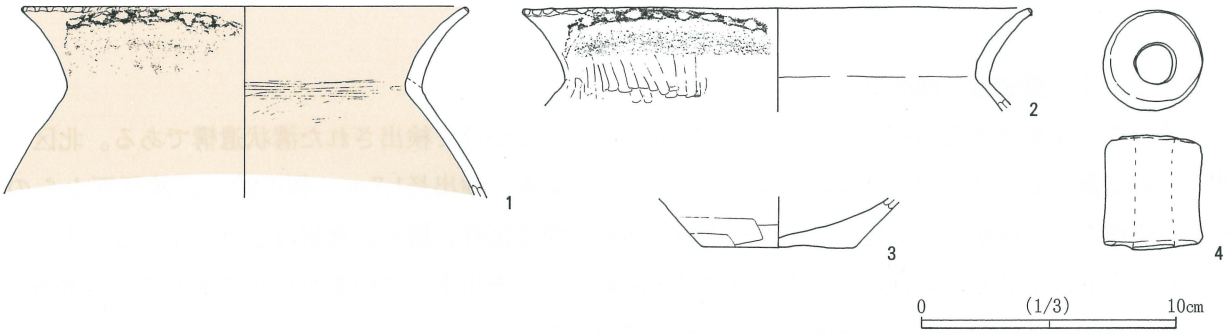
第62図　SD-107・108・109・119号




第63図　SD-107号出土遺物




第64図　SD-108号出土遺物




第65図　SD-109号出土遺物

ＳＤ－１２２（第66図，図版14）

ＳＤ－１２２号は２Ａ-99グリッドから３Ａ-09グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。検出長2.6ｍ，幅は上端で1ｍ，下端で約50cm，確認面からの掘り込みの深さは23cmから25cm程度である。地山の淡黄色粘土層を掘り込んだ溝状遺構である。断面は逆台形状で隅が丸くなっている。褐灰色粘質土の覆土から遺物が出土している。遺物は土師器片368ｇ，須恵器51ｇ，礫406ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－１２３（第66図，図版15）

ＳＤ－１２３号は３Ａ-29グリッドから３Ａ-39グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。検出長1.6ｍ，幅0.2ｍ，確認面からの掘り込みの深さは16cm程度である。西側は調査区外に続く。東側は収束している。溝内に農具痕が４か所で検出された。農具痕の幅は10cmから20cmほどである。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＤ－１２４（第66図，図版15）

ＳＤ－１２４号は３Ａ-39グリッドから３Ａ-49グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。検出長1.7ｍ，幅0.22ｍ，確認面からの掘り込みの深さは３cmから５cm程度で比較的浅い。西側は調査区外に続く。東側は収束している。南東側にＳＤ－１２５，１２６が並行している。遺物は土師器片６ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

ＳＤ－１２５（第66図，図版15）

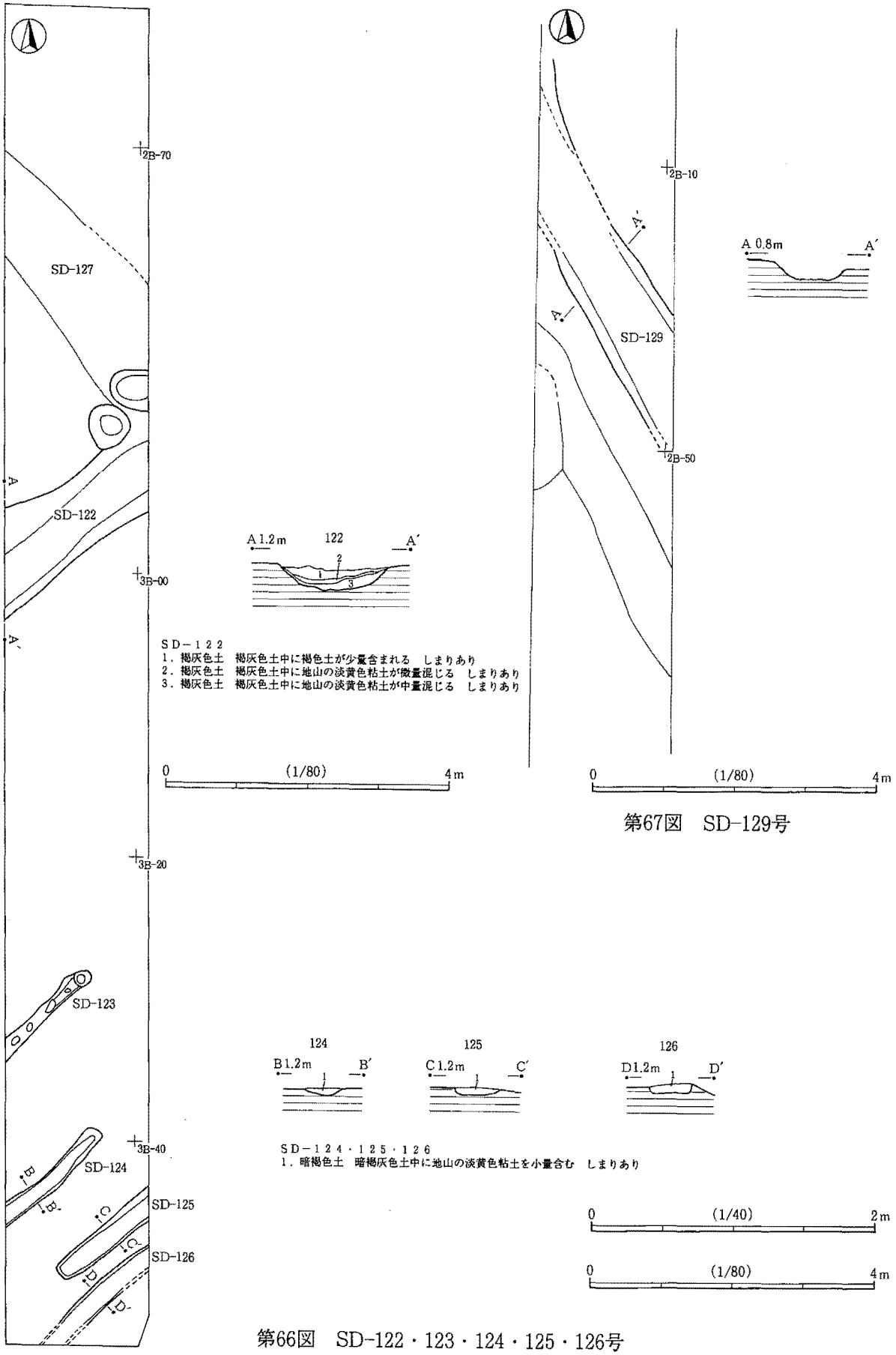
ＳＤ－１２５号は３Ａ-49グリッドから検出された溝状遺構である。北区中央調査区最南端に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。検出長1.6ｍ，幅0.32ｍ，確認面からの掘り込みの深さは４cmから６cm程度で比較的浅い。東側は調査区外に続く。西側は収束している。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は土師器片38ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－１２６（第66図，図版15）

ＳＤ－１２６号は３Ａ-49グリッドから３Ａ-59グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区中央調査区南端に位置する。溝の向きはほぼ北東から南西方向である。検出長1.5ｍ，幅0.3ｍ，確認面からの掘り込みの深さは４cmから５cm程度で比較的浅い。東側，南側は調査区外に続く。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は土師器片35ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＤ－１２９（第67図，図版15）

ＳＤ－１２９号は２Ａ-19グリッドから２Ｂ-40グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区中央調査区北端に位置する。溝の向きはほぼ北西から南東方向である。検出長3.4ｍ，幅は上端で1.05ｍ下端で0.7ｍ，確認面からの掘り込みの深さは21cmから29cm程度である。青灰色粘質土を掘り抜いて構築され




第67図　SD-129号

第66図　SD-122・123・124・125・126号

ている。底部は青灰色砂質土で，断面は逆台形状である。覆土は灰色粘質土である。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＤ－１３６（第68図）

ＳＤ－１３６号は２Ｂ-32グリッドから２Ｂ-63グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区東側調査区に位置する。溝の向きはほぼ北北西から南南東方向で道状に淡黄色粘質土が検出された。検出長7.5ｍ，幅1.45ｍである。東側の断面によれば確認面からの掘り込みの深さは10㎝程度と思われる。東側1.5ｍの地点にＳＤ－１３６が並行して検出された。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＤ－１３７（第68図，図版16）

ＳＤ－１３７号は２Ｂ-22グリッドから２Ｂ-43グリッドにかけて検出された溝状遺構である。北区東側調査区最北端に位置する。溝の向きはほぼ北北西から南南東方向でほぼ直線である。検出長4.5ｍ，幅はほぼ一定で0.94ｍ，確認面からの掘り込みの深さは6㎝から10㎝程度で比較的浅い。青灰色粘質土（砂質土を含む）を掘り込んだ溝状遺構である。覆土は灰色粘質土で貝片を含む。覆土ははがれやすく，溝の形状に沿って簡単にはがれた。北側，東側は調査区外に続く。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。

ＳＤ－１５０（第69図，図版16）

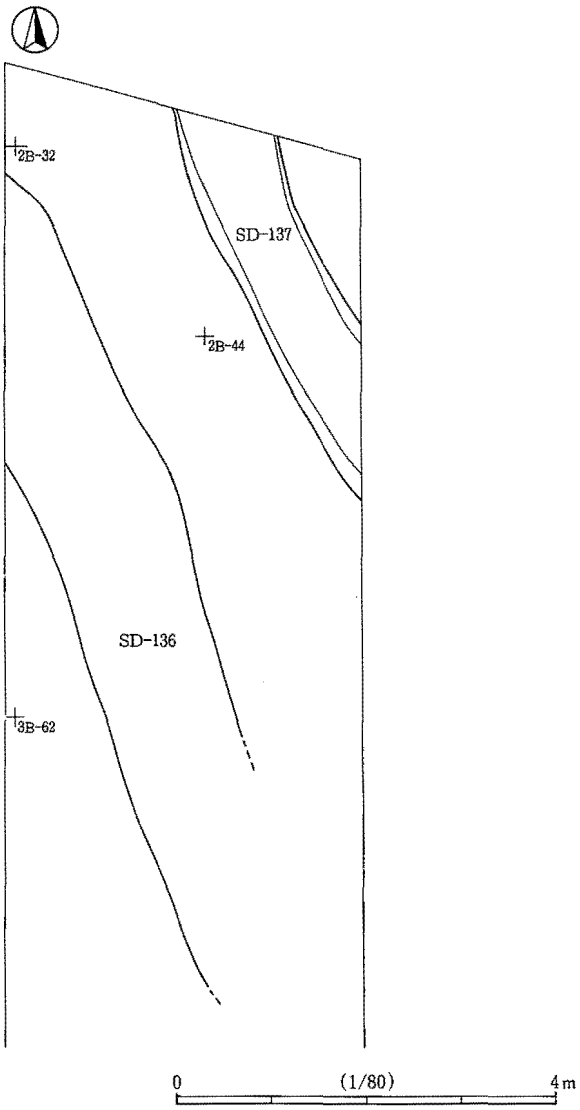
ＳＤ－１５０号は５Ａ-09グリッドから検出された溝状遺構である。中央区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ西北西から東南東方向である。検出長1.9ｍ，幅0.5ｍから1.25ｍ，確認面からの掘り込みの深さは10㎝程度である。東西両端は調査区外に延びる。遺物は土師器片13ｇ，礫34ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

ＳＤ－１５１（第69図，図版17）

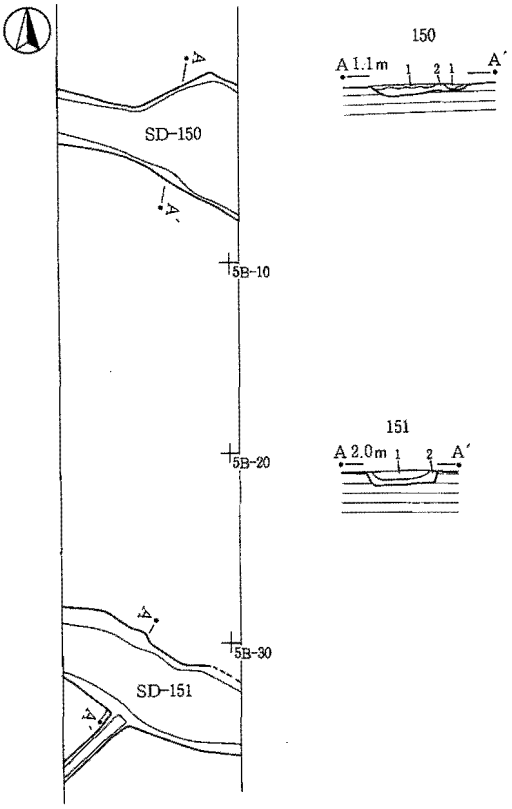
ＳＤ－１５１号は５Ａ-29グリッドから５Ａ-39グリッドにかけて検出された溝状遺構である。中央区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ西北西から東南東方向である。検出長1.9ｍ，幅0.8ｍ，確認面からの掘り込みの深さは14㎝程度である。東西端は調査区外に延びる。暗オリーブ灰色土層を掘り込んだ溝で，覆土は暗灰色粘質土である。底部は平坦で，断面は逆台形状である。遺物は土師器片87ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。

ＳＤ－１６２（第70図，図版17）

ＳＤ－１６２号は10Ａ-98グリッドから10Ａ-99グリッドにかけて検出された溝状遺構である。南区中央調査区に位置する。溝の向きはほぼ東西方向である。検出長1.2ｍ，幅0.3ｍ，確認面からの掘り込みの深さは13㎝程度である。暗褐色土を覆土とし，暗オリーブ灰色土を掘り込んでいる。西側は調査区外に続く。東側は収束している。底部はやや凹凸があるが，おおむね平坦である。単独で検出されており他の遺構との切り合い関係はない。遺物は出土していない。




第68図　SD-136・137号

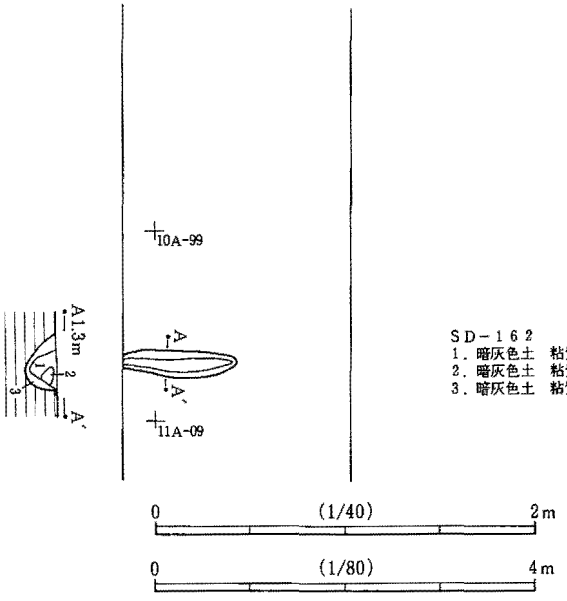



SD－150
1．暗灰色粘質土　ブロック状に暗オリーブ砂質土が微かに含まれる
2．暗灰色粘質土　ブロック状に暗オリーブ砂質土が多く含まれる

SD－151
1．暗灰色土　粘質土　暗オリーブ砂質土を少量含む　しまりあり
2．暗灰色土　粘質土　暗オリーブ砂質土がブロック状に含まれる　しまりあり

0　(1/80)　4m

第69図　SD-150・151号




SD－162
1．暗灰色土　粘質土　暗オリーブ灰色土を僅かに含む　しまりあり
2．暗灰色土　粘質土　暗オリーブ灰色土を多く含む　しまりあり
3．暗灰色土　粘質土　暗オリーブ灰色土を中量含む　しまりあり

第70図　SD-162号

## 5　水田・畑跡

### 水田跡①（第71図）

水田跡①号は２Ａ-13グリッドから２Ａ-65グリッドにかけて検出された。北区西側調査区北側に位置する。南北10ｍ，東西９ｍの範囲にＤ，Ｅ，Ｆ，Ｇの４区画で構成される。

水田区画Ｄ

北，西側が調査区外のため全体規模は不明である。検出された水田面は南北４ｍ，東西１ｍである。

水田区画Ｅ

西側が調査区外のため全体の規模は不明である。検出された水田面は南北4.5ｍ，東西1.1ｍである。

水田区画Ｆ

北側が調査区外となるため全体の規模は不明である。検出された水田面は南北3.7ｍ，東西5.3ｍである。ＳＤ－１０５と重複している。新旧関係は不明である。

水田区画Ｇ

東側が調査区外となるため全体の規模は不明である。検出された水田面は南北5.8ｍ，東西5.6ｍである。ＳＤ－１０５・１０６と重複している。新旧関係は確定できなかった。唐スキ痕Ａ，Ｂ，Ｃと重複している。新旧関係は不明である。

### 水田跡③（第71図）

水田跡③は２Ａ-14グリッドから２Ａ-86グリッドにかけて検出された。北区西側調査区北側に位置する。西側，東側が調査区外となるため全体の規模は不明である。並行する３条の唐スキ痕と思われる溝を伴っている。検出された水田面の規模は南北13.2ｍ，東西6.8ｍである。ＳＤ－１０６と重複している。

唐スキ痕Ａ

緩やかなカーブを描き長さ6.2ｍ，幅20cmから30cm，深さは10cmである。南西にＢが存在する。

唐スキ痕Ｂ

緩やかなカーブを描き長さ４ｍ，幅20cmから50cm，深さは10cmである。南西にＣが存在する。

唐スキ痕Ｃ

半円形で長さ9.8ｍ，幅20cm，コーナー部で最大幅70cm，深さは10cmである。

### ＳＤ－１２０（第71図）

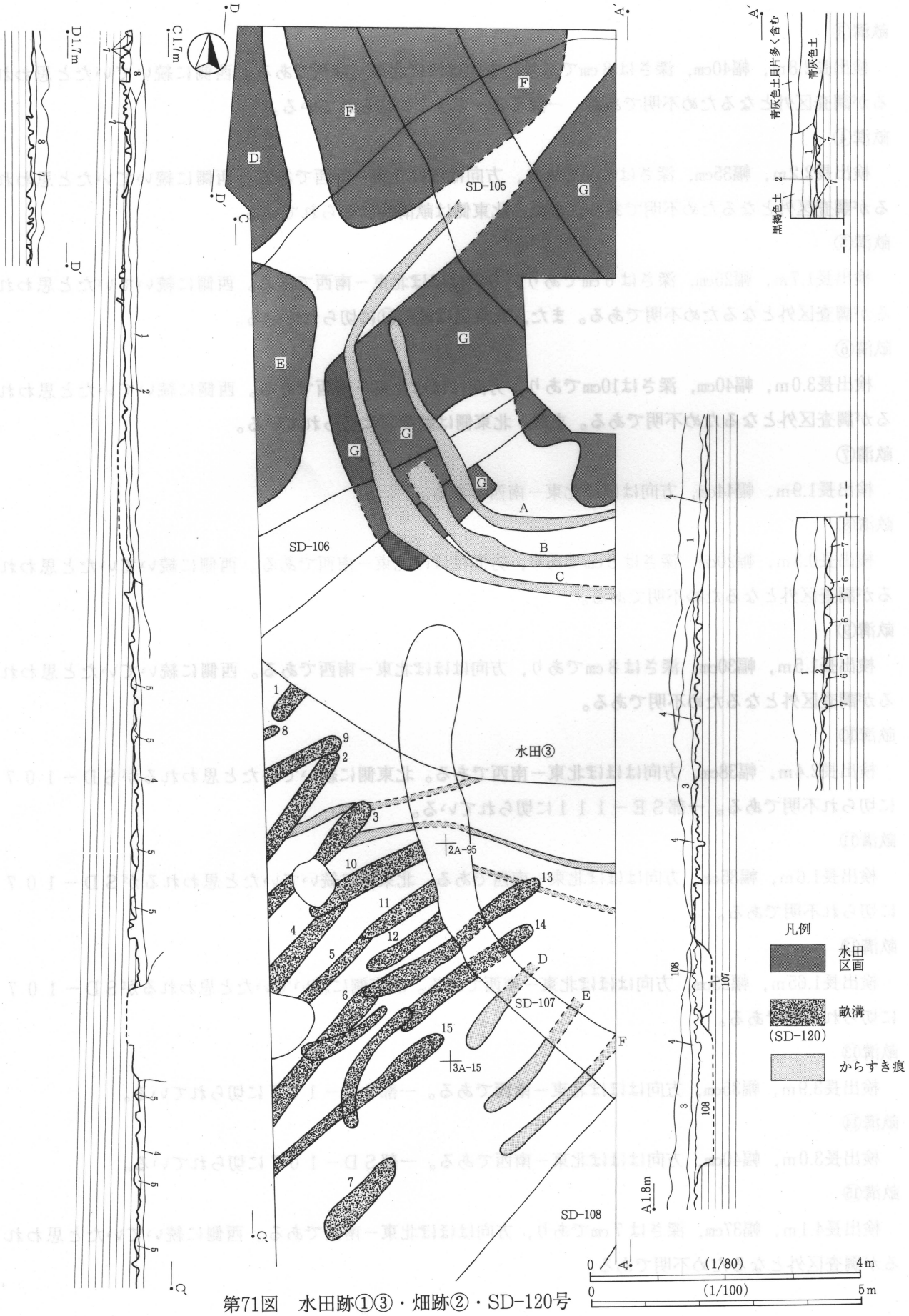
ＳＤ－１２０号は２Ａ-73グリッドから３Ａ-14グリッドにかけて検出された畝溝群である。北区西側調査区中央付近に位置する。各畝溝の規模は次の通りである。断面形は椀形で，覆土はいずれも地山の淡黄色土や灰色砂がまだらに入る黒灰色粘質土である。

畝溝①

検出長0.7ｍ，幅33cmで，方向は北東－南西である。北側に続いていたと思われるが水田跡に壊されており不明である。

畝溝②

検出長2.3ｍ，幅32cm，深さは10cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。




第71図　水田跡①③・畑跡②・SD-120号

畝溝③

検出長2.8m，幅40cm，深さは8cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。一部ＳＥ－１１１に切られている。

畝溝④

検出長2.2m，幅35cm，深さは7cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。また，北東側は畝溝⑩に切られている。

畝溝⑤

検出長1.7m，幅25cm，深さは6cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。また，北東側は畝溝⑪に切られている。

畝溝⑥

検出長3.0m，幅40cm，深さは10cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。また，北東側は畝溝⑬に切られている。

畝溝⑦

検出長1.9m，幅44cm，方向はほぼ北東－南西である。

畝溝⑧

検出長0.3m，幅20cm，深さは8cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。

畝溝⑨

検出長1.5m，幅30cm，深さは8cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。

畝溝⑩

検出長2.4m，幅38cm，方向はほぼ北東－南西である。北東側に続いていたと思われるがＳＤ－１０７に切られ不明である。一部ＳＥ－１１１に切られている。

畝溝⑪

検出長1.6m，幅35cm，方向はほぼ北東－南西である。北東側に続いていたと思われるがＳＤ－１０７に切られ不明である。

畝溝⑫

検出長1.65m，幅25cm，方向はほぼ北東－南西である。北東側に続いていたと思われるがＳＤ－１０７に切られ不明である。

畝溝⑬

検出長3.9m，幅35cm，方向はほぼ北東－南西である。一部ＳＤ－１０７に切られている。

畝溝⑭

検出長3.0m，幅40cm，方向はほぼ北東－南西である。一部ＳＤ－１０７に切られている。

畝溝⑮

検出長4.1m，幅37cm，深さは7cmであり，方向はほぼ北東－南西である。西側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。

唐スキ痕Ｄ

検出長1.9ｍ，幅30cm，方向はほぼ北東－南西である。一部ＳＤ－１０７に切られている。

唐スキ痕Ｅ

検出長1.85ｍ，幅30cm，方向はほぼ北東－南西である。北東側に続いていたと思われるがＳＤ－１０７に切られ不明である。

唐スキ痕Ｆ

検出長2.1ｍ，幅20cm，方向はほぼ北東－南西である。北東側に続いていたと思われるがＳＤ－１０７に切られ調査区外となるため不明である。

ＳＤ－１２１（第72図，図版13）

ＳＤ－１２１号は３Ａ-83グリッドから４Ａ-05グリッドにかけて検出された６条の畝溝群である。北区西側調査区南側に位置する。

畝溝①

検出長1.9ｍ，幅20cm，方向は北西－南東である。北西側，南東側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。

畝溝②

検出長1.0ｍ，幅20cm，方向は北西－南東である。北西側，南東側に続いていたと思われるが調査区外およびＳＤ－１０９に切られ不明である。

畝溝③

検出長3.0ｍ，幅32cm，方向は北東－南西である。北東側に続いていたと思われるが調査区外となるため不明である。

畝溝④

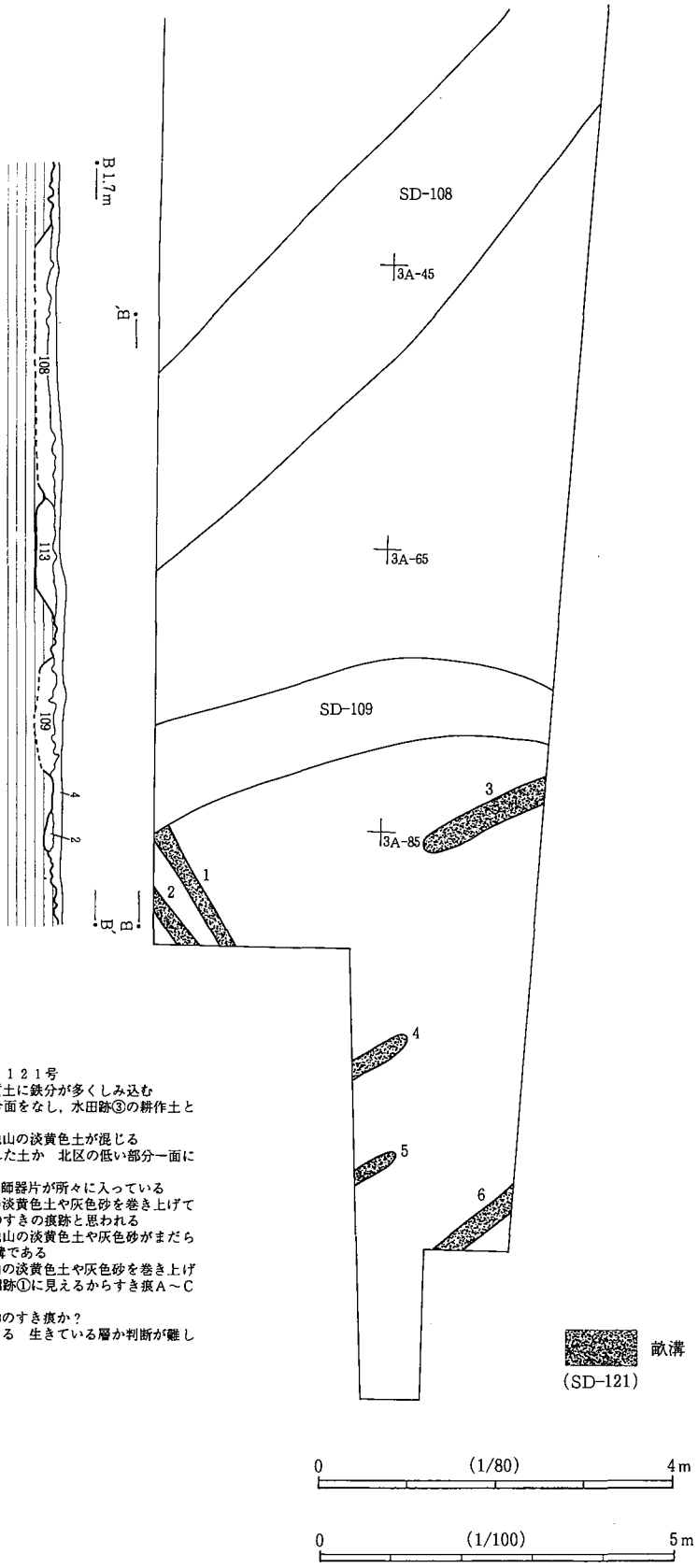
検出長1.0ｍ，幅25cm，方向は北東－南西である。南西側に続いていたと思われるが排水穴掘削のため不明である。

畝溝⑤

検出長0.7ｍ，幅22cm，方向は北東－南西である。南西側に続いていたと思われるが排水穴掘削のため不明である。

畝溝⑥

検出長1.5ｍ，幅27cm，方向は北東－南西である。北東側，南西側に続いていたと思われるが調査区外および排水穴掘削のため不明である。




水田跡①③　畑跡②　ＳＤ－１２０・１２１号

1．灰褐色土　青灰色黄味の灰色粘質土に鉄分が多くしみ込む
　　下の層との間が不整合面をなし，水田跡③の耕作土と思われる
2．青灰色土　青灰色粘質土主体に地山の淡黄色土が混じる
　　水田③のすき床に入れた土か　北区の低い部分一面に入る
3．暗褐色土　盛土と思われるが，土師器片が所々に入っている
4．暗褐色土　暗褐色土主体に地山の淡黄色土や灰色砂を巻き上げて斑に入る　耕地跡②のすきの痕跡と思われる
5．黒灰色土　黒灰色粘質土主体に地山の淡黄色土や灰色砂がまだらに入る　SD-120の畝溝である
6．黒灰色土　黒色粘質土主体に地山の淡黄色土や灰色砂を巻き上げブロック状に入る水田跡①に見えるからすき痕Ａ～Ｃである
7．黒灰色土　６層と近似　水田跡①のすき痕か？
8．黒褐色土　３層とは異なる層である　生きている層か判断が難しい

第72図　SD-121号

## 6　柱穴群

概要

柱穴(ピット)は合計85基検出された。遺構番号は平成11年度は，番号の前にＰを付し，平成12・14年度は番号の前にＳＨの略号を付している。発掘調査時の遺構略号及び番号をそのまま使用した。いずれの柱穴も単独で検出さており掘立柱建物を組めるものは１軒のみであった。

中央区西側調査区柱穴群（第73図，図版５）

Ｐ－００５

Ｐ－００５号は５Ａ-13グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径60cm，底部最大径28cm，確認面からの掘り込みの深さは20cmである。ＳＫ－００３に切られている。

Ｐ－００９

Ｐ－００９号は５Ａ-55グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径15cm，底部最大径８cm，確認面からの掘り込みの深さは11cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１０

Ｐ－０１０号は５Ａ-56グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径20cm，底部最大径10cm，確認面からの掘り込みの深さは９cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１１

Ｐ－０１１号は５Ａ-56グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径28cm，底部最大径12cm，確認面からの掘り込みの深さは16cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１２

Ｐ－０１２号は５Ａ-54・64グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径30cm，底部最大径24cm，確認面からの掘り込みの深さは５cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１３

Ｐ－０１３号は５Ａ-55グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径25cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは38cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１５

Ｐ－０１５号は５Ａ-65グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径33cm，底部最大径22cm，確認面からの掘り込みの深さは７cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１６

Ｐ－０１６号は５Ａ-66グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径28cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは15cmである。遺物は土師器片４ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－０１７

Ｐ－０１７号は５Ａ-65グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径25cm，底部最大径10cm，確認面からの掘り込みの深さは20cmである。遺物は土師器片40ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－０１８

Ｐ－０１８号は５Ａ-65グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最

大径28cm，底部最大径８cm，確認面からの掘り込みの深さは38cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０１９

Ｐ－０１９号は５Ａ-66グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径32cm，底部最大径13cm，確認面からの掘り込みの深さは40cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０２０

Ｐ－０２０号は５Ａ-66グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径36cm，底部最大径26cm，確認面からの掘り込みの深さは30cmである。遺物は土師器片16ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－０２１

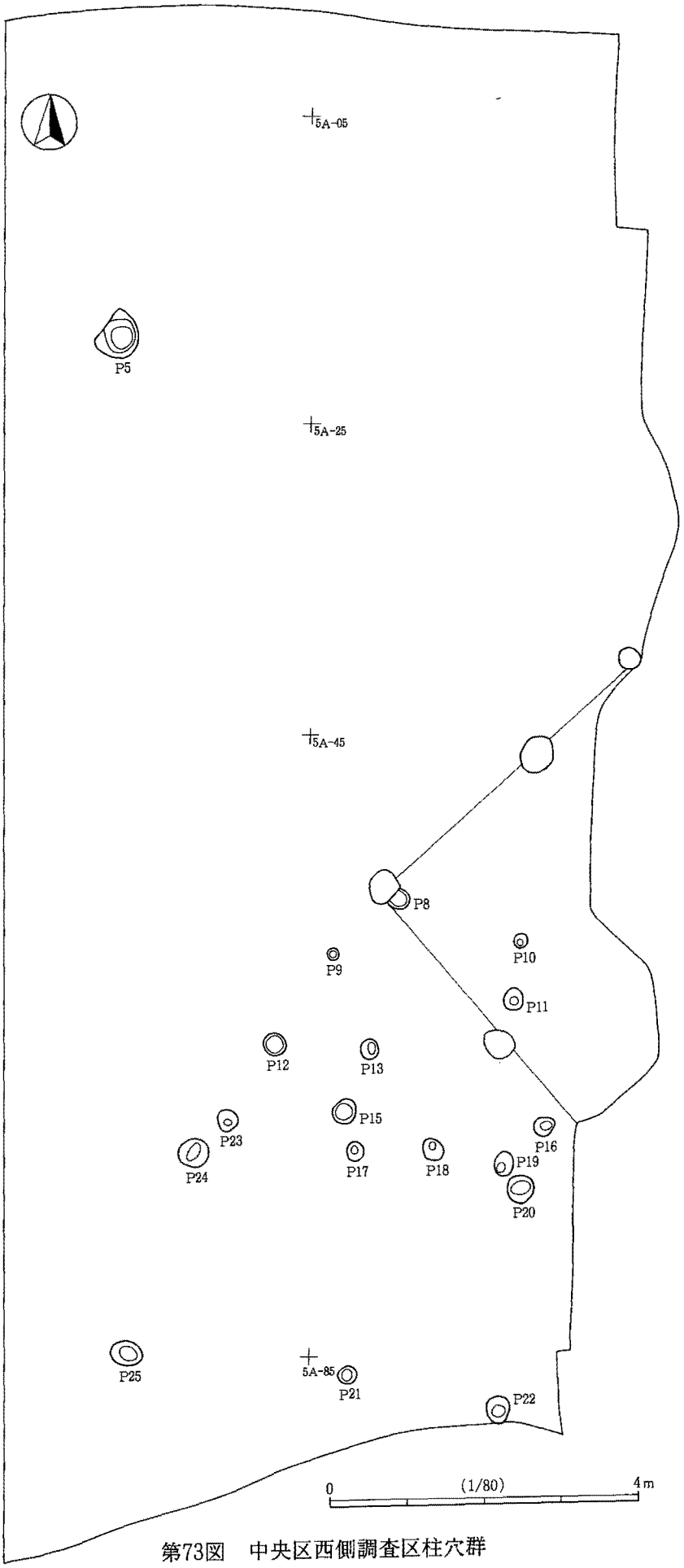
Ｐ－０２１号は５Ａ-85グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径24cm，底部最大径14cm，確認面からの深さは20cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－０２２

Ｐ－０２２号は５Ａ-86グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大径34cm，底部最大径18cm，確認面からの深さは46cmである。遺物は土師器20ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－０２３

Ｐ－０２３号は５Ａ-64グリッドから検出された柱穴である。中央区西側調査区に位置する。上端部最大




第73図　中央区西側調査区柱穴群

径27cm，底部最大径10cm，確認面からの深さは19cmである。遺物は出土していない。

中央区中央調査区柱穴群（第74図）

Ｐ－０２４

Ｐ－０２４号は５Ａ-64グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。上端部最大径40cm，底部最大径24cm，確認面からの掘り込みの深さは41cmである。遺物は土師器片20ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－０２５

Ｐ－０２５号は５Ａ-74・84グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。上端部最大径44cm，底部最大径26cm，確認面からの掘り込みの深さは23cmである。遺物は土師器片８ｇ，須恵器片33ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１３８

ＳＨ－１３８号は４Ａ-79グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。上端部最大径30cmの楕円形である。底部最大径20cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。覆土は暗灰色で暗オリーブ灰色土が混じる。壁際の半分がやや深くなっている。遺物は出土していない。

ＳＨ－１３９

ＳＨ－１３９号は４Ａ-79グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。楕円形のピットで上端部最大径57cm，底部最大径38cm，深さは17cmである。南側がやや深い。覆土は暗灰色粘質土である。遺物は土師器片11ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１４０

ＳＨ－１４０号は４Ａ-89グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。ＳＨ－１４２のピットを切っている。覆土は，暗灰色粘質土で遺物は出土していない。形状は楕円形で，上端部最大径48cm，底部最大径20cm，確認面からの深さは36cmである。

ＳＨ－１４１

ＳＨ－１４１号は４Ａ-99グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。覆土は暗灰色粘質土である。楕円形で上端部最大径63cm，底部最大径33cm，深さは18cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－１４２

ＳＨ－１４２号は４Ａ-89グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。ＳＨ－１４０に切られたピットで，覆土は暗灰色粘質土である。上端部最大径は26cm，底部最大径16cm，深さは９cmである。土師器片42ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１４３

ＳＨ－１４３号は４Ａ-99グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。上端部最大径は約43cm，底部最大径30cm，深さは20cmである。覆土は暗灰色粘質土である。遺物は土師器片11ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１４４

ＳＨ－１４４号は４Ａ-89・99グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。平

面形は楕円形で，上端部最大径72cm，底部最大径48cm，深さは20cmである。遺物は土師器片96ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１４５

ＳＨ－１４５号は５Ａ-09グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。覆土は暗灰色粘質土である。平面形は楕円形で，上端部最大径27cm，底部最大径10cm，確認面からの掘り込みの深さは25cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－１４６

ＳＨ－１４６号は５Ａ-59グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。断面形は擂り鉢に近い。平面形はほぼ円形で，上端部最大径35cm，底部最大径８cm，確認面からの掘り込みの深さは11cmである。暗オリーブ灰色土層を掘り込む。覆土は暗灰色粘質土である。遺物は出土していない。

ＳＨ－１４７

ＳＨ－１４７号は５Ａ-59グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。断面形はほぼ円筒形で，底面は平坦である。ＳＨ－１４８に切られる。最大径45cm，底部最大径37cm，確認面からの掘り込みの深さは10cmである。覆土は暗灰色粘質土である。遺物は出土していない。

ＳＨ－１４８

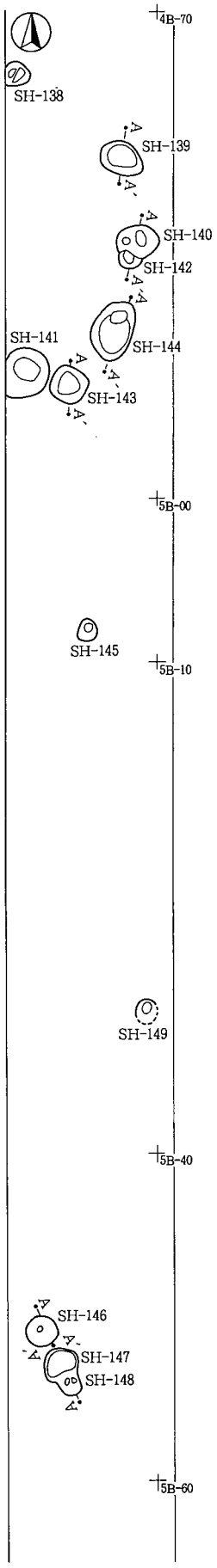
ＳＨ－１４８号は５Ａ-59グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。最大径25cm，底部最大径12cm，確認面からの深さは12cmである。断面の形状は逆台形状である。ＳＨ－１４７を切る形で検出された。覆土は暗灰色粘質土である。遺物は出土していない。

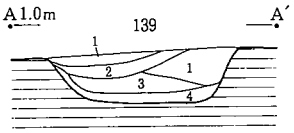
ＳＨ－１４９

ＳＨ－１４９号は５Ａ-39グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。ＳＤ－１５１の溝状遺構を精査中に北側の壁面に暗灰色の覆土があり，掘り進めた結果，確認面より10cm下にピットのプランが検出された。最大径約30cm，底部最大径13cm，深さ9cmの楕円形のピットである。遺物は出土していない。

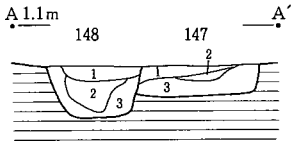
ＳＨ－１５２

ＳＨ－１５２号は６Ａ-89グリッドから検出された柱穴である。中央区中央調査区に位置する。西側壁面に半円形で検出されたピットである。最大径は上端で48cm，底部最大径30cm，確認面からの掘り込みの深さは18cmである。底部はほぼ平坦である。覆土は暗灰色粘質土である。遺物は出土していない。



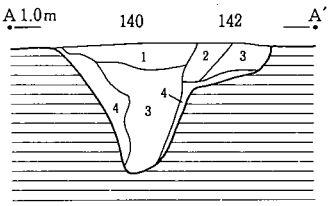




SH－139
1．暗灰色土　粘質土である暗灰色土に砂質土の暗オリーブ灰色土が多く含まれる
2．暗灰色土　粘質土である暗灰色土に砂質土の暗オリーブ灰色土が微かに含まれる
3．暗灰色土　粘質土である暗灰色土に砂質土の暗オリーブ灰色土が少量含まれる
4．暗灰色土　1層より暗オリーブ灰色土は少ない

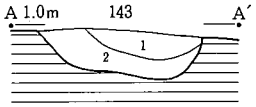



SH－147（P10）
1．暗灰色土　暗オリーブ灰色土を微かに含む
2．暗灰色土　暗オリーブ灰色土を中量含む
3．暗灰色土　暗オリーブ灰色土をブロック状に少量含む

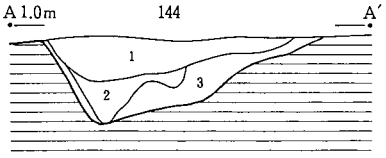
SH－148（P11）
1．暗灰色土　SH－147のP10の覆土より色は濃い暗オリーブ灰色土を微かに含む
2．暗灰色土　1層よりも更に黒色が濃くなる暗オリーブ灰色土を微かに含む
3．暗灰色土　暗オリーブ灰色土が多くなる



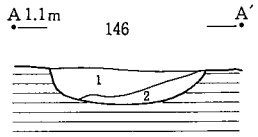

SH－140・142
1．暗灰色土　暗灰色粘質土に暗オリーブ砂質土を少量含む
2．暗灰色土　暗灰色粘質土に暗オリーブ砂質土を中量含む
3．暗灰色土　暗灰色粘質土に暗オリーブ砂質土を微かに含む
4．暗灰色土　暗灰色粘質土に暗オリーブ砂質土を多く含む



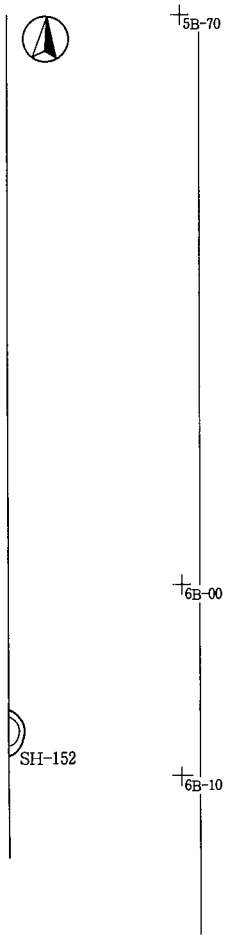

SH－143
1．暗灰色土　黒色の近い暗灰色土で粘質土である　暗オリーブ砂質土が微かに含まれる
2．暗灰色土　黒色に近い暗灰色土に粘質土である暗オリーブ砂質土がブロック状に少量含まれる




SH－144
1．暗灰色土　暗灰色粘質土に暗オリーブ灰色砂質土をブロック状に微かに含む
2．暗灰色土　暗灰色粘質土に暗オリーブ灰色砂質土をブロック状に中量含む
3．暗オリーブ灰色土　砂質土である暗オリーブ灰色土が主体の層に暗灰色粘質土を微かに含む




SH－146（P9）
1．暗灰色土　暗オリーブ灰色土を中量含む
2．暗灰色土　暗オリーブ灰色土を少量含む




0　(1/20)　50cm

0　(1/80)　4m

第74図　中央区中央調査区柱穴群

北区西側調査区柱穴群（第75図，図版13）

ＳＨ－１１４

ＳＨ－１１４号は２Ａ-74グリッドから検出された２基の柱穴である。北区西側調査区に位置する。①上端部最大径46cm，底部最大径30cm，確認面からの掘り込みの深さは12cmである。②上端部最大径52cm，底部最大径38cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－１１５

ＳＨ－１１５号は３Ａ-84・85グリッドから検出された柱穴である。北区西側調査区に位置する。上端部最大径32cm，底部最大径22cm，確認面からの深さは21cmである。遺物は土師器片76ｇ，須恵器片２ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１１６

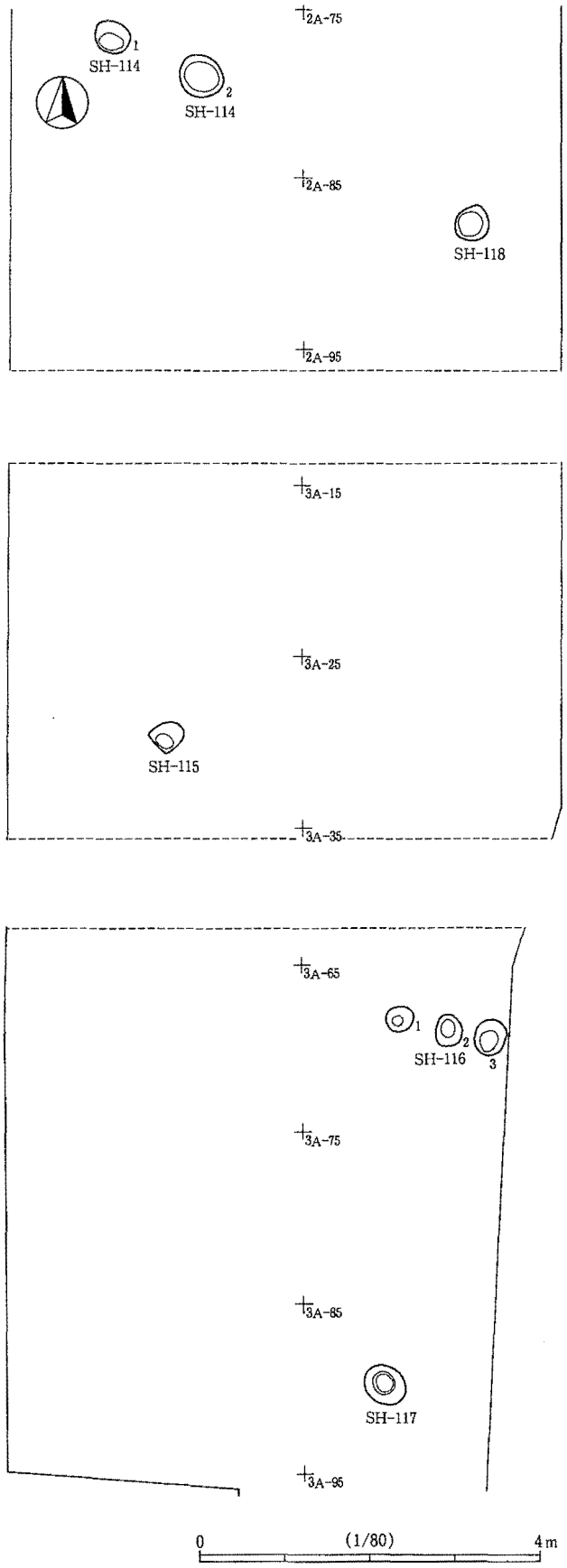
ＳＨ－１１６号は３Ａ-65グリッドから検出された柱穴である。北区西側調査区に位置する。３基のピットからなる。①上端部最大径35cm，底部最大径12cm。②上端部最大径37cm，底部最大径20cmである。③上端部最大径44cm，底部最大径24cmである。遺物は土師器片16ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１１７

ＳＨ－１１７号は３Ａ-84・85グリッドから検出された柱穴である。北区西側調査区に位置する。上端部最大径50cm，底部最大径26cm，確認面からの掘り込みの深さは21cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－１１８

ＳＨ－１１８号は２Ａ-85グリッドから検出された柱穴である。北区西側調査区に位置する。上端部最大径40cm，底部最大径28cm，確認面からの掘り込みの深さは９cmである。遺物は出土していない。




第75図　北区西側調査区柱穴群

中央区東側調査区柱穴群（第76図，図版８）

Ｐ－００１

Ｐ－００１号は５Ｂ-53グリッドから検出された柱穴である。中央区東側調査区に位置する。上端部最大径46cm，底部最大径20cm，確認面からの掘り込みの深さは25cmである。遺物は土師器片38ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－００２

Ｐ－００２号は５Ｂ-43グリッドから検出された柱穴である。中央区東側調査区に位置する。上端部最大径52cm，底部最大径38cm，確認面からの掘り込みの深さは18cmである。遺物は土師器片16ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

Ｐ－００３

Ｐ－００３号は５Ｂ-33・34グリッドから検出された２基の柱穴である。中央区東側調査区に位置する。①は上端部最大径28cm，底部最大径24cm，確認面からの掘り込みの深さは16cmである。②は上端部最大径20cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは16cmである。遺物は出土していない。

Ｐ－００４

Ｐ－００４号は５Ａ-23・33グリッドから検出された柱穴である。中央区東側調査区に位置する。上端部最大径35cm，底部最大径18cm，確認面からの掘り込みの深さは25cmである。遺物は出土していない。

北区中央調査区柱穴群（第77・78図，図版16・21）

ＳＨ－１３１

ＳＨ－１３１号は２Ａ-89・99グリッドで検出された柱穴である。北区中央調査区に位置する。ＳＤ－１２７を検出中に確認面より一段低い位置で，暗褐色土の覆土を持つ柱穴として検出された。当初，溝の覆土と思われていたため断面図は作成されていない。地山の淡黄色粘土を掘り込んでいる。検出された上端の最大径65cm，下端の径約60cm，確認面からの深さは約30cmの柱穴である。形状は上端，下端ともややゆがんでいるがほぼ円形である。ＳＤ－１２２とＳＤ－１２７の溝を切って掘られており，ＳＤ－１２２・１２７より新しい。図示した遺物以外に土師器片170ｇを出土している。

遺物１は底面から出土した土師器の坏である。全体の2／3が遺存している。内面が丁寧に黒色処理されている。底部は手持ちヘラケズリしている。

南区西側調査区柱穴群（第79図，図版11）

ＳＨ－０８８

ＳＨ－０８８号は11Ｂ-43・44グリッドから検出された５基の柱穴である。南区西側調査区に位置する。①上端部最大径42cm，底部最大径30cm，確認面からの掘り込みの深さは28cmである。②上端部最大径52cm，底部最大径23cm，確認面からの掘り込みの深さは６cmである。③上端部最大径33cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは15cmである。④上端部最大径28cm，底部最大径10cm，確認面からの掘り込みの深さは15cmである。⑤は不明である。サブトレレンチ脇のピットは数回作り替えしている。遺物は出土していない。

ＳＨ－１００

ＳＨ－１００号は11Ｂ-65グリッドから検出された３基の柱穴である。南区西側調査区に位置する。①上端部最大径36cm，底部最大径18cm，確認面からの掘り込みの深さは12cmである。②上端部最大径36cm，底部最大径28cm，確認面からの掘り込みの深さは10cmである。③上端部最大径40cm，底部最大径28cm，確認面からの掘り込みの深さは19cmである。遺物は土師器片15ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１０１

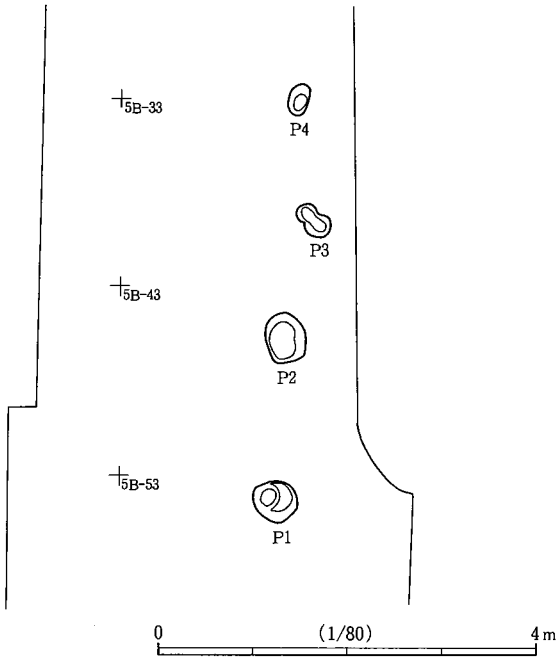
ＳＨ－１０１号は11Ｂ-16グリッドから検出された柱穴である。南区西側調査区に位置する。上端部最大径34cm，底部最大径25cm，確認面からの掘り込みの深さは13cmである。遺物は土師器片58ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－１０２

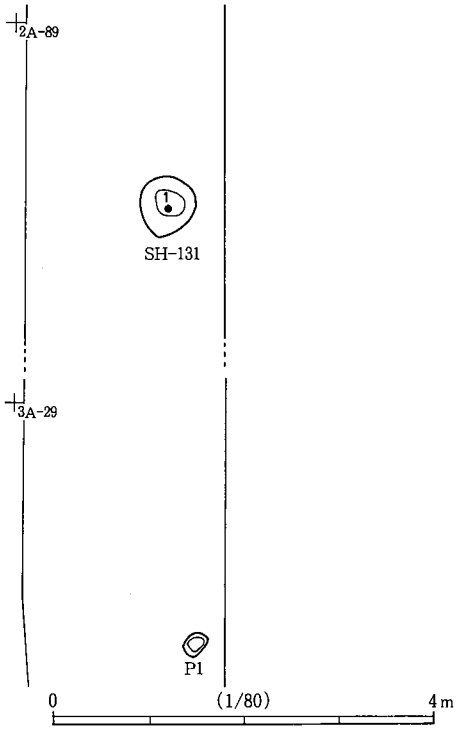
ＳＨ－１０２号は10Ａ-74・84グリッドから検出された柱穴である。南区西側調査区に位置する。上端部最大径21cm，底部最大径13cm，確認面からの掘り込みの深さは17cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－１０４

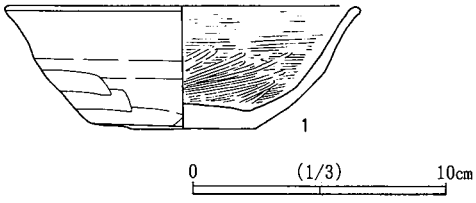
ＳＨ－１０４号は11Ａ-46グリッドから検出された柱穴である。南区西側調査区に位置する。上端部最大径48cm，底部最大径38cm，確認面からの掘り込みの深さは15cmである。遺物は土師器片７ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。



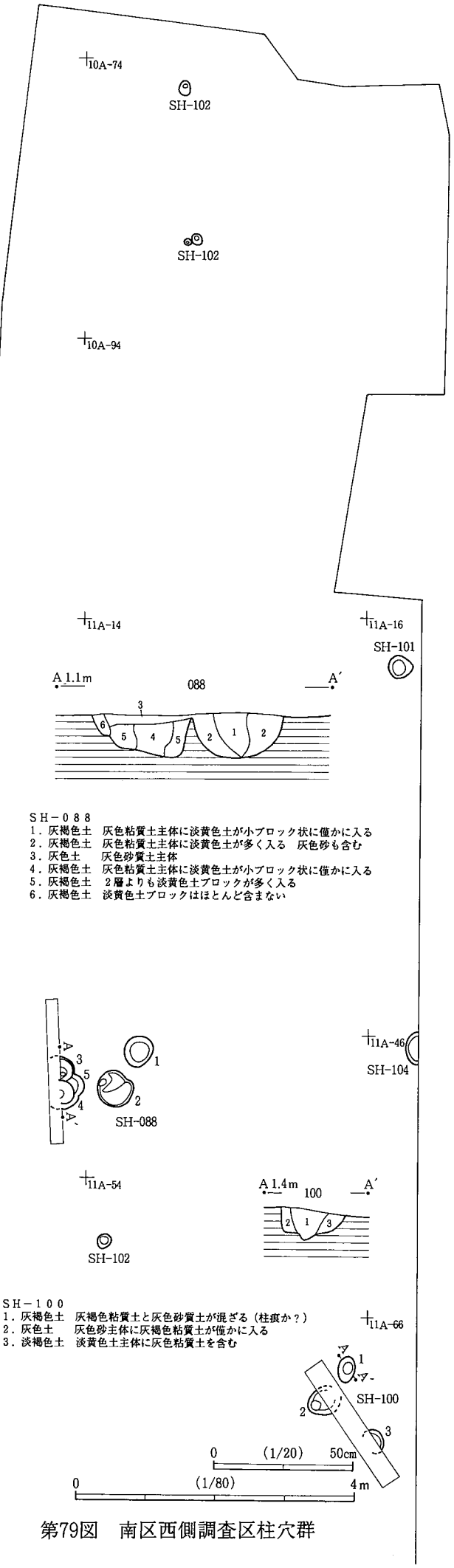

第76図　中央区東側調査区柱穴群




第77図　北区中央調査区柱穴群




第78図　SH-131号出土遺物




第79図　南区西側調査区柱穴群

南区東側調査区柱穴群（第80図，図版９・10）

ＳＨ－０４４

ＳＨ－０４４号は11Ｂ-12グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径38cm，底部最大径20cm，確認面からの掘り込みの深さは18cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０４５

ＳＨ－０４５号は11Ｂ-13・23グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径22cm，底部最大径７cm，確認面からの掘り込みの深さは19cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０４６

ＳＨ－０４６号は11Ｂ-22・32グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径30cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは20cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０４７

ＳＨ－０４７号は11Ｂ-33グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径32cm，底部最大径10cm，確認面からの掘り込みの深さは14cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０４８

ＳＨ－０４８号は11Ｂ-33 グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径32cm，底部最大径12cm，確認面からの掘り込みの深さは19cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０４９

ＳＨ－０４９号は11Ｂ-32グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径34cm，底部最大径24cm，確認面からの掘り込みの深さは24cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０５９

ＳＨ－０５９号は10Ｂ-73グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径36cm，底部最大径24cm，確認面からの掘り込みの深さは15cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０６０

ＳＨ－０６０号は10Ｂ-82グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径40cm，底部最大径18cm，確認面からの掘り込みの深さは21cmである。遺物は土師器片14ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－０６１

ＳＨ－０６１号は10Ｂ-93グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径14cm，底部最大径７cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０６２

ＳＨ－０６２号は10Ｂ-92グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径26cm，底部最大径18cm，確認面からの掘り込みの深さは９cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０６３

ＳＨ－０６３号は10Ｂ-92グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径32cm，底部最大径14cm，確認面からの掘り込みの深さは26cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０６４

ＳＨ－０６４号は10Ｂ-82グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最

大径34cm，底部最大径18cm，確認面からの掘り込みの深さは20cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０６５

ＳＨ－０６５号は10Ｂ-82グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径42cm，底部最大径28cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０６６

ＳＨ－０６６号は10Ｂ-82グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径34cm，底部最大径21cm，確認面からの掘り込みの深さは７cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０７０

ＳＨ－０７０号は10Ｂ-92グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径36cm，底部最大径22cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。遺物は土師器片２ｇを出土しているが小片で図示できる遺物はない。

ＳＨ－０７４

ＳＨ－０７４号は11Ｂ-13グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径34cm，底部最大径22cm，確認面からの掘り込みの深さは20cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０７５

ＳＨ－０７５号は11Ｂ-22グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径30cm，底部最大径22cm，確認面からの掘り込みの深さは７cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０７６

ＳＨ－０７６号は11Ｂ-22グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径30cm，底部最大径18cm，確認面からの掘り込みの深さは25cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０７７

ＳＨ－０７７号は11Ｂ-23グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは10cmである。ＳＫ－０５２に切られる。遺物は出土していない。

ＳＨ－０７８

ＳＨ－０７８号は11Ｂ-23グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径34cm，底部最大径23cm，確認面からの掘り込みの深さは９cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０７９

ＳＨ－０７９号は11Ｂ-23グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径24cm，底部最大径14cm，確認面からの掘り込みの深さは25cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０８０

ＳＨ－０８０号は11Ｂ-23グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径30cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは17cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０８２

ＳＨ－０８２号は11Ｂ-13グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径18cm，底部最大径６cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０８３

ＳＨ－０８３号は11Ｂ-12グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最

大径28cm，底部最大径20cm，確認面からの掘り込みの深さは10cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０８５

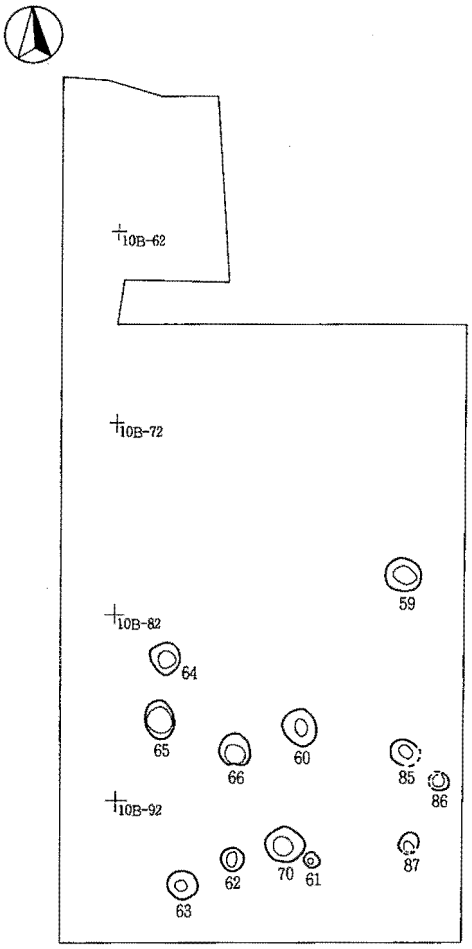
ＳＨ－０８５号は10Ｂ-83グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径28cm，確認面からの掘り込みの深さは９cmである。遺物は出土していない。

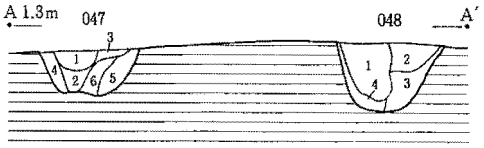
ＳＨ－０８６

ＳＨ－０８６号は10Ｂ-83グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径21cm，底部最大径16cm，確認面からの掘り込みの深さは７cmである。遺物は出土していない。

ＳＨ－０８７

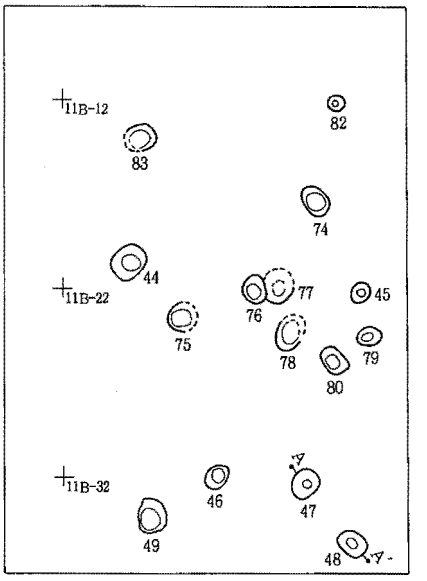
ＳＨ－０８７号は10Ｂ-93グリッドから検出された柱穴である。南区東側調査区に位置する。上端部最大径20cm，底部最大径10cm，確認面からの掘り込みの深さは８cmである。遺物は出土していない。




ＳＨ－０４７　断面
1．灰褐色土　黒灰色土に淡黄色土（地山）ブロックが混じる
2．灰褐色土　灰色砂質土（地山）主体に黒灰色粘質土が混じる
3．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色粘質土が僅かに入る
4．灰褐色土　灰色砂質土（地山）と黒灰色粘質土と淡黄色土が混じる
5．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色粘質土が僅かに入る
6．灰色土　灰色砂主体に僅かに灰色粘質土が混じる

ＳＨ－０４８　断面
1．黒灰色土　黒灰色粘質土のみ　一気に埋め戻したような堆積
2．黒灰色土　淡黄ブロックが僅か
3．灰褐色土　灰色砂質土主体に淡黄色粘質土が僅かに入る
4．灰色土　灰色砂主体に僅かに灰色粘質土が混じる



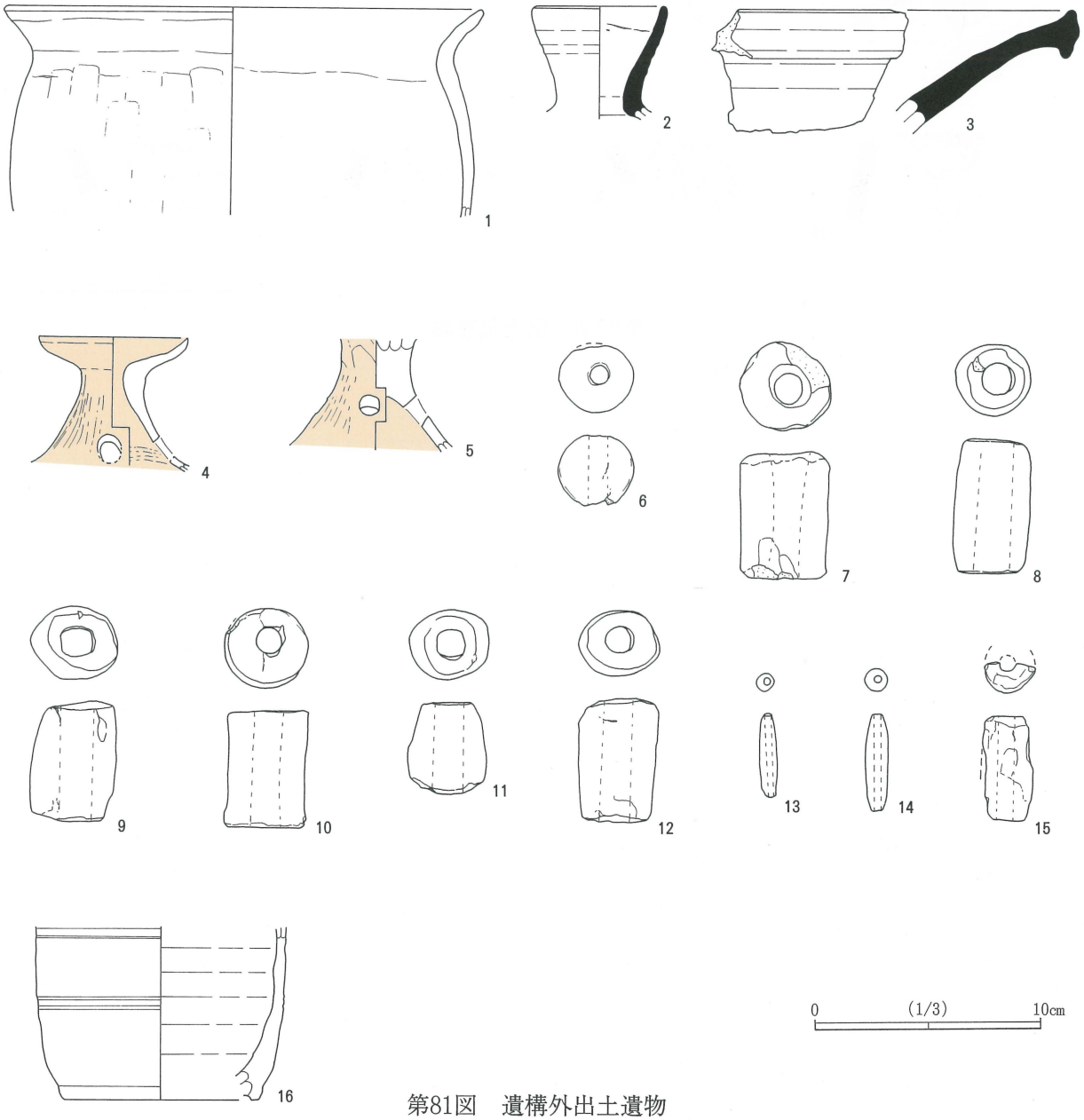

0　(1/20)　50cm

0　(1/80)　4m

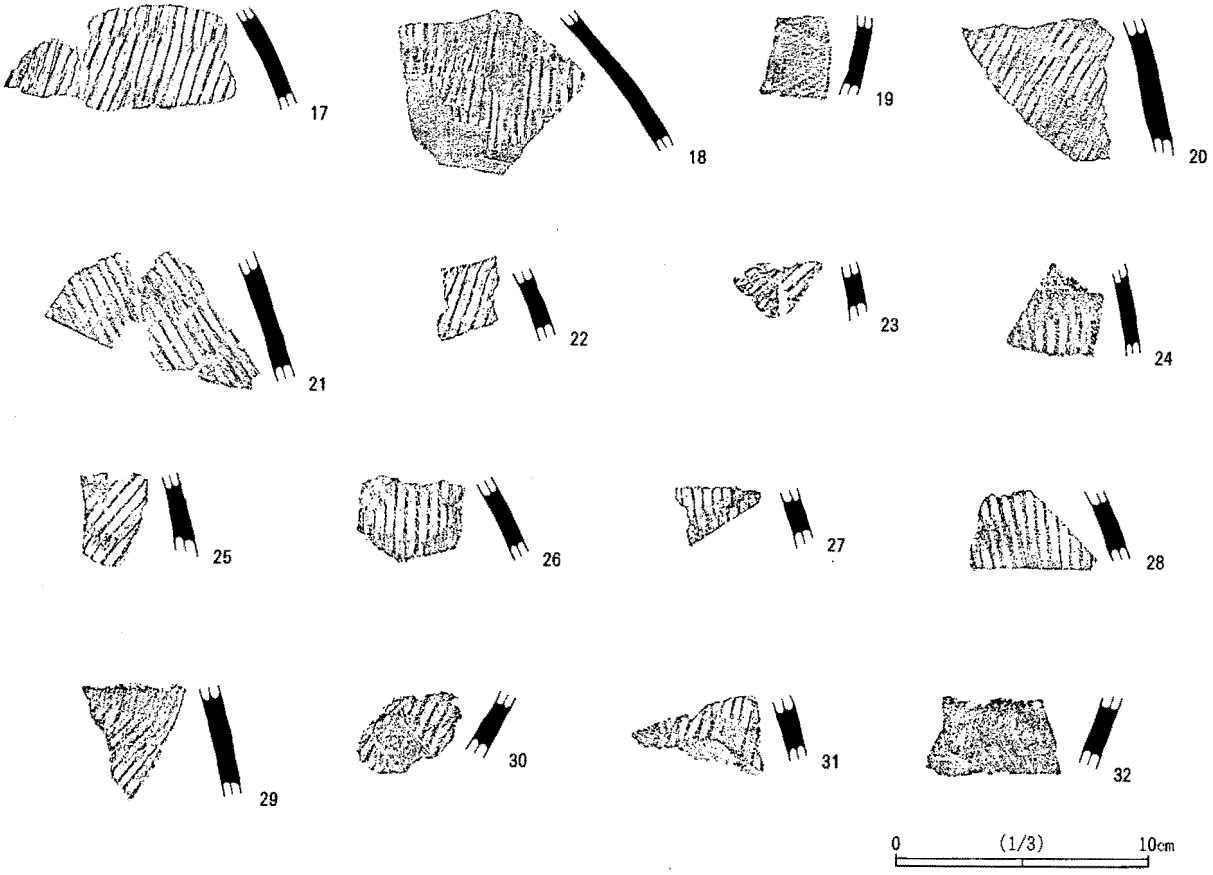
第80図　南区東側調査区柱穴群

## 第３節　遺構外出土遺物と出土須恵器（第81・82図，図版21・22・23）

１は５Ａ-53グリッドから出土した土師器の甕の頸部から口縁部である。口縁の１/４遺存している。２は６Ａ-43グリッドから出土した須恵器長頸壺の頸部である。３は５Ａ-34グリッドから出土した須恵器大甕の口縁部である。４は５Ａ-24グリッドから出土した土師器の器台である。下部に３か所の透かし穴を持つ。５は５Ａ-75グリッドから出土した土師器の高坏の脚部である。脚部に４か所の透かし穴を持つ。６は5A-06グリッドから出土した土玉である。７は3B-13グリッドから出土した管状土錘である　。８は３Ｂ-33グリッドから出土した管状土錘である。９から12は5A-65グリッドから出土した管状土錘である。13，14はＷ４トレンチから出土した管状土錘である。15はＷ６トレンチから出土した管状土錘である。16は２Ｂ-72グリッドから出土した陶器の徳利である。17から32は色調が暗橙色の外面にタタキ目を持つ須恵器の破片である。トレンチおよびグリッドから一括遺物として取り上げられている。




第81図　遺構外出土遺物




第82図　出土須恵器

## 第1表　田向遺跡遺物観察表

| 挿図 | 年度 | 遺物番号 | 器　種 | 遺存率 | 口径cm | 器高cm | 底径cm | 重量g | 成　形・調　整 | 胎　土 | 色　調 | 焼成 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 11 | 003-1 | 坏 | 口径の1/4弱 | (10.2) | (3.1) | - | 19 | 内面ミガキ調整 | 細砂粒・褐色粒含む | 鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 16 | 11 | 003-1 | 壺 | 口径の1/6 | (13.8) | (3.5) | - | 25 | | 大粒の砂粒大量に含む | 鈍い黄橙色～褐灰色 | 良好 | |
| 58 | 11 | 004-1 | 坏 | 口径の1/4 | (12.2) | (4.3) | (6.8) | 29 | | 砂粒・褐色粒・雲母・白色針状物質含む | 鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 13 | 11 | 005-5＋5A-24 | 甕 | 全体の9/10 | 16.8 | 21.9 | 6.9 | 1142 | 外側胴上半部に横方向のハケ目，外側胴中央部に斜め方向のハケ目　内面摩滅していて調整不明 | 砂多量に含む | 赤～鈍い橙～灰褐色 | やや甘い | |
| 13 | 11 | 005-8・5 | 坩 | 全体の1/2弱 | (10.4) | 7.0 | (3.6) | 134 | 外側全体に細かなヘラ削り後ナデ調整 | 砂粒含む | 鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 13 | 11 | 005-9 | 坩 | | (12.0) | (9.0) | 2.8 | 184 | 外側全体に赤彩，縦方向の細かいミガキ，底部から上に一ヶ所黒斑有り | 細砂粒含む | 灰黄色～黄灰色～黒褐色 | 良好 | |
| 14 | 11 | 005-10 | 小型器台 | 全体の4/5 | 7.4 | 8.2 | 9.8 | 98 | 脚部下方に3ヶ所の透かし穴 | 砂粒含む | 内面－黄橙色～黄灰色，外面－橙色 | 良 | |
| 14 | 11 | 005-12 | 鉢 | 全体の1/2(底部完形) | (19.7) | (11.3) | 6.3 | 699 | 口辺部は横方向のナデ，体部に浅いヘラ削り，底部付近摩滅して不鮮明(外側) | 細砂粒・若干の白色針状物質含む | 鈍い黄橙色～灰黄褐色 | 良好 | |
| 14 | 11 | 005-13 | 坏 | 全体の1/4 | (12.8) | 4.3 | | 40 | 外側　全体に摩滅して調整不明 | 細砂粒多量に含む | 灰オリーブ～灰色 | 良 | |
| 13 | 11 | 005-14・15・16 | 壺 | 全体の3/4底部完形 | 15.1 | 31.8 | 7.2 | 2252 | 外側－ハケ目調整後に縦方向のミガキ，全体に摩滅して不鮮明な場所多い，黒斑あり | 砂粒多量に含む | 鈍い黄橙色～橙色～黒褐色 | 良好 | 頸部径10.3，胴部最径(31.8) |
| 13 | 11 | 005-16・17 | 壺 | 底部完形口縁1/3弱 | (23.2) | 38.9 | 8.4 | 4002 | 全体に摩滅していて調整痕不鮮明，底部付近一ヶ所，体部一ヶ所，黒斑有り | 砂粒・褐色粒含む | 橙～鈍い黄橙～浅黄色 | 良 | 復元頸部径(12.0) |
| 32 | 11 | 007-1 | 灯明皿 | 完存 | 7.8 | 3.4 | 4.8 | 82 | 内面全体，外側口辺部に斑に油煙痕 | 砂粒・雲母多量に含む | 鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 32 | 11 | 007-1 | 坏 | 底径の1/4 | - | (3.5) | (6.4) | 15 | (ロクロ) | 細砂粒・褐色粒含む | 外面－鈍い橙色，内面－鈍い黄色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-1・5 | 坏 | 全体の2/3(底部完形) | (15.0) | 4.9 | 6.6 | 162 | 底部に回転糸切り痕，内外共に摩滅して調整不鮮明 | 砂粒・褐色粒含む | 鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-2 | 坏 | 口縁部4/5(全体の9/10) | 12.1 | 4.4 | 5.5 | 132 | 内面口縁部より体部上部にかけて油煙痕有り，底部回転糸切り痕 | 砂粒・褐色粒多く含む | 鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-3 | 坏 | 全体の9/10 | 11.7 | 4.3 | 6.7 | 141 | 底部付近ヘラ削り，底部回転糸切り後にヘラ削り調整 | 砂粒・雲母・褐色粒含む | 鈍い黄橙色～鈍い橙色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-6 | 坏 | ほぼ完存 | 12.4 | 4.4 | 4.8 | 170 | 体部にロクロ調整，底部付近ヘラ削り | 砂粒・褐色粒若干含む | 外面－鈍い黄橙色～橙色，内面－橙色～鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-7 | 坏 | 全体の9/10 | 13.9 | 4.1 | 6.2 | 147 | 底部回転糸切り痕（ロクロ） | 細砂粒含む | 橙色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-8・9 | 坏 | 全体の9/10 | 11.6 | 4.4 | 5 | 120 | 底部付近体部ヘラ削り，底部回転糸切り後に手持ちヘラ削り | 砂粒・褐色粒含む | 鈍い色橙色 | 良好 | |
| 59 | 11 | 008-10 | 坏 | 全体の1/3 | (11.0) | 4.5 | 7.7 | 101 | (非ロクロ) | 細砂粒含む | 鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 40 | 12 | 57-1 | 坏 | 底部の7/8 | - | (2.1) | 6.2 | 64 | 底部手持ちヘラ削り | 細砂粒含む | 灰黄色～灰黄橙色 | 良好 | |
| 61 | 12 | 089-2 | 須恵器坏蓋 | 口径の7/8 | 3.4 | 3.5 | 15.0 | 251 | | 細砂粒・雲母含む，大粒褐色粒含む | | 良好 | |
| 26 | 12 | 105-1 | 甕 | 口径の1/4 | (15.2) | (5.7) | - | 64 | | 砂粒・褐色粒含む | 外面－灰褐色 内面－鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 26 | 12 | 105-1・4 | 壺 | 口縁部の1/2強 | (12.2) | (8.3) | - | 235 | 外面口辺部に縦方向のミガキと思われるが摩滅している，口縁部に横方向のナデに縦方向のミガキ調整が加えられる | 砂粒・褐色粒含む | 鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 26 | 12 | 105-3 | 高坏 | 全体の1/3 | - | (7.2) | - | 178 | 内外共に赤彩，脚部外面に縦方向のミガキ | 砂粒含む | 赤彩，鈍い橙色～灰褐色 | 良好 | |
| 63 | 12 | 107-1・3 | 甕 | 口径の1/2 | (17.6) | (14.8) | - | 1011 | 外面口辺部－横方向のヘラナデ，胴上半部－縦方向のヘラ削りの上から横方向にナデと思われるが摩滅して不鮮明 | 砂粒多く含む | 鈍い橙色～黄灰色 | 良 | |
| 64 | 12 | 108-12 | 高台坏 | ほぼ完存 | 12.4 | 3.4 | 4.9 | 117 | | 細砂粒・雲母・褐色粒・白色針状物質含む | 橙色～明赤褐色 | 良好 | |

| 挿図 | 年度 | 遺物番号 | 器　種 | 遺存率 | 口径cm | 器高cm | 底径cm | 重量g | 成　形・調　整 | 胎　土 | 色　調 | 焼成 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 64 | 12 | 108-1-1 | 高台坏 | 高台径の2/3 | - | (1.3) | 6.0 | 38 | 内面ミガキ | 細砂粒・雲母含む | 外面ー鈍い黄橙色，内面ー褐灰色～鈍い黄色 | 良好 | |
| 65 | 12 | 109-4-1 | 甕 | 口縁部口径の1/5 | (17.1) | (7.5) | - | 36 | 内面の頸部付近横方向のミガキ，それより下位は斜め方向のミガキと思われるが不鮮明，表面摩滅して調整痕不鮮明，全体に赤彩 | 砂粒・褐色粒多量に含む | 外面ー灰黄色～橙色～明赤褐色，内面ー鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 65 | 12 | 109-4-2 | 甕 | 口縁部口径の1/6 | (19.8) | (4.0) | - | 77 | 内面　口辺部横ナデ | | | | |
| 65 | 12 | 109-1 | 坏 | 底部1/2弱 | - | (2.0) | (6.1) | 41 | | 砂粒含む | 明赤褐色～鈍い橙色 | 良好 | |
| 21 | 14 | 130-2 | 壺 | 口縁3/4 | 19.6 | (4.9) | - | 296 | 内外全体に赤彩，口辺部内外共に摩滅して調整痕不鮮明 | 砂粒多量に含む | 灰色～鈍い黄橙色 | 良 | |
| 21 | 14 | 130-1 | 高坏 | 杯部 | 15.2 | (4.3) | - | 144 | 内外共に摩滅して調整痕不鮮明 | 砂粒多量に含む | 赤彩，鈍い橙色 | 良好 | |
| 78 | 14 | 131-3 | 坏 | 全体の2/3 | 13.6 | 5.0 | 6.5 | 162 | 内面ー全体に丁寧な黒色処理，外面ー全体にススけている，底部付近ーヘラ削り，底部ー手持ちヘラ削り | 細砂粒・褐色粒・雲母含む | 内面ー黒色、外面ー灰黄色～黒色 | 良好 | |
| 51 | 14 | 154-8 | 坏 | 全体の1/2弱 | (10.6) | 4.1 | (7.2) | 68 | （非ロクロ） | 細砂粒・褐色粒・雲母含む | 鈍い黄橙色～橙色 | 良好 | |
| 52 | 14 | 155-2他 | 坏 | 全体の3/5 | (15.6) | 4.7 | 8.2 | 144 | 全体ロクロ，底部付近ヘラ削り | 細砂粒・雲母・白色針状物質含む | 鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 52 | 14 | 155-8 | 坏 | 全体の2/3底部完形 | 11.2 | 4.0 | 8.0 | 122 | （非ロクロ） | 細砂粒・雲母・褐色粒含む | 鈍い橙色 | 良好 | |
| 52 | 14 | 155-10 | 坏 | 全体の1/3 | (11.4) | 4.2 | (7.4) | 63 | （非ロクロ） | 細砂粒・褐色粒・白色針状物質含む | 橙色 | 良好 | |

遺構外出土遺物

| 挿図 | 年度 | 遺物番号 | 器　種 | 遺存率 | 口径cm | 器高cm | 底径cm | 重量g | 成　形・調　整 | 胎　土 | 色　調 | 焼成 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 81 | 11 | 5A-24-5 | 器台 | | (6.6) | (6.0) | | 49 | 脚部下に3ヶ所の透かし，全体に赤彩 | 砂粒・褐色粒含む | 橙色～灰褐色 | 良好 | |
| 81 | 11 | 5A-34-2 | 須恵器 | 口縁 | - | | | 130 | | | | | |
| 81 | 11 | 5A-53-1 | 甕 | 口縁1/4弱 | (22.0) | (9.2) | | 102 | 全体にほとんど摩滅して調整不鮮明，内面口辺部に横ナデ | 砂粒多量に含む | 明赤褐色 | 良好 | |
| 81 | 11 | 5A-75-1 | 器台 | （脚部） | | (5.5) | 1.0 | 76 | 全体に赤彩，脚部中央に4ヶ所の透かし穴 | 砂粒含む | 外面ー明褐色～橙色，内面ー鈍い黄橙色 | 良好 | |
| 81 | 11 | 6A-43-2 | 須恵器 | （口縁部） | (5.7) | (5.0) | | 32 | | 微細砂粒含む | 灰色 | 良好 | |
| 81 | | 2B-72-10 | 陶器 | （近世）（徳利） | 8.6 | 7.7 | | 80 | 全釉 | | | | |

土製品

| 挿図 | 年度 | 遺物番号 | 器　種 | 遺存率 | 長径cm | 短径cm | 最大長 | 重量g | 成　形・調　整 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 59 | 11 | 008－1 | 環状土錘 | 完存 | 4.6 | 4.2 | 6.5 | 123 | | | | | |
| 59 | 11 | 008－4 | 環状土錘 | 完存 | 3.7 | 3.5 | 7.4 | 55 | | | | | |
| 25 | 12 | 091－18 | 環状土錘 | 完存 | 6.1 | 5.9 | 11.3 | 350 | | | | | |
| 26 | 12 | 105－1 | 環状土錘 | 完存 | 2.3 | 2.1 | 5.2 | 24 | | | | | |
| 26 | 12 | 105－2 | 環状土錘 | 完存 | 4.5 | 4.4 | 7.9 | 158 | | | | | |
| 64 | 12 | 108－11 | 環状土錘 | 2／5 | 3.5 | | 5.7 | 38 | | | | | |
| 65 | 12 | 109－2 | 環状土錘 | | 3.9 | 3.9 | 4.5 | 73 | | | | | |
| 27 | 14 | 127－3 | 土玉 | 1／2 | 3.7 | | 3.3 | 24 | 穴が縦方向と横方向にあけられている | | | | |
| 81 | 14 | 3B-13-4 | 環状土錘 | ほぼ完存 | 4.0 | 3.8 | 5.7 | 102 | | | | | |
| 81 | 14 | 3B-33-2 | 環状土錘 | 完存 | 3.4 | 3.1 | 6.0 | 52 | | | | | |
| 81 | 11 | 5A-06-1 | 土玉 | ほぼ完存 | 3.3 | 3.0 | 3.2 | 27 | | | | | |
| 81 | 11 | 5A-65-1 | 環状土錘 | 完存 | 3.9 | 3.2 | 5.3 | 66 | | | | | |
| 81 | 11 | 5A-65-2 | 環状土錘 | 完存 | 3.7 | 3.5 | 5.2 | 82 | | | | | |
| 81 | 11 | 5A-65-5 | 環状土錘 | 1／2 | 3.5 | 3.1 | 4.1 | 46 | | | | | |
| 81 | 11 | 5A-65- | 環状土錘 | 完存 | 3.5 | 2.9 | 5.5 | 63 | | | | | |
| 81 | 11 | W4-1 | 環状土錘 | 完存 | 1.0 | 1.0 | 4.3 | 4 | | | | | |
| 81 | 11 | W4-1 | 環状土錘 | 完存 | 0.8 | 0.8 | 3.7 | 2 | | | | | |
| 81 | 11 | W6T-1 | 環状土錘 | 1／2 | 2.2 | | 4.6 | 13 | | | | | |

石製品

| 挿図 | 年度 | 遺物番号 | 器　種 | 石　材 | 重量g | 長さcm | 幅　cm | 厚さcm | 成　形・調　整 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 58 | 11 | 004-1 | 砥石 | 粘板岩？風化している | 66.21 | 6.2 | 4.9 | 1.8 | | | | | |
| 14 | 11 | 005-18 | 磨製石斧 | 砂岩？ | 174.49 | 9.43 | 3.34 | 2.88 | | | | | |
| 32 | 11 | 007-1 | 砥石 | 凝灰岩 | 38.95 | 3.3 | 3.4 | 2.2 | | | | | |
| 59 | 11 | 008-1 | 管玉 | 滑石？ | 1.00 | 2.2 | 0.6 | 1 | 孔が貫通していないようである | | | | |

# 第3章　ま　と　め

## 1　検出された遺構

3年次にわたり実施した発掘調査で竪穴住居跡3軒，掘立柱建物跡1基，井戸状遺構4基，土坑39基，溝状遺構52条，水田跡2面，畑跡2か所，柱穴85基を検出し調査した。主な時代は古墳時代，奈良・平安時代以降である。

当地域には古墳時代前期に集落が存在していたことが明らかとなった。また奈良・平安時代以降には竪穴住居は検出されなかったものの掘立柱建物を建て，周囲に井戸を掘り，水田や畑を営む景観が復元できる。

ＳＤ－０３０号は平面形から円墳あるいは円形周溝の可能性がある。東側が調査区外となることと確認面からの掘り込みが浅いため断定は難しい。仮に円墳あるいは円形周溝とした場合，直径は７ｍ程度に復元できる。東側の調査が実施されれば判明するであろう。もし古墳であるとすれば集落の比較的近くに墓域も存在したことになる。ＳＤ－０２９号はくの字状に屈曲して掘られており断面形が逆台形である。東西が調査区外となっていることと，対応する辺が北側で検出されなかったが，ＳＤ－０３０号を切っているので方形周溝状遺構の可能性がある。

出土遺物ではＳＩ－００５から磨製石斧状の石器が出土している。古墳時代前期の石器使用の資料を提供している。またＳＤ－００８から出土した管玉は，紐通し穴が貫通していない。ＳＤ－１２７から出土した土玉は紐通し穴が十文字に開けられていた。珍しい例としてここに取り上げておきたい。

## 2　遺跡の立地について

田向遺跡で検出された住居跡の床面の標高は１ｍ～２ｍ程度で，現在の海岸線からの直線距離は約1.5kmほどである。発掘調査における低湿地の調査は，調査区の周囲に排水用の溝を廻らし，ポンプによって常時排水していなければ調査もままならない場合が多い。田向遺跡の調査のおいてもそうであった。さらに遺構を検出し精査の過程では，50cm位掘り下げると水が湧き出した遺構も多い。古墳時代から奈良・平安時代に小規模な海進・海退があったと思われるが，彼らの生活は水との戦いであったことは想像に難くない。田向遺跡では多くの溝状遺構が検出されているがそれらは排水用の溝かと思われる。

また，海に近いという立地条件は，管状土錘が検出されることから水田や畑地の耕作と併行して海の生活の拠点を設けていたことによるが，洪水やその他水害に見舞われることは常に覚悟していたに違いない。最近の調査では，低湿地においても台地と同様多くの集落が営まれていたことが次々と明らかになっている。その具体的な内容が今後の調査においてさらに蓄積されることを期待したい。

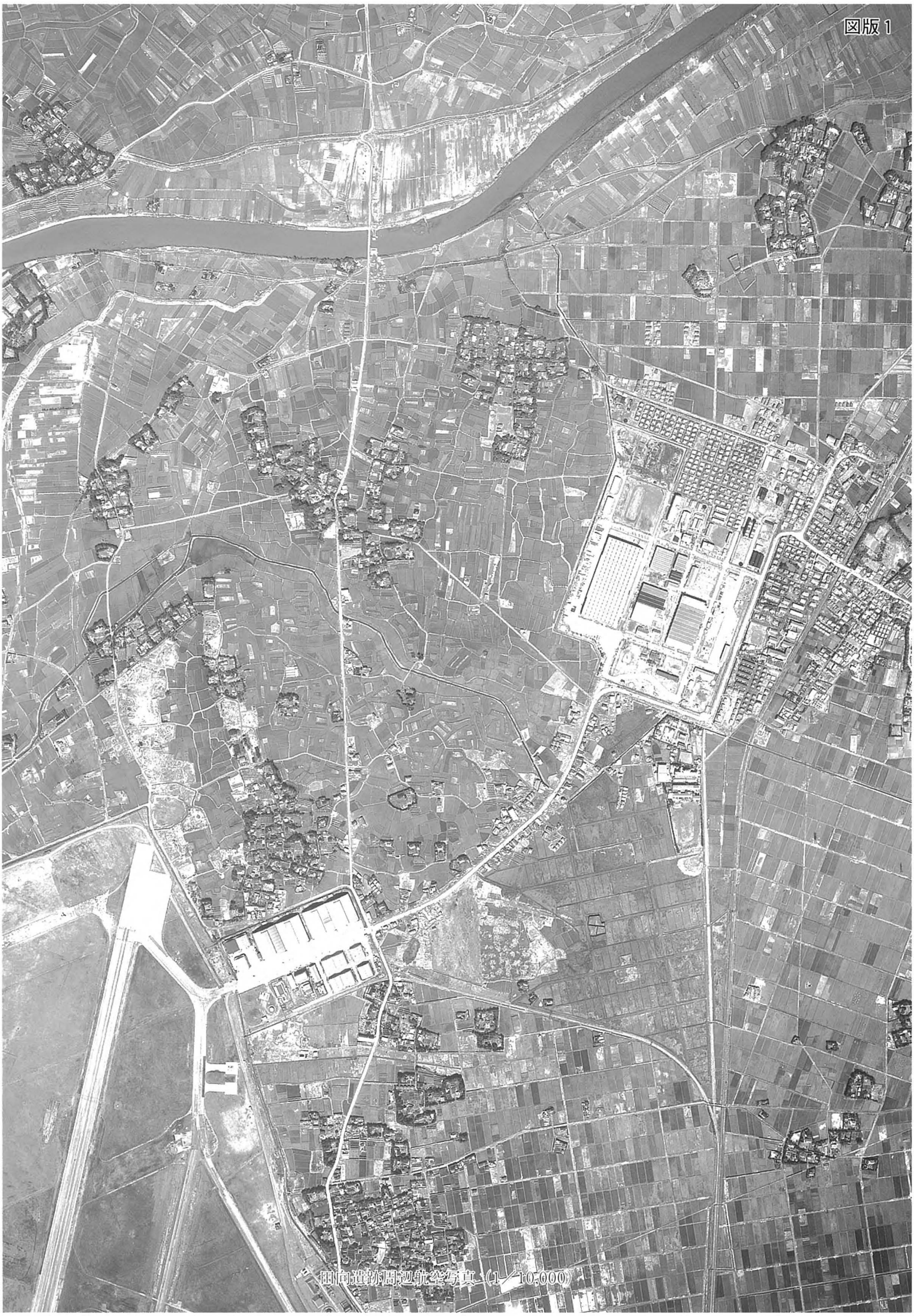
## 3　SI-００５号住居跡について

古墳時代の遺構は竪穴住居跡が3軒検出された。

ＳＩ－００５号住居跡は，古墳時代前期に営まれていた。焼失住居であることから，使用していた土器が良好な状況で出土した。出入口に伴う柱穴が検出されているため南東側に出入口があったことや煮炊き・暖房用の炉が出入口から直線方向のやや奥まった位置にあったこともわかる。検出された遺物は，土師器

10点，石器１点である。内訳は甕１点，壺２点，器台１点，小型壺(坩)３点，鉢１点，坏２点であった。出土位置は炉内から甕１点，出入口から見て炉の右奥から坏１点，小型壺１点，出入口のすぐ右側から鉢１点，坏１点，入口入って左コーナーの貯蔵穴周辺から壺２点，器台１点，小型壺(坩)１点，石器１点である。

# 写 真 図 版



田向遺跡周辺航空写真（1／10,000）

図版 2

中央区空中写真 1

中央区空中写真 2

北区西側調査区　調査前全景

北区西側調査区全景（南から）

北区　調査前近景（南から）

北区東側調査区全景（南から）

中央区中央調査区調査前近景（南から）

中央区中央調査区全景（北から）

南区中央調査区調査前近景（北から）

南区東側調査区調査前近景（南から）

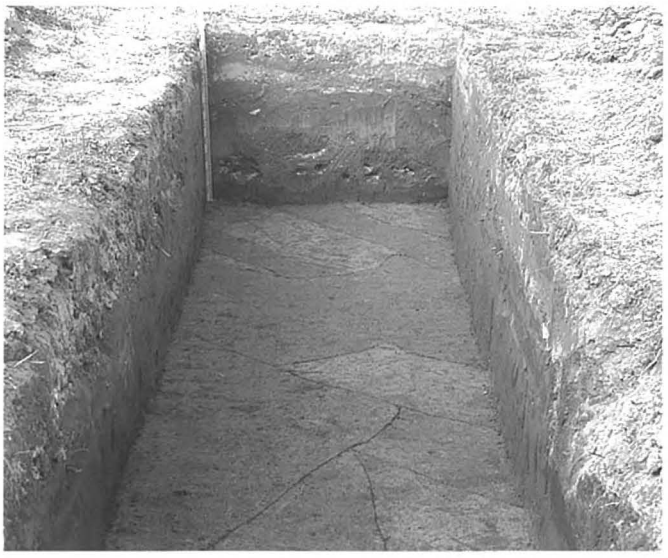
南区東側調査区南側全景（南から）

南区東側調査区全景（北から）

南区西側調査区全景（北から）

トレンチ調査状況（南から）

Ｅ１トレンチ全景（南から）

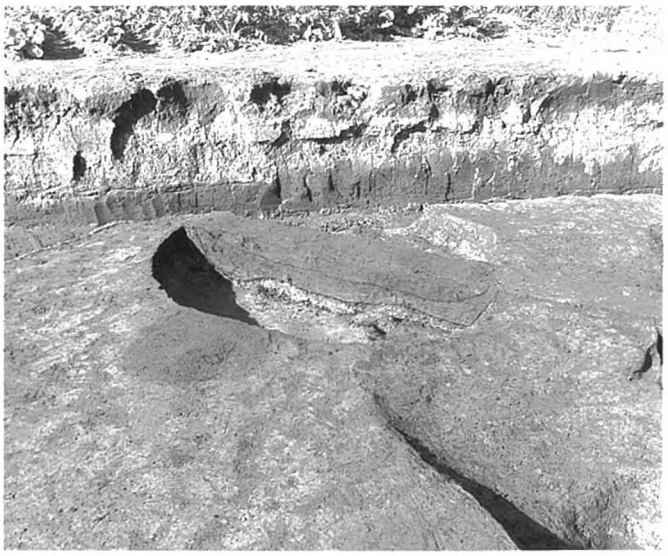


Ｅ５トレンチ全景（南から）

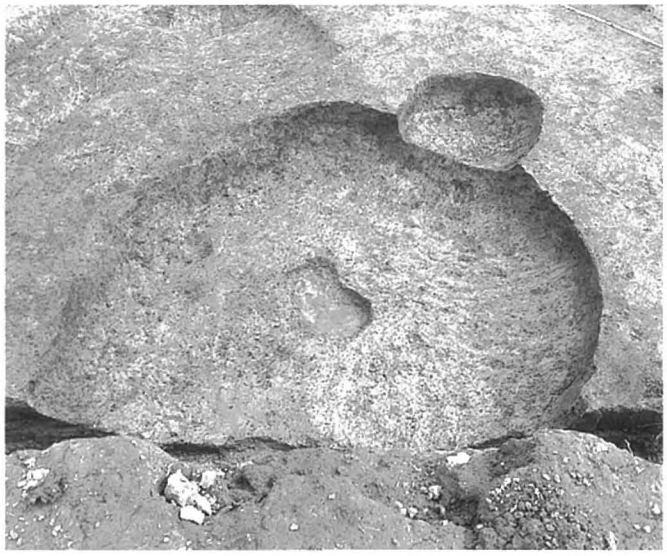
Ｗ１トレンチ全景（南から）

Ｗ６トレンチ全景（南から）

SD - 001 号全景



SK - 003 号土層断面



SK - 003 ・ P5 号全景（南西から）

SI - 005 号壺出土状況（南から）

SI - 005 号南コーナー遺物出土状況（南から）

SI - 005 号遺物出土状況

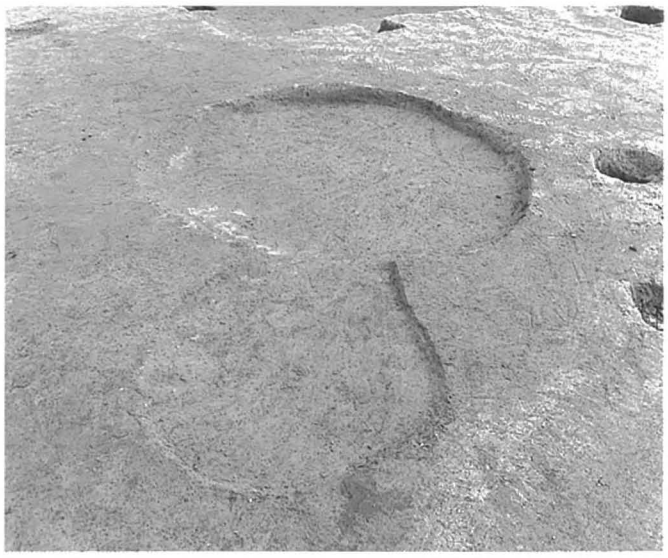
SI - 006 号全景（南から）

SE - 007 号全景（南東から）

SD - 008 号全景（南から）

SD - 008 号遺物出土状況 1（南東から）

SD - 008 号遺物出土状況 2（南東から）

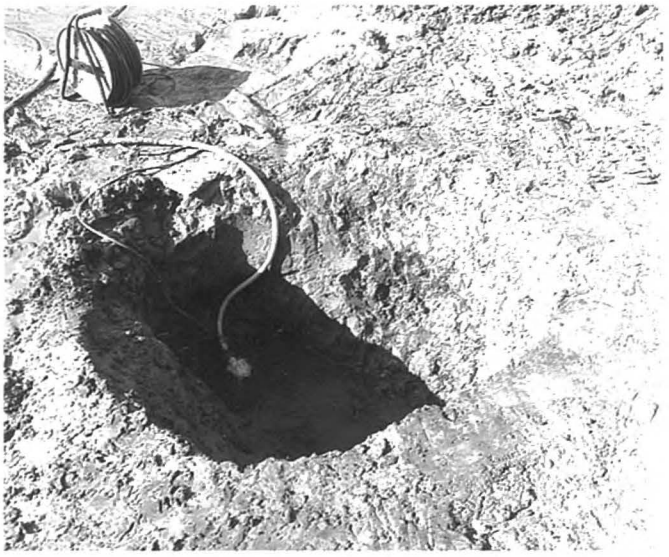


SK - 009・011 号全景

SI - 010 号全景

SK - 012・013・021 号全景

SK - 021 号全景



SE - 022 号全景

SD - 029 号全景（南から）

SD - 030 号全景（南から）

SD - 030，P1・P2・P3 号全景（西から）

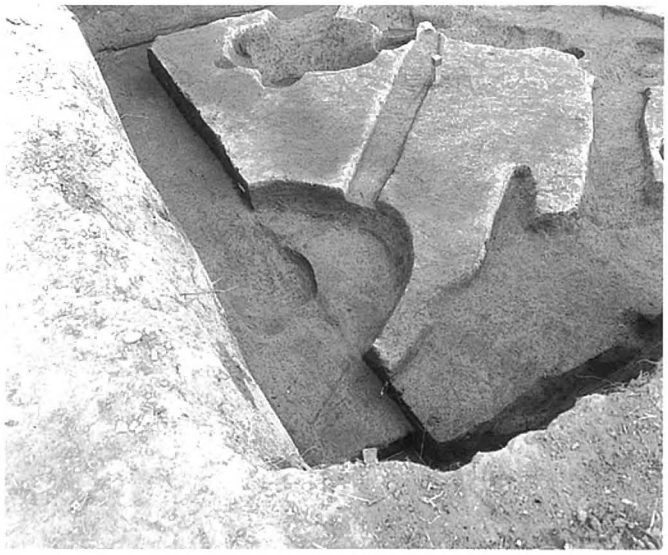
SD - 031・032 号全景（南西から）

SD - 033 号全景（北から）

SD - 033 号遺物出土状況

SD - 033・034・035 号全景（南から）

SD - 036，SK - 050，SH - 082 号全景（南東から）



SD - 037，SK - 051 号全景（北西から）

SK - 044，SH - 075・076・077・078 号（南東から）

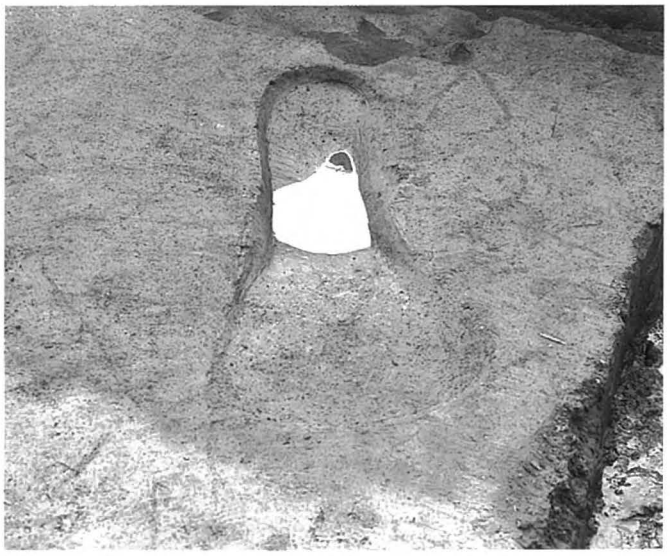
SK - 047・048 号全景（北東から）

SK - 052・081，SH - 045・079・080 号全景（南東から）

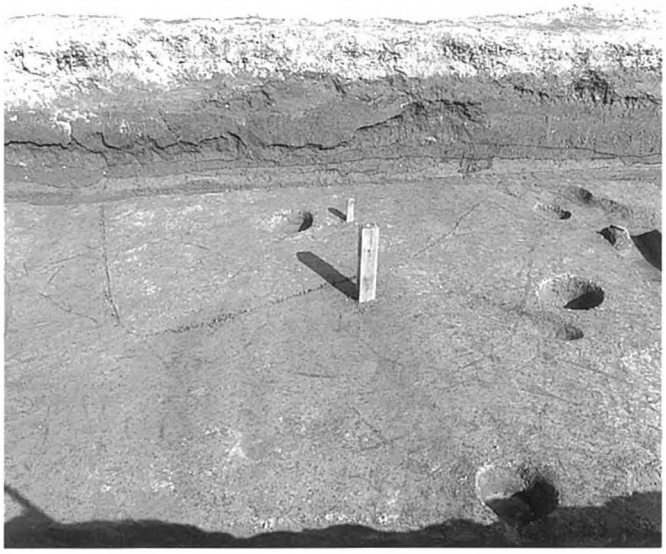
SK - 052，SH - 074 号全景（南東から）

SK - 056 号全景（西から）

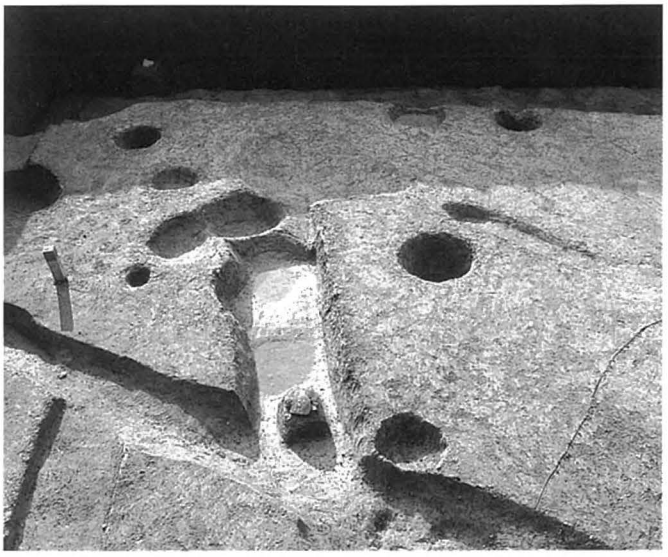
SK - 057 号全景（南東から）



SK - 058 号全景（北東から）



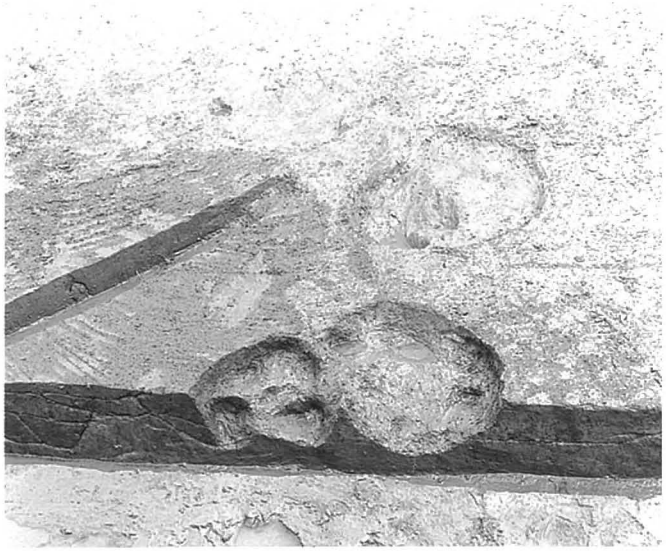
SH - 059 号耕作痕範囲（西から）



SD - 067，SK - 068・069 号全景（東から）

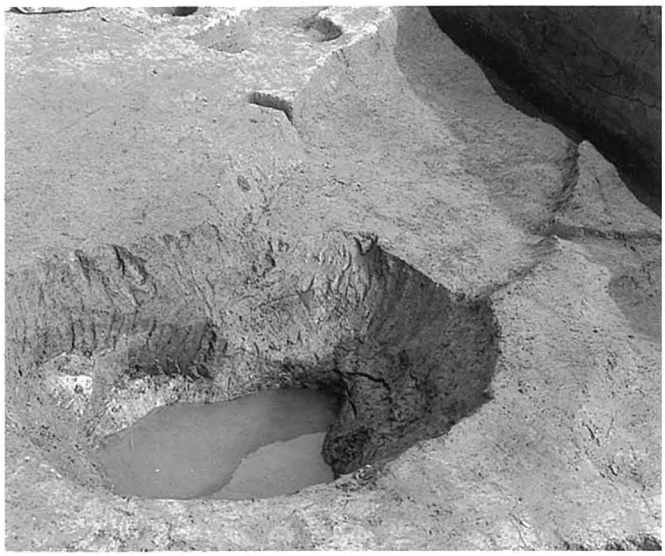
SD - 071・084，SH - 085・086 号全景（北東から）

SK - 072 号全景（北から）



SH - 088 号ピット群全景（西から）

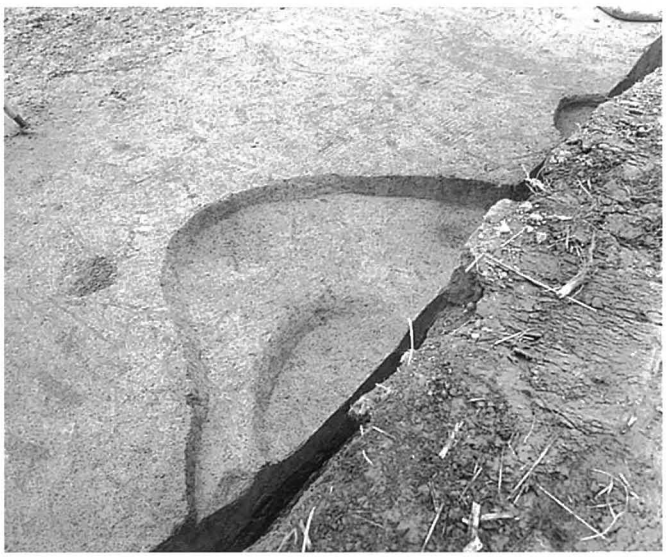
SD - 089 号全景



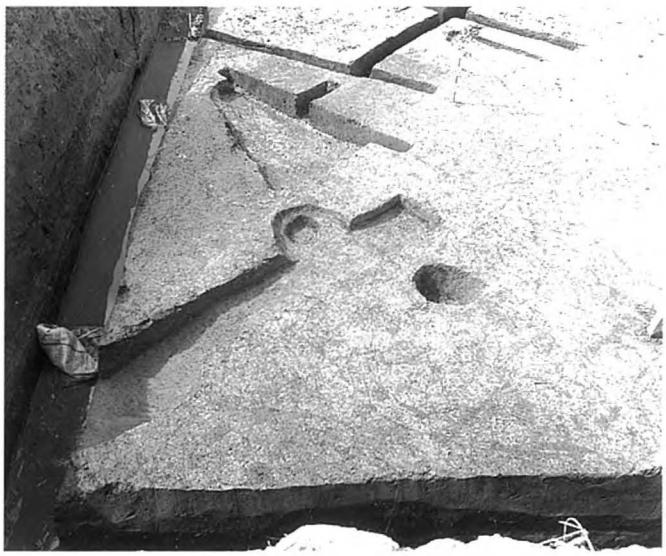
SE - 090 号全景

SK - 094・095・096 号全景（西から）

SD - 097 号全景（西から）



SK - 098，SH - 104 号全景（南東から）



SH - 100 号ピット群全景（東から）

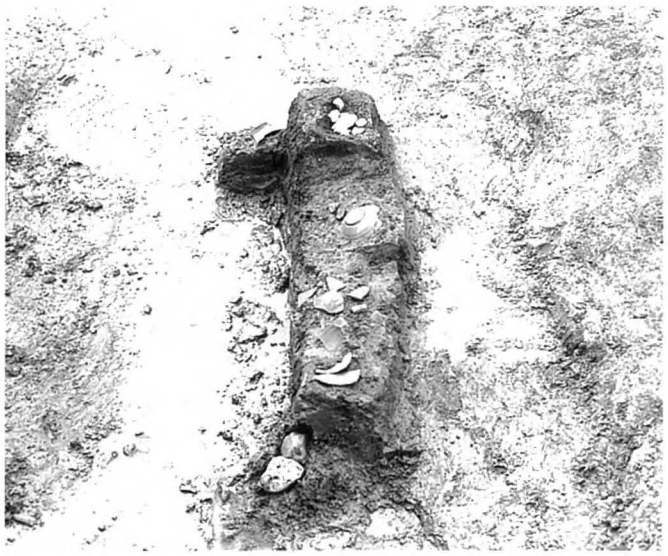
SK - 103 号全景（北から）

SD - 105 号全景（北西から）

SD - 106 号全景（北東から）

SD - 107 号全景（北西から）

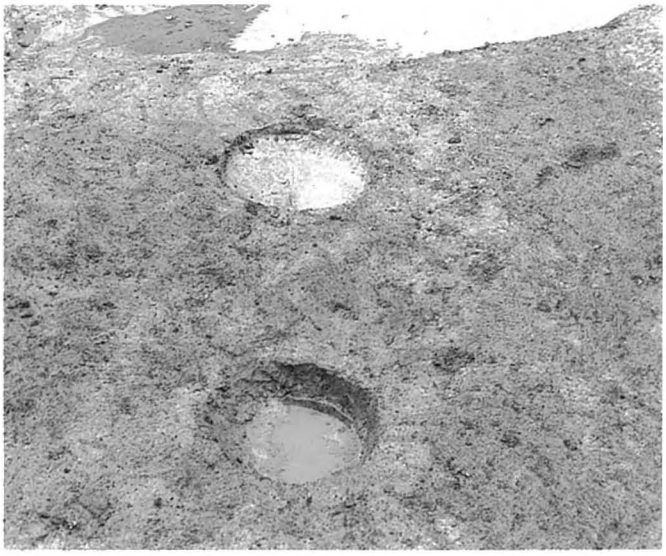
SD - 108 号全景（南西から）



SD - 108 号遺物出土状況（北東から）

SD - 109，SK - 113 号全景（東から）

SK - 112 号全景（東から）

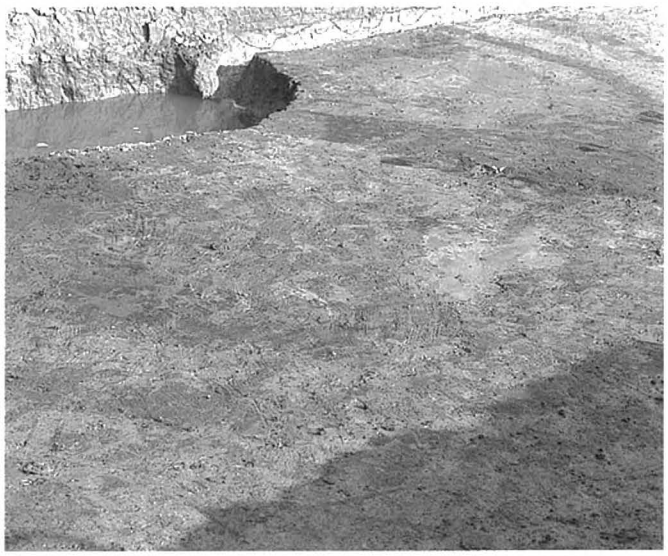


SH - 114 号全景（西から）

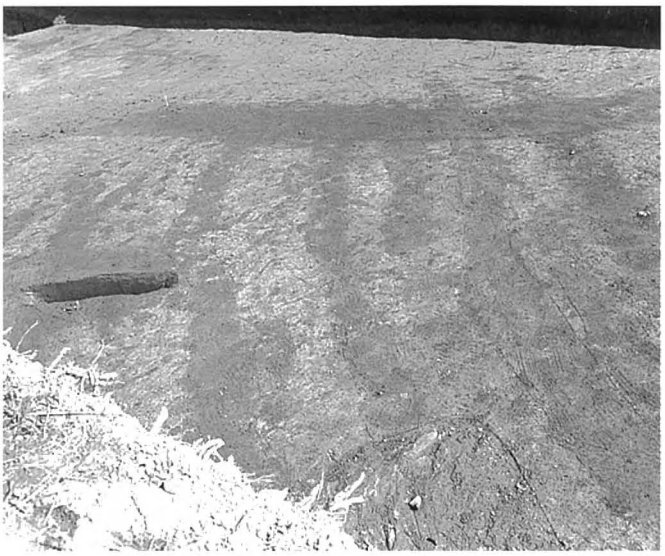
SH - 115 号全景（南西から）

SH - 117，SD - 121 号全景（北東から）

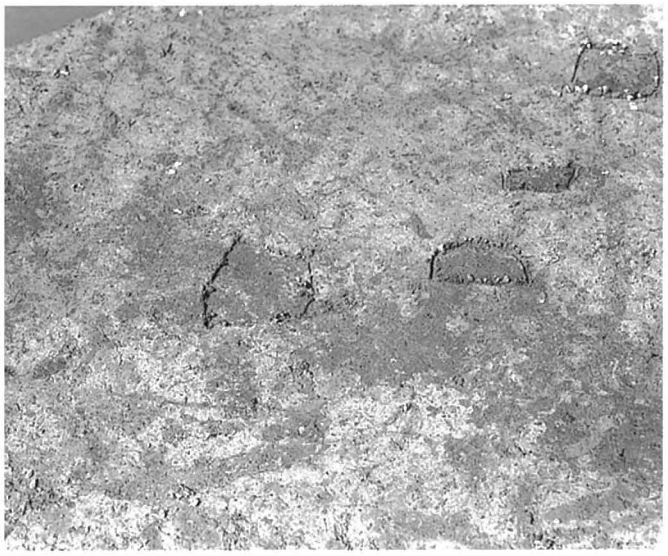
SH - 118 号全景（東から）



北区北側水田跡③（北西から）

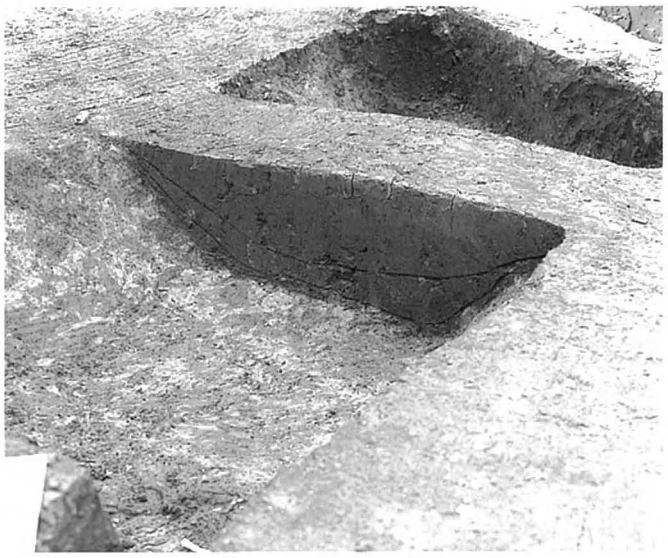


北区畝溝群（南西から）



北区畝溝工具痕

南区南東畝溝群（北西から）

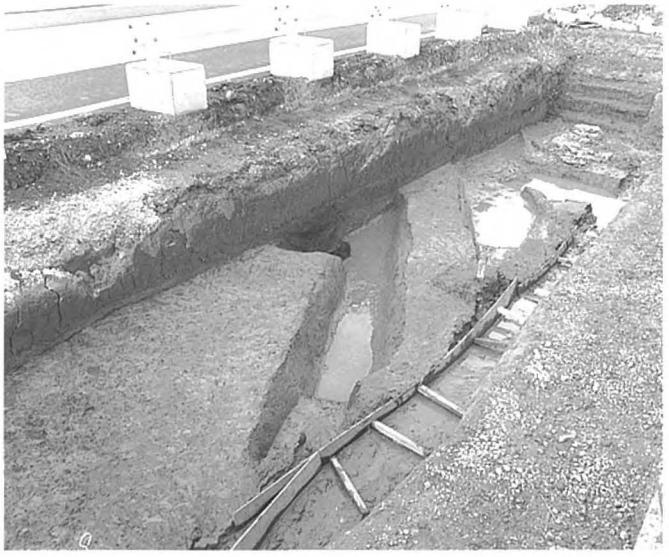


SD - 122 号断面（南西から）

SD - 123・124・125・126 号全景（北東から）

SD - 127 号全景（南東から）

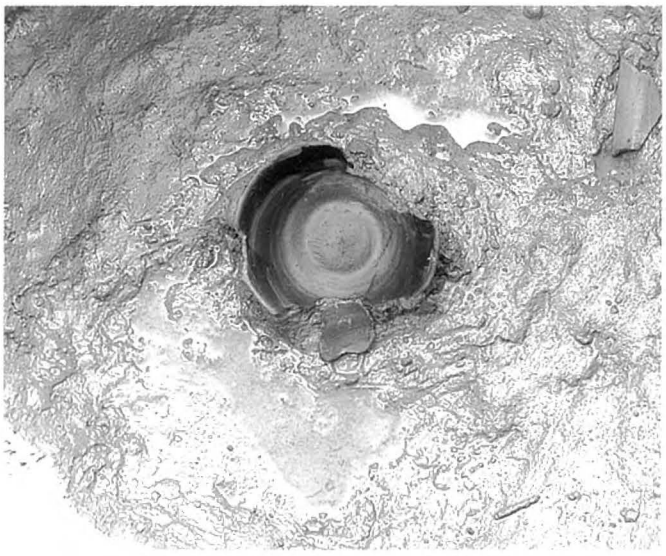
SD - 127 号土玉出土状況（南西から）



SD - 128 号全景（南東から）

SD - 129 号全景（南東から）

SK - 130 号遺物出土状況（北から）



SH - 131 号遺物出土状況（北から）

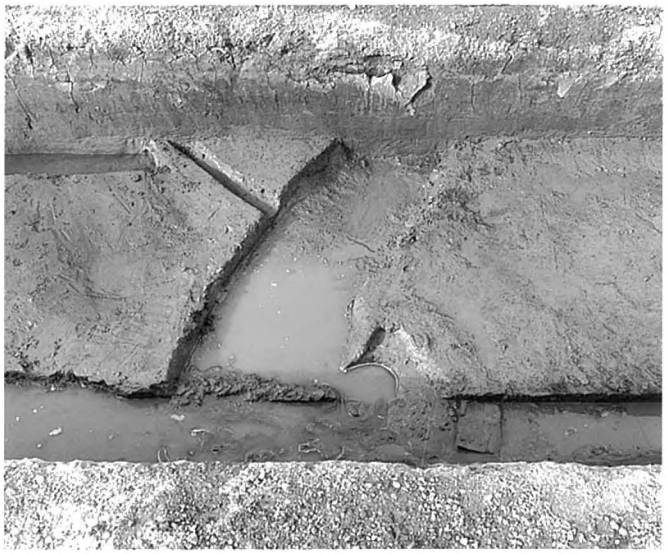
SD - 134 号全景（南から）

SD - 135 号全景

SD - 137 号全景

SH - 138・139・140・141・142・143・144 号（東から）

SD - 150 号全景（東から）

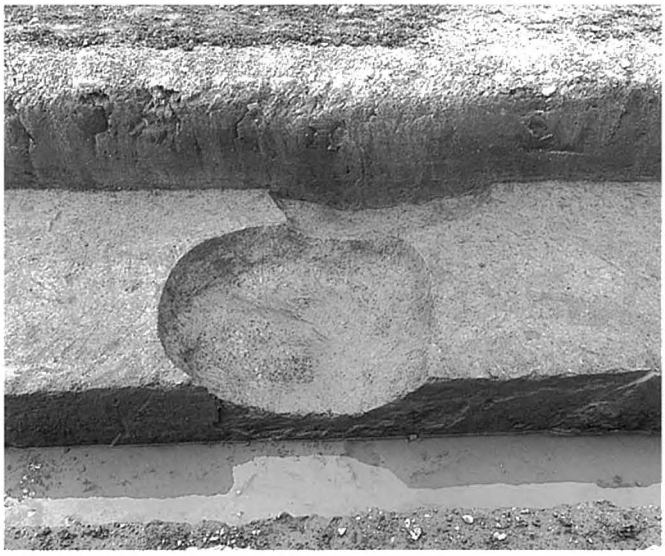


SD - 151 号全景（東から）

SK - 153 号全景（東から）

SK - 154 号遺物出土状況（西から）

SK - 155・159 号全景（東から）



SK - 158・161 号全景

SK - 160， SD - 162 号全景

SI-005

SI-005-1

SI-005-2

SI-005-3

SI-005-4

SI-005-5

SI-005-6

SI-005号出土遺物

SI-005-7

SI-005-8

SI-005-9

SI-005-10

SI-005-11

SD-004-2

SE-007-2

SE-007-3

SD-008-1

SD-008-2

SD-008-3

SD-008-4

SD-008-5

SD-008-6

SD-008-7

出土遺物（1）

SD-008-8

SD-035-1

SK-057-1

SD-089-1

SD-105-1

SD-105-2

SD-105-3

SD-107-1

SD-108-1

SD-108-2

SD-108-3

SD-109-1

SD-109-2

SD-109-3

SK-130-1

出土遺物（2）

SK-131-1

SK-154-1

SK-155-2

SK-130-2

SK-155-1

SK-155-3

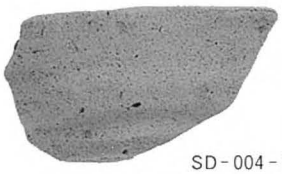
5A-24

5A-53

5A-75

SK-003-2

SK-003-1



SD-004-1

SE-007-1

出土遺物（3）

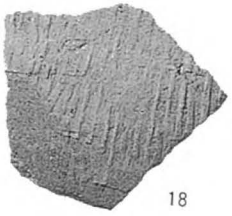
5A-34

6A-43

2B-72

遺構外出土遺物

17


18

19

20

21

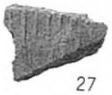
22

23

24

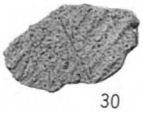
25

26


27

28

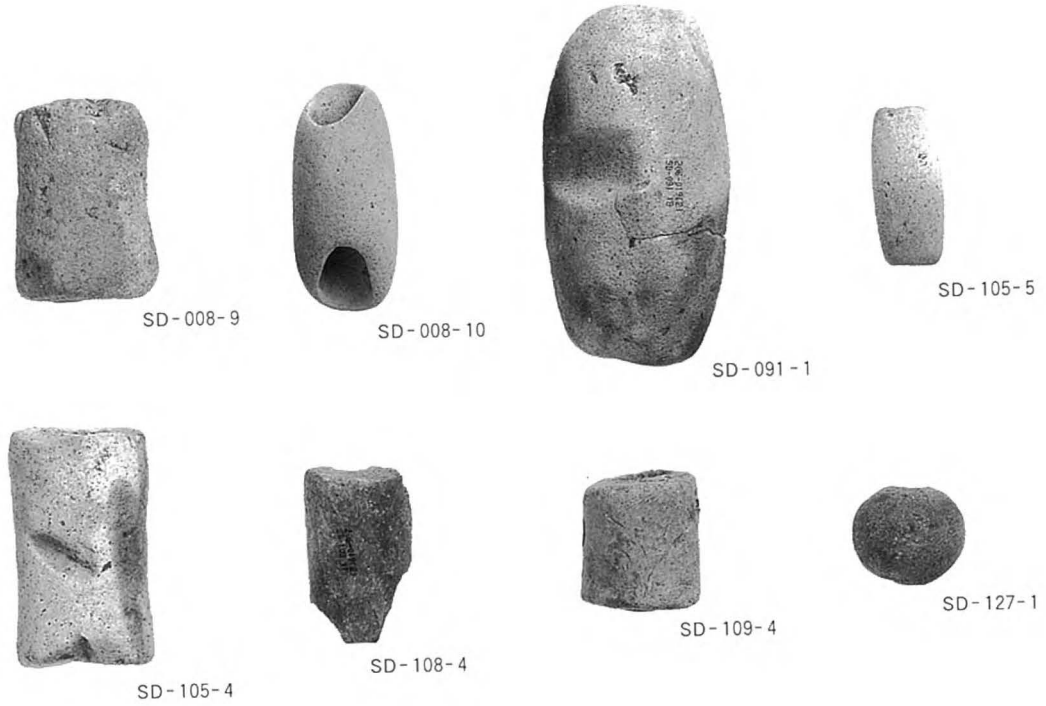
29


30

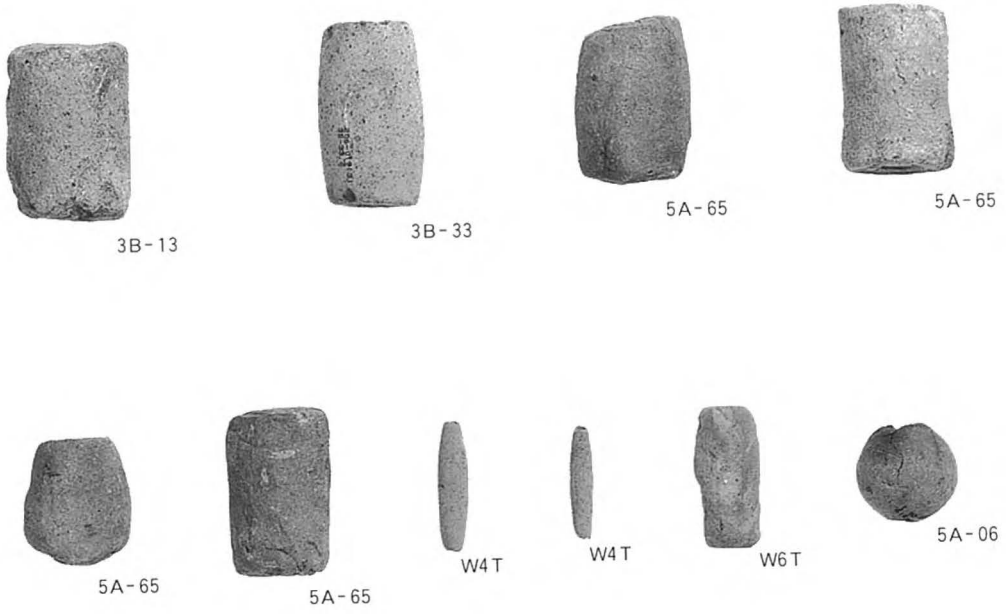
31

32

出土須恵器




出土土製品（1）




出土土製品（2）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | きさらづし　たむかいいせき |
| 書名 | 木更津市田向遺跡 |
| 副書名 | 県単道路改良(幹線)委託埋蔵文化財調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 財団法人千葉県文化財センター調査報告 |
| シリーズ番号 | 第503集 |
| 編著者名 | 土屋治雄 |
| 編集機関 | 財団法人　千葉県文化財センター |
| 所在地 | 〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2　　TEL 043-422-8811 |
| 発行年月日 | 西暦2005年3月24日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 経緯度<br>北緯 | 経緯度<br>東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| たむかいいせき<br>田向遺跡 | ちばけんきさらづしえがわ<br>千葉県木更津市江川<br>986ほか | 206 | 019 | 35度<br>24分<br>20秒 | 139度<br>55分<br>18秒 | 19991001～<br>19991130<br>20000901～<br>20001012<br>20021101～<br>20021225 | 2,448m²<br>1,100m²<br>1,531m² | 道路建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺跡 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 田向遺跡 | 集落跡<br>生産跡<br><br>集落跡 | 古墳時代<br><br><br>奈良・平安<br>以降<br><br><br><br><br>近世 | 竪穴住居跡　3軒<br>土坑　11基<br>溝状遺構　14条<br>掘立柱建物跡　1基<br>井戸状遺構　3基<br>土坑　29基<br>溝状遺構　38条<br>水田跡　2面<br>畑跡　2か所<br>柱穴　85基 | 土師器，須恵器，管玉，<br>土玉，管状土錘<br>磨製石斧<br>土師器，須恵器，管状<br>土錘<br><br><br><br><br>陶器 | 標高1m～2mの低地に<br>集落が営まれている。 |

千葉県文化財センター調査報告第503集

木更津市田向遺跡

－県単道路改良(幹線)委託埋蔵文化財調査報告書－

平成17年３月24日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　　千葉県県土整備部
千葉県千葉市中央区市場町1-1
財団法人　千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2

印　　刷　　大和美術印刷株式会社
千葉県木更津市潮浜2-1-10